

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録



marantz®

AV Surround Receiver
SR6015

フロントパネル

ディスプレイ

リアパネル

リモコン

索引



取扱説明書

付属品	8
乾電池の入れかた	9
リモコンの使いかた	9
特長	10
高音質	10
多彩な機能	12
簡単操作	16
各部の名前	17
フロントパネル	17
ディスプレイ	21
リアパネル	23
リモコン	27

接続のしかた

スピーカーを設置する	31
スピーカーを接続する	38
スピーカーを接続する前に	38
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定	42
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する	44
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する	45
9.1 チャンネルのスピーカーを接続する	49
11.1 チャンネルのスピーカーを接続する	56
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーのバイアンプ接続	60
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：2 台目のフロントスピーカーの接続	61
マルチゾーンのスピーカーを接続する	62
外部のパワーアンプを接続する	64
テレビを接続する	65
接続 1：HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ	66
接続 2：HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ	67
接続 3：HDMI 端子がないテレビ	68



再生機器を接続する	69
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ ケーブルテレビチューナー)	70
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤー を接続する	71
8K 対応のプレーヤーを接続する	72
ビデオカメラやゲーム機などを接続する	73
レコードプレーヤーを接続する	74
マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する	75
USB 端子に USB メモリーを接続する	76
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	77
ホームネットワーク(LAN)に接続する	79
有線 LAN	79
無線 LAN	80
外部のコントロール機器を接続する	81
リモートコントロール端子	81
DC OUT 端子	82
電源コードを接続する	83

再生のしかた

基本操作	85
電源を入れる	85
入力ソースを選ぶ	85
音量を調節する	86
一時的に音を消す(ミュート)	86
DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再 生する	86
USB メモリーを再生する	87
USB メモリーに保存されているファイルを再生する	88
Bluetooth 機器の音楽を聴く	91
Bluetooth 機器の音楽を聴く	92
2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする	93
Bluetooth 機器から本機に再接続する	94
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	95
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	96
Bluetooth ヘッドホンに再接続する	97
Bluetooth ヘッドホンを切断する	97



FM 放送または AM 放送を聴く	98	便利な機能	125
FM 放送または AM 放送を聴く	99	HEOS お気に入り追加する	126
周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)	100	HEOS お気に入りを再生する	126
受信モードを変更する(チューニングモード)	101	HEOS お気に入りを削除する	127
自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)	101	入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)	128
聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)	102	トーンを調節する(トーンコントロール)	129
プリセットした放送局を聴く	102	音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)	130
プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)	103	視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)	131
プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)	104	すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)	132
プリセットスキップを解除する	105	リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)	133
インターネットラジオを聴く	106	サウンドモードを選ぶ	134
インターネットラジオを聴く	107	サウンドモードを選ぶ	135
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	108	ダイレクト再生	136
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	109	ピュアダイレクト再生	136
HEOS アプリをダウンロードする	112	オートサラウンド再生	137
HEOS アカウント	113	サウンドモードの種類について	138
ストリーミング音楽サービスを再生する	114	入力信号ごとに選択できるサウンドモード	143
同じ音楽を複数の部屋で聴く	117	HDMI コントロール機能	148
AirPlay 機能	121	設定のしかた	148
iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する	122	スマートメニュー機能	149
iTunes の曲を本機で再生する	122	スリープタイマー機能	151
iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2)	123	スリープタイマーを設定する	152
Spotify Connect 機能	124		
Spotify の曲を本機で再生する	124		



スマートセレクト機能	153
設定を呼び出す	154
設定を変更する	155
フロントキーロック機能	156
すべてのボタン操作を無効にする	156
VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする	156
フロントキーロック機能を解除する	157
リモートロック機能	158
リモコンの受信機能を無効にする	158
リモコンの受信機能を有効にする	158
ウェブコントロール機能	159
ウェブコントロール機能で本機をコントロールする	159
ゾーン2(別の部屋)での再生	161
ゾーン2の接続	161
ゾーン2で再生する	164

設定のしかた

メニュー一覧	166
メニュー操作のしかた	170

オーディオ	171
センターレベルの調節	171
サブウーハーレベルの調節	171
サラウンドパラメーター	172
M-DAX	177
オーディオディレイ	178
音量	179
バイリンガルモード	180
Audyssey®	180
グラフィック EQ	183
ビデオ	185
画質調整	185
HDMI 設定	187
ビデオ出力の設定	192
オンスクリーンディスプレイ	196
スクリーンセーバー	197
4K/8K 信号フォーマット	197
HDCP 設定	199
TV フォーマット	199
入力ソース	200
入力端子の割り当て	200
入力ソース名の変更	203
使用ソースの選択	203
ソースレベル	203



スピーカー	204	HEOS アカウント	238
Audyssey®セットアップ	204	サインインしていない場合	238
スピーカー設定の流れ(Audyssey®セットアップ)	206	サインインしている場合	238
エラーメッセージについて	212	一般	239
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき	214	言語	239
マニュアルセットアップ	215	エコ設定	239
アンプの割り当て	215	Bluetooth 送信	243
スピーカー構成	222	ゾーン 2 の設定	244
距離	226	ゾーン名の変更	246
レベル	227	スマートセレクト名の変更	246
クロスオーバー周波数	228	トリガーアウト	247
低音	229	フロントディスプレイ	247
フロントスピーカー	230	ファームウェア	248
スピーカープリセット	230	情報	251
ネットワーク	231	使用状況の送信設定	253
情報	231	セーブ&ロード	253
接続	231	セットアップロック	254
Wi-Fi 設定	232	初期化	254
詳細な設定	234	リモコンで操作するゾーンを限定する	255
ネットワークコントロール	236		
フレンドリーネーム	236		
診断	237		
AirPlay	237		



困ったときは

こんなときの解決方法	257
故障かな？と思ったら	259
電源が入らない / 電源が切れる	260
リモコンで操作ができない	261
本機のディスプレイが表示されない	261
音がまったく出ない	262
希望する音が出ない	263
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	266
テレビに映像が映らない	267
テレビにメニュー画面が表示されない	269
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる	269
AirPlay 再生ができない	270
USB メモリーが再生できない	271
Bluetooth が再生できない	272
インターネットラジオが再生できない	274
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	275
各種オンラインサービスが再生できない	276
HDMI コントロール機能が動作しない	276
無線 LAN ネットワークに接続できない	277
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	278
アップデート/アップグレードエラーメッセージ	279

お買い上げ時の設定に戻す	280
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す	281
お買い上げ時のファームウェアに復元する	282
保証と修理について	283

付録


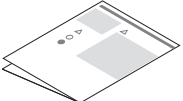
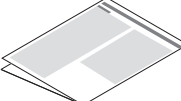
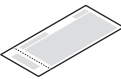
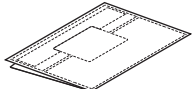




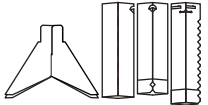
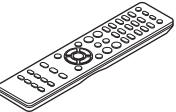


HDMI について	285
ビデオコンバージョン機能	289
USB メモリーの再生について	291
Bluetooth 機器の再生について	292
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について	293
インターネットラジオの再生について	294
パーソナルメモリープラス機能	294
ラストファンクションメモリー	294
用語の解説	295
登録商標について	305
主な仕様	307
使用上のご注意	313
索引	314



お買い上げいただきありがとうございます。
 本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
 お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

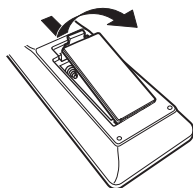
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

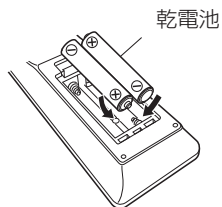
				
かんたんスタートガイド	安全にお使いいただくために	電波に関するご注意	保証書	ケーブルラベル
				
電源コード 【本機専用】	FM室内アンテナ	AMループアンテナ	セットアップマイク	マイクスタンド
				
リモコン (RC042SR)	単4形乾電池 (2本)	Bluetooth/ 無線LAN用外部アンテナ (2本)		

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



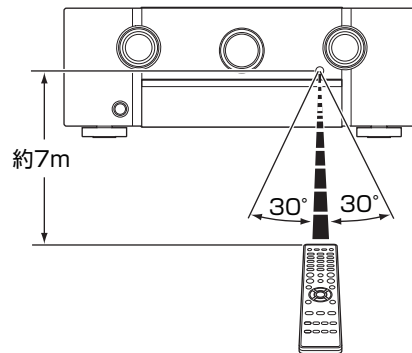
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

• 9チャンネルディスクリート・パワーアンプ搭載

全チャンネル同一構成のディスクリート・パワーアンプを搭載し、チャンネルあたり 110W(8Ω, 20Hz~20kHz, T.H.D.: 0.08%, 2チャンネル駆動)の大出力を実現しています。インピーダンスの低いスピーカーも駆動できるため、幅広いスピーカーに対して安定して動作し、バランスの良い高品位なサウンドを再生します。

• 電流帰還アンプ搭載

本機には高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、ブルーレイディスクプレーヤーなどの HD オーディオ対応機器からの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

• Dolby Atmos 搭載(174ページ)

本機は、Dolby Atmos に対応したデコーダーを搭載しています。オーバーヘッドスピーカーの追加により、音の定位または移動をより正確に再現し、これまで以上に自然でリアルなサラウンド音場を体験することができます。

• スピーカーバーチャライザー機能搭載(174ページ)

スピーカーバーチャライザー機能は、Dolby Atmos のハイトバーチャライザーやサラウンドバーチャライザーのデジタル信号処理をおこなうことで、オーバーヘッドスピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカーの設置環境においても、より臨場感のあるエンタテインメント体験をお楽しみいただけます。

- ハイトスピーカーとサラウンドスピーカーの両方を接続している場合、スピーカーバーチャライザー機能は使用できません。
- サラウンドスピーカーが接続されている場合でも、ハイトバーチャライザーを適用します。

• DTS:X 搭載(299ページ)

本機は、DTS:X デコーダー技術を搭載しています。DTS:X は従来のチャンネルベース方式のサウンドフォーマットに対し、音像の移動感を表現するオブジェクト信号を付加したサウンドフォーマットです。オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報を再生環境に合わせてリアルタイムに演算して出力するため、どのような再生環境でも最適化された豊かで臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。



• DTS Virtual:X 搭載 (P.299 ページ)

DTS Virtual:X 技術は、DTS 独自のバーチャルハイトとバーチャルサラウンド処理を採用しており、あらゆる入カソース(ステレオから 7.1.4 チャンネルまで対応)やスピーカー構成で臨場感あふれるサウンド体験を提供します。

- ハイトスピーカーを接続している場合、DTS Virtual:X は使用できません。

• IMAX Enhanced 機能搭載 (P.299 ページ)

本機は IMAX と DTS によって確立された映像・音声の性能の基準を満たしています。IMAX サウンドを DTS 社が開発した DTS コーデックを利用して独自変換し、ご家庭で IMAX シアターサウンドを体験することができます。IMAX シアターのオーディオフォーマットは家庭用のスピーカー構成と互換性があり、5.1 チャンネル以上のスピーカーを使用すると最適な IMAX サウンドをお楽しみいただけます。

• Audyssey LFC™ (Low Frequency Containment) 搭載 (P.183 ページ)

Audyssey LFC™ は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理学的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

• 独立した 2 本のサブウーハー出力と Audyssey Sub EQ HT™ 搭載 (P.205 ページ)

本機は、独立した 2 本のサブウーハー出力を備え、音量レベルとリスナーまでの距離をそれぞれ個別に設定できます。さらに、本機搭載の Audyssey Sub EQ HT™ は、2 本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。



多彩な機能

• 8K 対応 HDMI 端子

本機は 7 系統の HDMI 入力端子と 3 系統の HDMI 出力端子を装備しています。

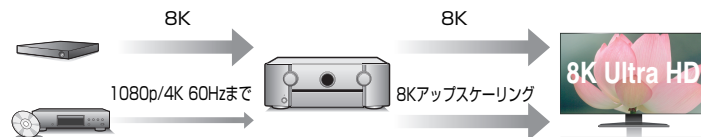
そのうちの 1 系統は 8K/60Hz および 4K/120Hz パススルー対応の専用端子を装備。7 入力/3 出力すべての HDMI 端子が最新の映像コンテンツに対する著作権保護技術「HDCP 2.3」をサポートしています。

更には映像体験を革新する HDMI の最新機能(HDR10+ / Dynamic HDR / HDR10 / Dolby Vision / HLG / BT.2020 / VRR / QMS / QFT / ALLM / eARC)をサポートしています。また、入力されたビデオ信号を 8K 解像度にアップスケーリングして出力することができます。

• HDCP 2.3

本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.3 に対応しています。

- SD(解像度)信号や HD(720p/1080p)/4K 信号を 8K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサ搭載



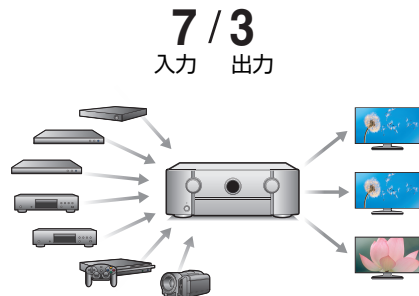
本機には、SD (Standard Definition)または HD (High Definition)/4K 60Hz 映像を 8K(7680×4320 ピクセル)の解像度にして HDMI への出力を可能にする 8K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも高精細な映像を再現することができます。

- **ゾーン 2 用の HDMI 出力を装備**(P.161 ページ)

本機はゾーン 2 の部屋でも映像と音声が楽しめるゾーン 2 用の HDMI 出力を装備し、メインゾーンとは異なる映像ソースをお楽しみいただけます。



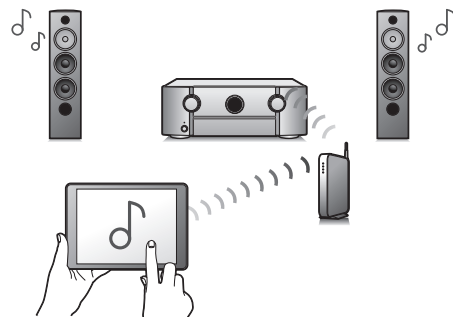
- さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備 (入力:7 系統、出力:3 系統)



本機には 7 系統の HDMI 入力端子と 3 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。また、本機は同時出力可能なメインゾーン用の 2 系統出力にマルチゾーン出力を加えた 3 系統の HDMI 出力を装備しており、ゾーン 2 ではメインゾーンで再生中のソースとは別のソースを楽しむことができます。

- eARC (Enhanced Audio Return Channel) 機能に対応**
eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応していたオーディオフォーマットに加え、ARC 機能で対応していなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。
また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。

- インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay®機能を搭載(121 ページ)



インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、さまざまな再生をお楽しみいただけます。

また、本機は AirPlay 機能を搭載していますので、ネットワークを通して iPhone® や iPad®、iPod touch®、iTunes®の音楽を本機で再生できます。

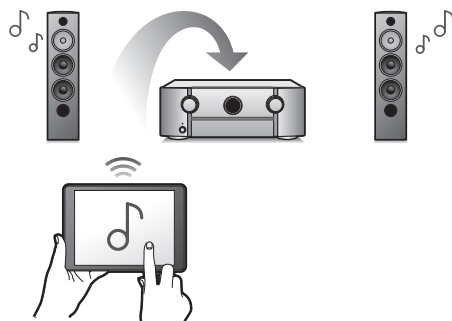
- ワイヤレスオーディオ技術™ AirPlay 2®に対応**
複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。
本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。



- USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生

高解像度のオーディオフォーマットである DSD(5.6MHz)や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。

- 簡単に Bluetooth 機器とのワイヤレス接続が可能(91 ページ)

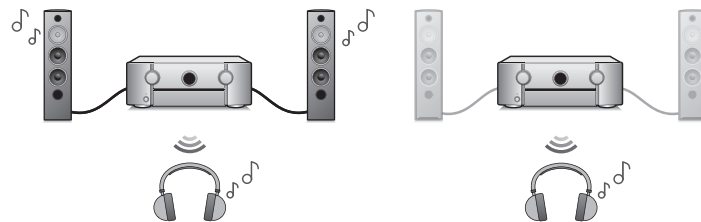


お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

- Bluetooth ヘッドホン対応

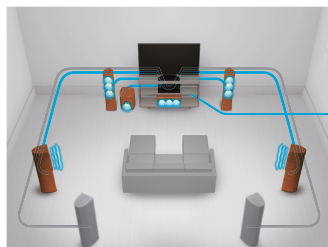
本機で再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴くことができます。

ご使用の環境に合わせて、スピーカーと Bluetooth ヘッドホンの音声を同時に再生したり、Bluetooth ヘッドホンのみの音声を再生したりすることができます。

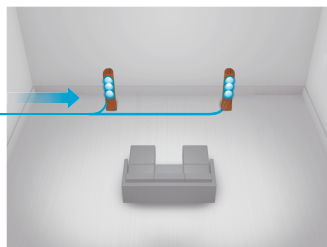


- マルチルームでの音声再生に対応(☞ 132 ページ)

【メインゾーン】



【ゾーン 2】



メインゾーンおよびゾーン 2 でそれぞれの入力を選択して再生できます。

また、All Zone Stereo 機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

- 省エネ設計

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時自動的に電源をオフにするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

- iPad、iPhone や Android™機器 (Google、Amazon Kindle Fire) で本機の基本的な操作がおこなえる“Marantz 2016 AVR Remote”アプリ * に対応

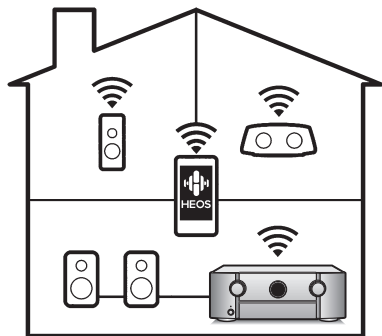


多くの新機能を追加し、画面デザインやユーザーインターフェースも一新しました。スマートフォンやタブレットから本機の詳細設定が可能なセットアップメニューにアクセスしてコントロールすることができます。“Marantz 2016 AVR Remote”アプリは本機のステータスやメニューの表示、Marantz 製ブルーレイディスクプレーヤーのコントロールや WEB マニュアルへのアクセスなどを提供します。

- * “Marantz 2016 AVR Remote”アプリを iOS や Android 機器にダウンロードしてください。(無料)本機を LAN 接続し、iPad、iPhone や Android™機器を同じネットワーク上にある Wi-Fi (無線 LAN) に接続する必要があります。



- お気に入りのオンラインミュージックソースからストリーミング音楽を提供



本機は、お気に入りの音楽をご家庭内のどこにいても楽しむことができる、HEOS 無線マルチルームサウンドシステムの一部です。ホームネットワークと HEOS アプリ (iOS、Android および Amazon 機器で利用可能) を利用して、ご自身の音楽ライブラリや多数のオンラインミュージックサービス内の音楽を再生できます。

また、複数の HEOS 機能搭載機器が同じネットワークに接続されている場合、すべての機器をグループ化して同じ音楽を同時に再生したり、それぞれの機器で別々の音楽を再生したりすることができます。

簡単操作

- 基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー
最初に言語選択画面で言語を選択します。テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- 操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース
本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット



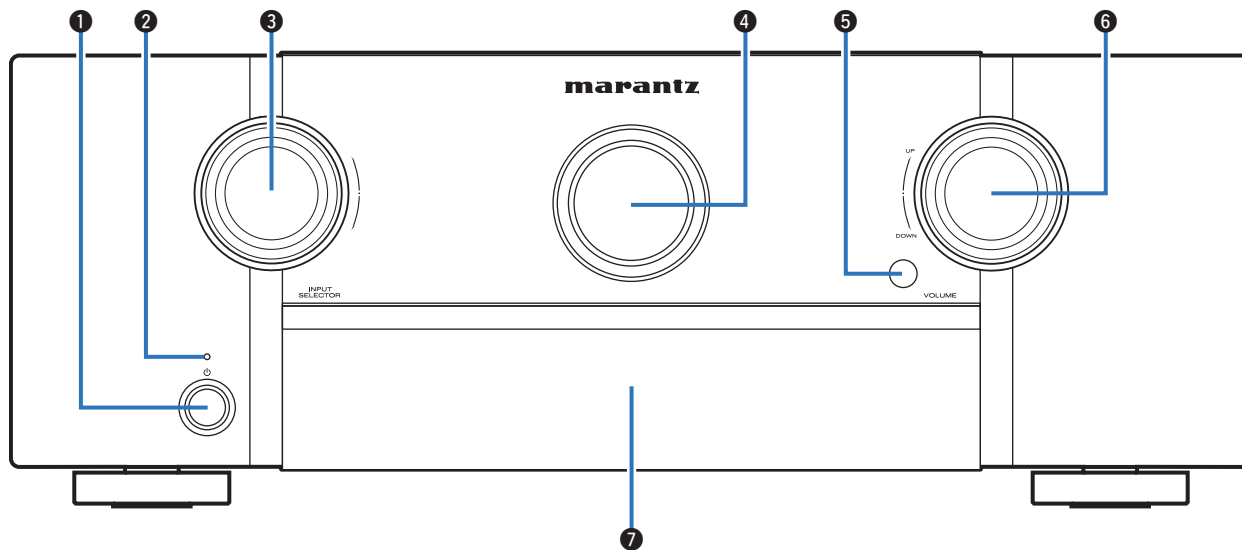
音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

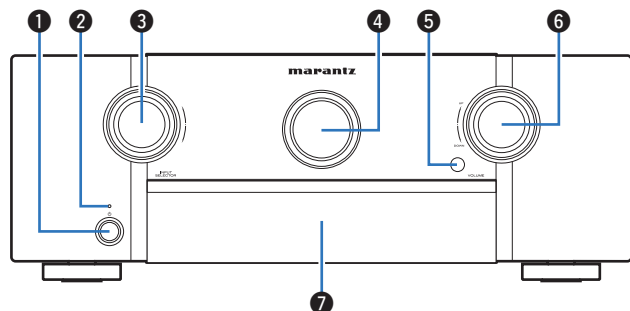


各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



① 電源ボタン(⏻)

メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(P.85 ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 消灯: 電源オン時
- 赤色: 通常のスタンバイ時
- 橙色:
 - “HDMI パススルー”の設定が“オン”のとき (P.187 ページ)
 - “HDMI コントロール”の設定が“オン”のとき (P.189 ページ)
 - “ネットワークコントロール”の設定が“常時オン”のとき (P.236 ページ)

③ 入力ソース選択つまみ(INPUT SELECTOR)

入力ソースを選択します。(P.85 ページ)

④ ディスプレイ

各種情報を表示します。(P.21 ページ)

⑤ リモコン受光部

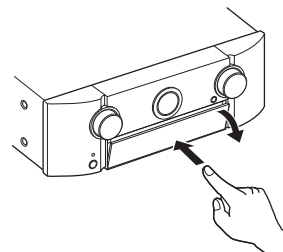
リモコンからの信号を受信します。(P.9 ページ)

⑥ 音量調節つまみ(VOLUME)

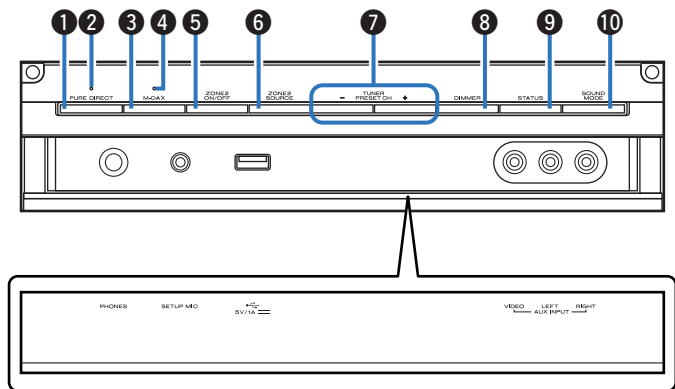
音量を調節します。(P.86 ページ)

⑦ ドア

ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押し、ドアが開きます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。



ドアを開いた状態



① ピュアダイレクトモードボタン(PURE DIRECT)

サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”および“Auto”に切り替えます。

- 「ダイレクト再生」(☞136 ページ)
- 「ピュアダイレクト再生」(☞136 ページ)
- 「オートサラウンド再生」(☞137 ページ)

② ピュアダイレクト表示(PURE DIRECT)

サウンドモードが“Pure Direct”のときに点灯します。(☞136 ページ)

③ M-DAX モード切り替えボタン

M-DAX モードを切り替えます。(☞177 ページ)

④ M-DAX 表示

M-DAX モードのときに点灯します。(☞177 ページ)

⑤ ゾーン 2 用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)

ゾーン 2 (別の部屋) の電源をオン/オフします。(☞164 ページ)

⑥ ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン(ZONE2 SOURCE)

ゾーン 2 (別の部屋) の入力ソースを選択します。(☞164 ページ)

⑦ チューナープリセットチャンネルボタン (TUNER PRESET CH +, -)

プリセットした放送局を選択します。(☞102 ページ)

⑧ ディマーボタン(DIMMER)

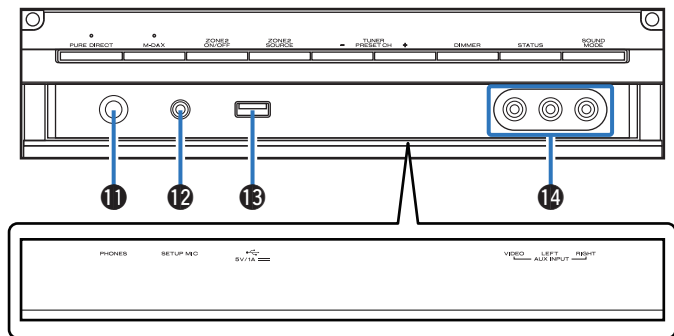
ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞247 ページ)

⑨ ステータスボタン(STATUS)

ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。

⑩ サウンドモード切り替えボタン(SOUND MODE)

サウンドモードを切り替えます。(☞134 ページ)



⑪ ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびリアアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⑫ セットアップマイク端子(SETUP MIC)

付属のセットアップマイクを接続します。(☞207 ページ)

⑬ USB 端子(USB)

USB ストレージ(USB メモリーなど)を接続します。(☞76 ページ)

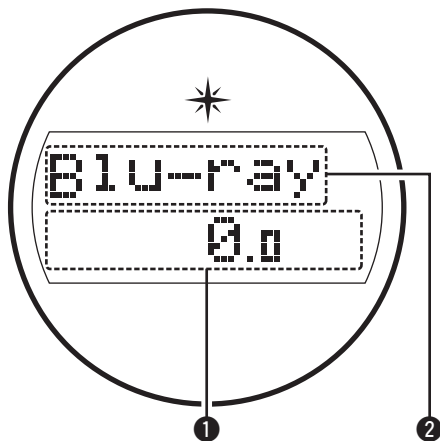
⑭ AUX 入力端子(AUX INPUT)

アナログ出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。(☞73 ページ)

ディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値など、さまざまな情報を表示します。

■ 通常表示



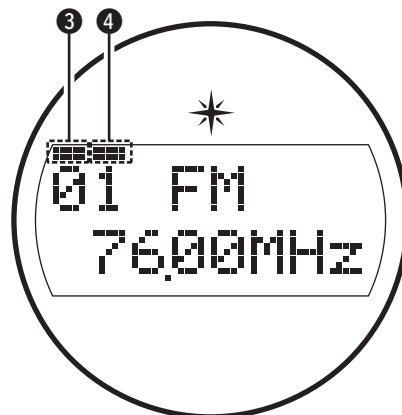
① 音量表示

② 入力ソース表示

現在選択されている入力ソース名を表示します。
メニューの“入力ソース名の変更”で入力ソース名を変更した場合は、変更後の入力ソース名を表示します。(P.203 ページ)

■ チューナー表示

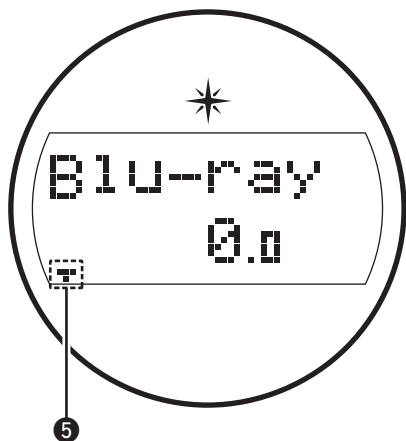
入力ソースが“Tuner”のとき、放送局の受信状態により点灯します。



③ 放送局を受信したときに点灯します。

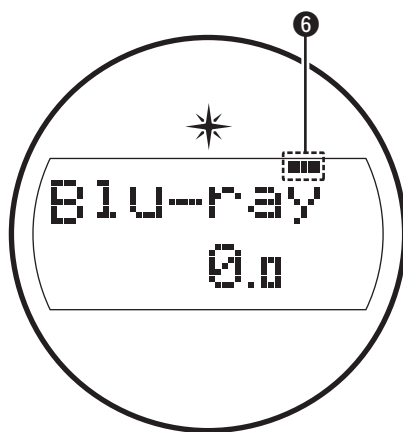
④ FM モードでは、ステレオ放送を受信したときに点灯します。

■ スリープタイマー表示



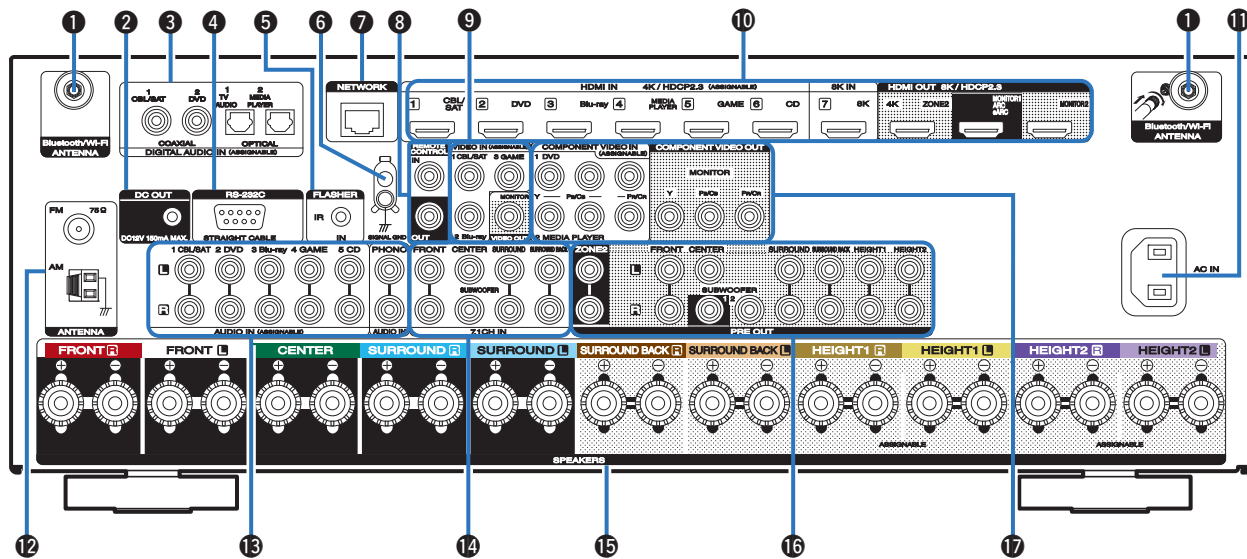
- 5 スリープタイマーを設定しているときに点灯します。(☞151ページ)

■ ゾーン2電源表示



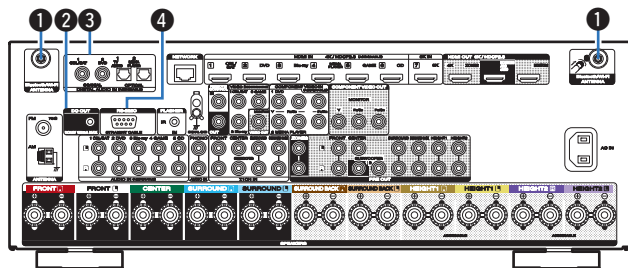
- 6 ゾーン2(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します。(☞164ページ)

リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。

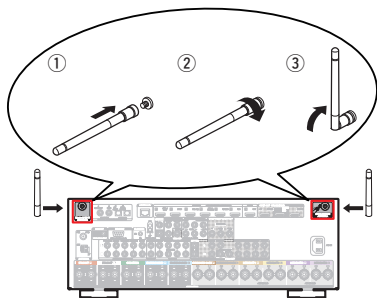




① Bluetooth/無線 LAN 用アンテナ端子

Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、この端子に付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを接続してご使用ください。(☞80 ページ)

- ① Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルのアンテナ端子と水平に合わせる。
- ② アンテナを右に回してしっかり締める。
- ③ 最も受信状態が良い向きにアンテナを回転させる。



② DC OUT 端子

トリガー機能対応の機器を接続します。(☞82 ページ)

③ デジタルオーディオ端子(DIGITAL AUDIO)

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「接続 2:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞67 ページ)
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞68 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞70 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)

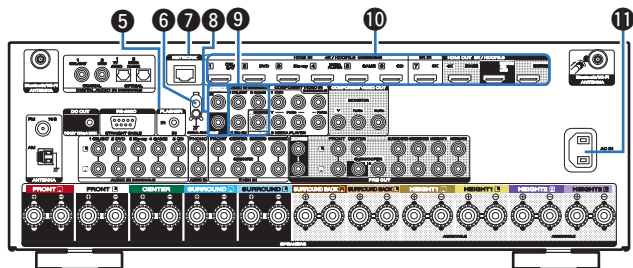
④ RS-232C 端子

RS-232C シリアル端子付きのホームオートメーションコントローラー機器を接続します。本機のシリアルコントロールについての詳細は、ホームオートメーションコントローラー機器の取扱説明書をご覧ください。

あらかじめ次の確認をしてください。

- ① 本機の電源を入れる。
- ② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
- ③ 本機がスタンバイ状態になる。





⑤ FLASHER IN 端子

コントロール BOX やその他のコントロール機器を接続して、本機をコントロールするときには使用します。

⑥ アース端子(SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。(☞74 ページ)

⑦ ネットワーク端子(NETWORK)

有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(☞79 ページ)

⑧ リモートコントロール端子(REMOTE CONTROL)

メインゾーン以外の部屋から本機や外部機器を操作するため、赤外線受信機や送信機を接続します。(☞81 ページ)

⑨ ビデオ端子(VIDEO)

ビデオ端子付きの機器を接続します。

- 「接続 3: HDMI 端子がないテレビ」(☞68 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞70 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)

⑩ HDMI 端子

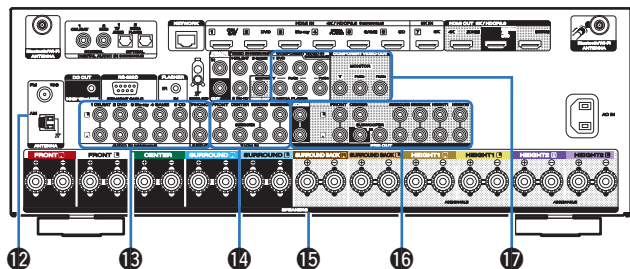
HDMI 端子付きの機器を接続します。

- 「接続 1: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ」(☞66 ページ)
- 「接続 2: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞67 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞70 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)
- 「8K 対応のプレーヤーを接続する」(☞72 ページ)

⑪ AC インレット(AC IN)

電源コードを接続します。(☞83 ページ)





12 FM/AM アンテナ端子 (ANTENNA)

FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(☞77 ページ)

13 アナログオーディオ端子 (AUDIO)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「セットトップボックスを接続する (衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞70 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(☞74 ページ)

14 7.1 チャンネル入力端子 (7.1 CH IN)

マルチチャンネル音声出力端子付きの機器を接続します。(☞75 ページ)

15 スピーカー端子 (SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(☞38 ページ)

16 プリアウト端子 (PRE OUT)

アンプ内蔵のサブウーハーや外部パワーアンプを接続します。

- 「サブウーハーを接続する」(☞39 ページ)
- 「11.1 チャンネルのスピーカーを接続する」(☞56 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(☞64 ページ)
- 「ゾーン 2 の接続」(☞161 ページ)

17 コンポーネントビデオ端子 (COMPONENT VIDEO)

コンポーネントビデオ端子付きの機器を接続します。

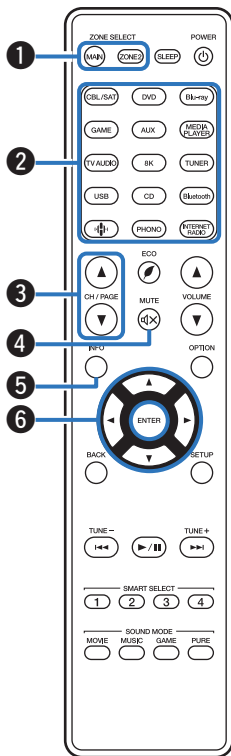
- 「接続 3: HDMI 端子がないテレビ」(☞68 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)

ご注意

- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。



リモコン



① ゾーン選択ボタン(ZONE SELECT)

リモコンで操作するゾーン(メインゾーンまたはゾーン 2)を選択します。

- 「ゾーン 2 で再生する」(P.164 ページ)
- 「メニュー操作のしかた」(P.170 ページ)

② 入力ソース選択ボタン

入力ソースを選択します。

- 「入力ソースを選ぶ」(P.85 ページ)
- 「ゾーン 2 で再生する」(P.164 ページ)

③ チャンネル選択/ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)

プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。(P.102 ページ)

④ ミュートボタン(MUTE ㊦)

消音します。

- 「一時的に音を消す(ミュート)」(P.86 ページ)
- 「一時的に音を消す(ミュート)(ゾーン 2)」(P.165 ページ)

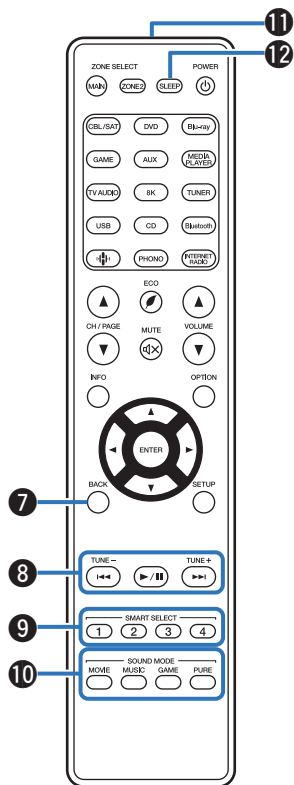
⑤ インフォメーションボタン(INFO)

ステータス情報をテレビ画面に表示します。(P.252 ページ)

⑥ カーソルボタン(▲▼◀▶)

項目を選択します。





7 バックボタン(BACK)

ひとつ前の画面に戻ります。

8 システムボタン

再生に関する操作をします。

選局ボタン(TUNE +, -)

FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞99 ページ)

9 スマートセレクトボタン(SMART SELECT 1~4)

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。(☞153 ページ)

10 サウンドモードボタン(SOUND MODE)

サウンドモードを選択します。(☞134 ページ)

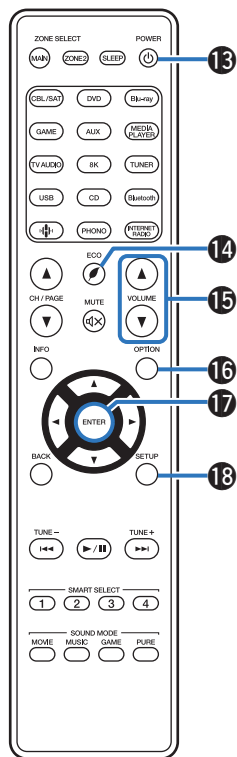
11 リモコン信号送信窓

リモコンの信号を送信します。(☞9 ページ)

12 スリープタイマーボタン(SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(☞151 ページ)





13 電源ボタン(POWER)

電源をオン/オフします。

- 「電源を入れる」([P.85](#) ページ)
- 「ゾーン 2 で再生する」([P.164](#) ページ)

14 エコモードボタン(ECO)

エコモードを切り替えます。([P.239](#) ページ)

15 音量調節ボタン(VOLUME)

音量を調節します。

- 「音量を調節する」([P.86](#) ページ)
- 「音量を調節する(ゾーン 2)」([P.165](#) ページ)

16 オプションボタン(OPTION)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。

17 エンターボタン(ENTER)

選択した内容を確定します。

18 セットアップボタン(SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。([P.170](#) ページ)

目次




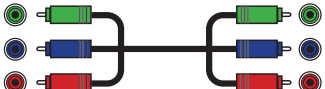





スピーカーを設置する	31
スピーカーを接続する	38
テレビを接続する	65
再生機器を接続する	69
USB 端子に USB メモリーを接続する	76
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	77
ホームネットワーク (LAN) に接続する	79
外部のコントロール機器を接続する	81
電源コードを接続する	83

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の 9 ページ) メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

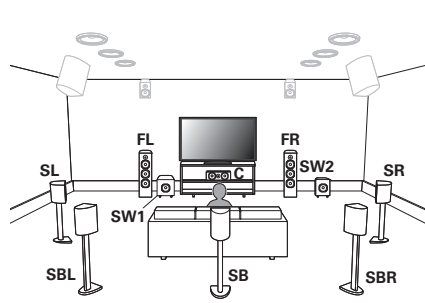
接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
コンポーネントビデオケーブル	
ビデオケーブル	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	

スピーカーを設置する

ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。例として、代表的な設置方法を説明します。



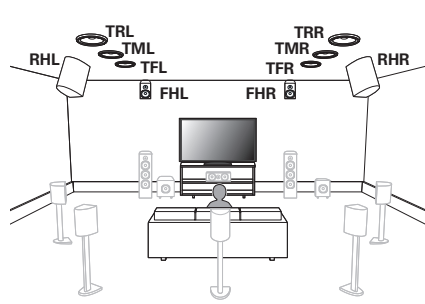
FL/FR
(フロントスピーカー左/右): フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。

C
(センタースピーカー): センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間に設置します。テレビの上または下側に設置してください。

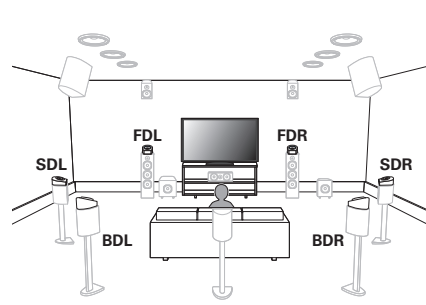
SL/SR
(サラウンドスピーカー左/右): サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。

SBL/SBR
(サラウンドバックスピーカー左/右): サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを1台使用する場合は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。

SW 1/2
(サブウーハー): サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを2台使用する場合は、部屋の前方に左右非対称となるように設置してください。



FHL/FHR (フロントハイトスピー カー左/右):	フロントハイト左右スピーカーはフロントスピー カーの真上に設置します。できるだけ天井 に近い高さで、リスニングポイントを向くよう に設置してください。
TFL/TFR (トップフロントスピー カー左/右):	トップフロント左右スピーカーは視聴位置から 前方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロ ント左右スピーカーと合わせてください。
TML/TMR (トップミドルスピーカ ー左/右):	トップミドル左右スピーカーは視聴位置の真上 の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント 左右スピーカーと合わせてください。
TRL/TRR (トップリアスピーカ ー左/右):	トップリア左右スピーカーは視聴位置から後方 の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント 左右スピーカーと合わせてください。
RHL/RHR (リアハイトスピーカ ー左/右):	リアハイト左右スピーカーはできるだけ天井に 近い高さで、視聴位置から後方に設置します。左 右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせ てください。



FDL/FDR
(フロント Dolby スピーカー左/右):

フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーをフロントスピーカーの上に置いてください。フロントスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、フロントスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

SDL/SDR
(サラウンド Dolby スピーカー左/右):

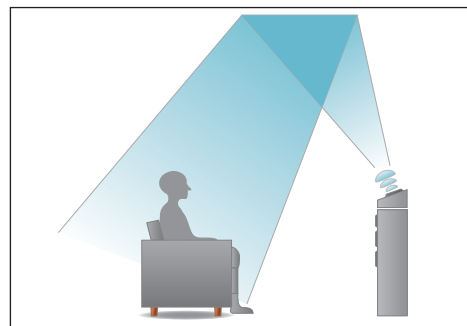
サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドスピーカーの上に置いてください。サラウンドスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

BDL/BDR
(バック Dolby スピーカー左/右):

バック Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドバックスピーカーの上に置いてください。サラウンドバックスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドバックスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

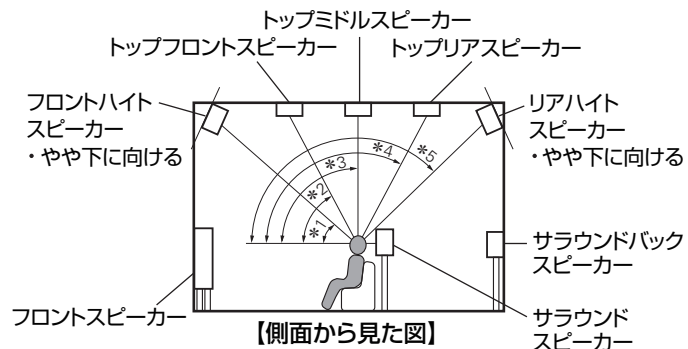
Dolby Atmos Enabled スピーカーについて

Dolby Atmos Enabled スピーカーは上向きの特長なスピーカーを床面に設置することで、出力された音声を天井で反射させて上方から音声が聴こえるようにするスピーカーです。天井にスピーカーが設置できない環境でも、Dolby Atmos の 3D サウンドを楽しむことができます。



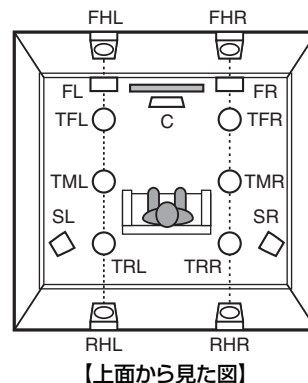


- 本機はサラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Atmos および DTS:X に対応しています。
- スピーカー構成が 5.1 チャンネル以下で Dolby Atmos を再生する場合は、メニューの“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定してください。(P.174 ページ)
- IMAX DTS:X および DTS:X は、スピーカーの構成に関わらず使用できます。
- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。

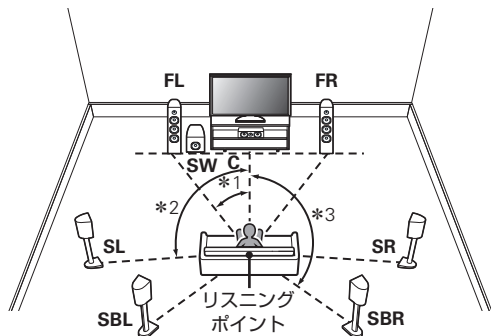


- *1 30°~45° *2 30°~55° *3 65°~100°
 *4 125°~150° *5 135°~150°

ハイトスピーカーのレイアウト図



■ サラウンドバックスピーカーを使用して7.1チャンネルのスピーカーを設置するとき

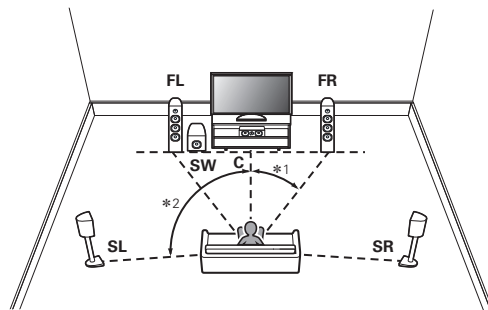


*1 22° ~ 30° *2 90° ~ 110° *3 135° ~ 150°



- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

■ 5.1チャンネルのスピーカーを設置するとき



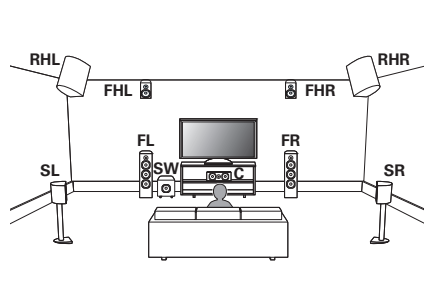
*1 22° ~ 30° *2 120°



■ ハイトスピーカーおよび天井スピーカーを含めたレイアウト

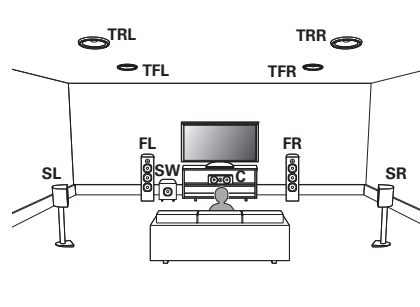
□ ハイトスピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト/リアハイトスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



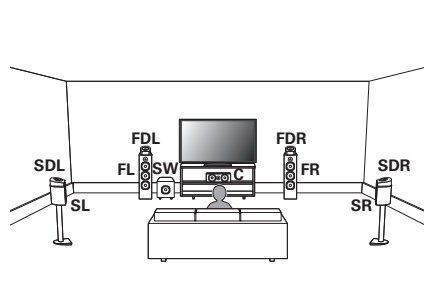
□ 天井スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにトップフロント/トップリアスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



□ Dolby Atmos Enabled スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロント Dolby/サラウンド Dolby スピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。

スピーカーを接続する前に

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。〔保護回路〕(p.304 ページ)
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の9ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。 (“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーはインピーダンスが4~16Ωのものを使用してください。

ご注意

- インピーダンスが4~6Ωのスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“Video Format < NTSC >”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 3 回押す。
ディスプレイに“Sp.Imp. < 8ohms >”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、インピーダンスを選ぶ。

8ohms
(お買い上げ時の設定):

接続されたすべてのスピーカーのインピーダンスが 8Ω 以上のときに選択します。

6ohms:

接続されたスピーカーのインピーダンスが 6Ω のときに選択します。

4ohms:

接続されたスピーカーのインピーダンスが 4Ω のときに選択します。

4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。



■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

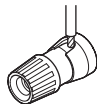
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



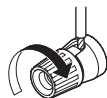
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回して締める。

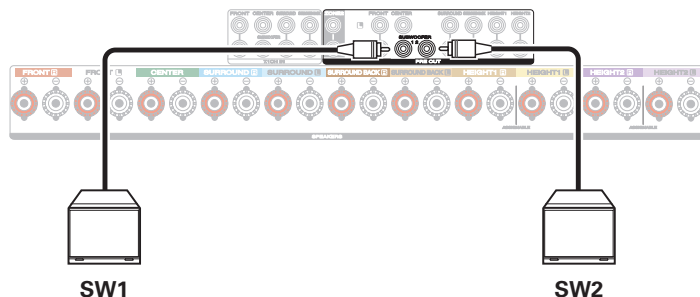


■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。

サブウーハーを 2 台接続する場合は、“スピーカー構成”の設定で“サブウーハー”を“2 台”に設定してください。(P.222 ページ)

サブウーハー 1 とサブウーハー 2 の音量レベルおよび距離は個別に設定できます。



■ チャンネル識別のためのケーブルラベル(付属)について

本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。

各スピーカーに合ったケーブルラベルをスピーカーケーブルに貼ってください。リアパネルのスピーカー端子に接続する際、簡単に接続できます。

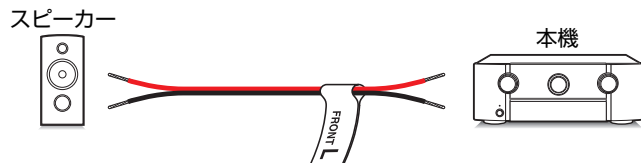
スピーカー	カラー
FRONT L	白色
FRONT R	赤色
CENTER	緑色
SURROUND L	水色
SURROUND R	青色
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
FRONT HEIGHT L	薄黄色
FRONT HEIGHT R	黄色
TOP FRONT L	薄黄色
TOP FRONT R	黄色
TOP MIDDLE L	薄紫色
TOP MIDDLE R	紫色

スピーカー	カラー
TOP REAR L	薄紫色
TOP REAR R	紫色
REAR HEIGHT L	薄紫色
REAR HEIGHT R	紫色
FRONT DOLBY L	薄黄色
FRONT DOLBY R	黄色
SURROUND DOLBY L	薄紫色
SURROUND DOLBY R	紫色
BACK DOLBY L	薄紫色
BACK DOLBY R	紫色
SUBWOOFER 1	黒色
SUBWOOFER 2	黒色



付属のケーブルラベルもパネルに合わせて色分けしています。表を参照して、各スピーカーケーブルに貼り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続することでスピーカーの接続が容易になります。

【ケーブルラベルの貼りかた】



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は 9 チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる 5.1 チャンネルシステムのほかに、“アンプの割り当て”の設定を変更することで、7.1 チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の 2 チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。(P.215 ページ)

設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“アンプの割り当て”の設定をおこなってください。(P.215 ページ)

各ゾーンで再生するスピーカー		“アンプの割り当て”の設定	接続のページ
メインゾーン	ゾーン 2		
5.1 チャンネル再生	2 チャンネル (プリアウト)	すべての“アンプの割り当て”モードで設定できます。	44
7.1 チャンネル再生		7.1ch + ZONE2	45
9.1 チャンネル再生		9.1ch(お買い上げ時の設定)	49
11.1 チャンネル再生		11.1ch	56
7.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)		7.1ch(Bi-Amp)	60
2 台目のフロントスピーカー	2 チャンネル (スピーカー出力)	7.1ch + Front B	61
7.1 チャンネル再生		7.1ch + ZONE2	62
5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)		5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2	63
9.1 チャンネル再生(本機をプリアンプとして使用)	使用しない	プリアンプ	64

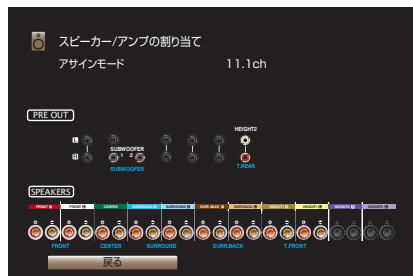
スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。
以降のページに基本となる接続例を記載しています。





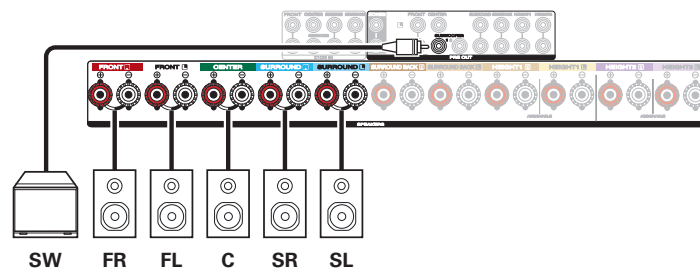
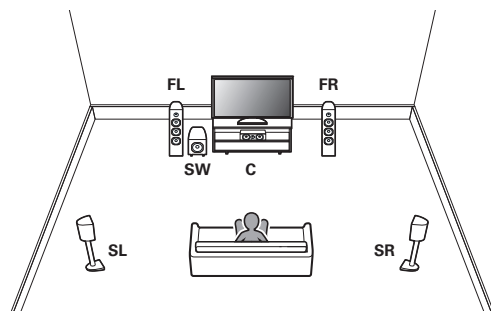
- 本機では、44～63 ページに記載している接続方法のほかに、“アンプの割り当て”の設定によりさまざまなスピーカーの接続方法があります。

ご使用の環境に合わせた接続方法を、“アンプの割り当て”の設定画面中の“端子の接続確認”でメニュー画面上にガイドしていますので、そちらもご覧ください。



5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

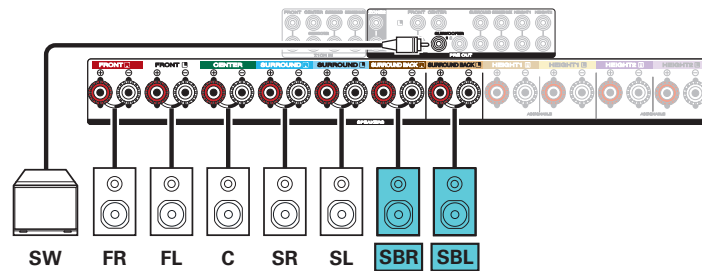
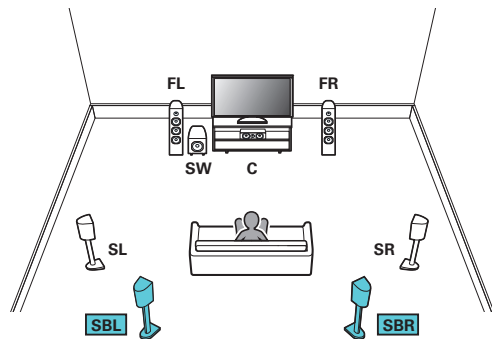
サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。



7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

■ サラウンドバックスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK L 端子に接続してください。

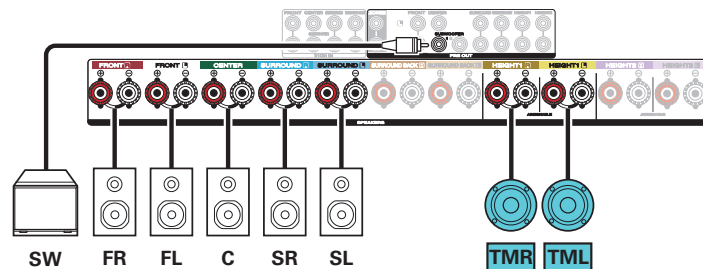
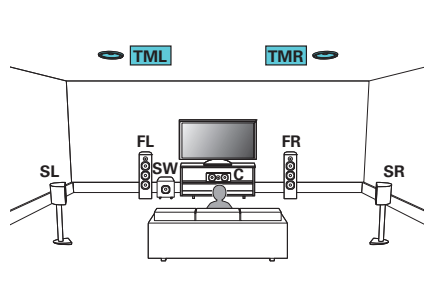


- メニューの“フロア”を“5ch & SB”に設定してください。(P.217 ページ)



■ 天井スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、天井スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

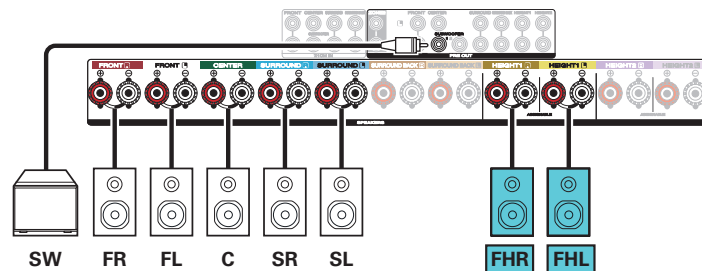
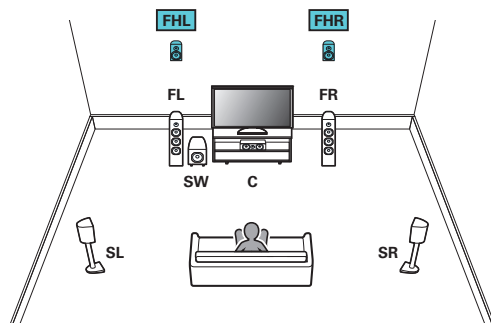


- メニューの“フロア”を“5ch”および“ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞217 ページ)
- トップミドルスピーカーの代わりに、トップフロントまたはトップリアスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞219 ページ)



■ ハイトスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

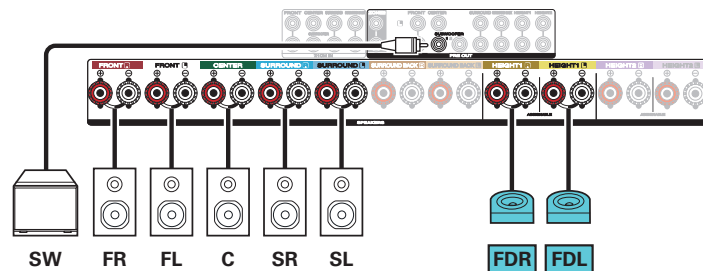
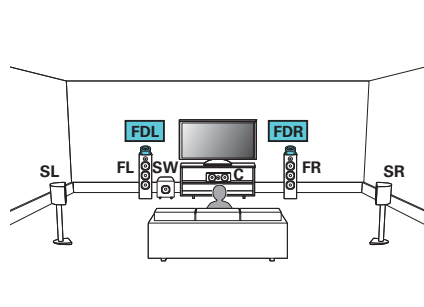


- メニューの“フロア”を“5ch”および“ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞ 217 ページ)
- フロントハイトスピーカーの代わりに、リアハイトスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続するハイトスピーカーを設定してください。(☞ 219 ページ)



■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロント Dolby スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



- メニューの“フロア”を“5ch”および“Dolby スピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞217 ページ)
- フロント Dolby スピーカーの代わりに、サラウンド Dolby スピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する Dolby Atmos Enabled スピーカーを設定してください。(☞219 ページ)

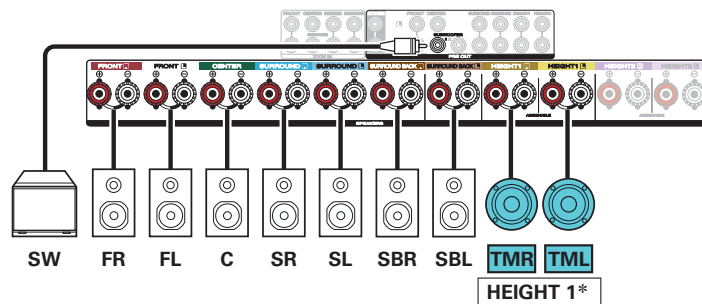
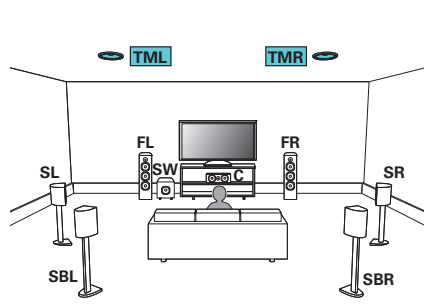


9.1 チャンネルのスピーカーを接続する

5.1 チャンネルのシステムを基本とし、最大 9.1 チャンネルを同時に再生するシステムです。

メインゾーン用に最大 11 チャンネルのスピーカーを接続することができます。10 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

■ 天井スピーカーを 1 組使用するときの接続例

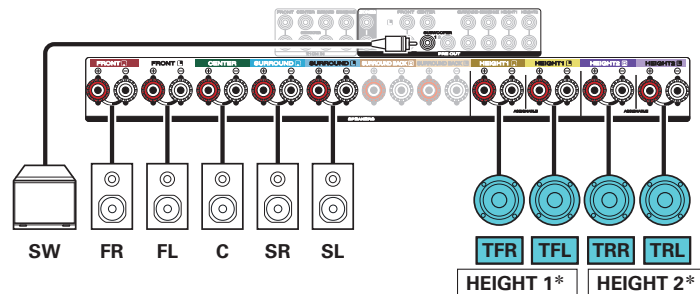
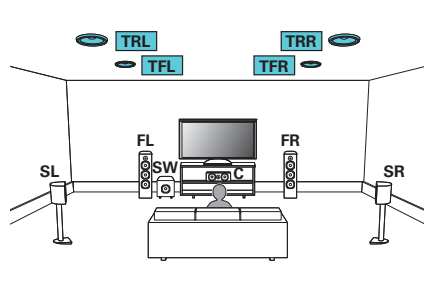


- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(P.218 ページ)

* トップミドルスピーカーの代わりに、トップフロントまたはトップリアスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(P.219 ページ)



■ 天井スピーカーを2組使用するときの接続例

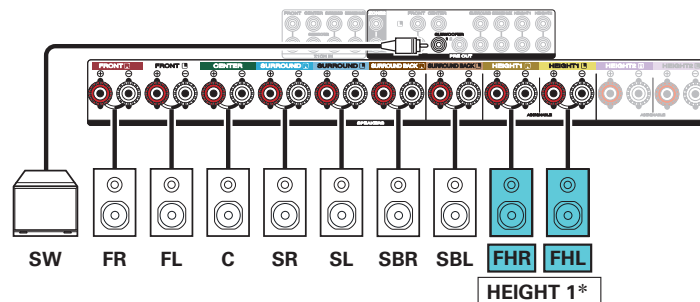
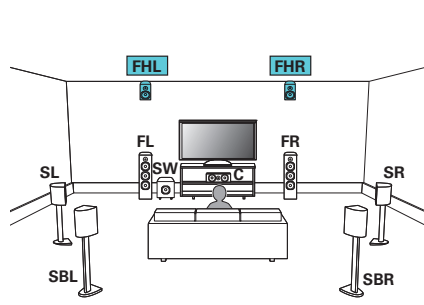


- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(p.217 ページ)

* HEIGHT 1 および HEIGHT 2 チャンネルの組み合わせは、設定で変更することができます。(p.55 ページ)



■ ハイトスピーカーを 1 組使用するときの接続例

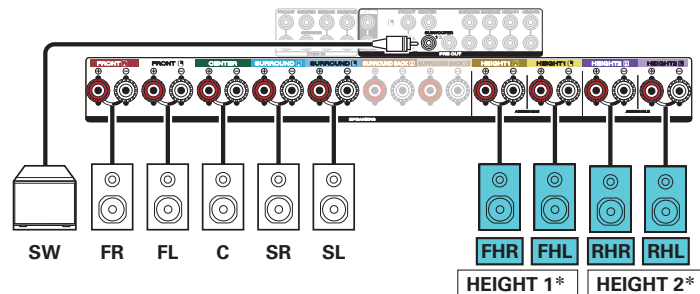
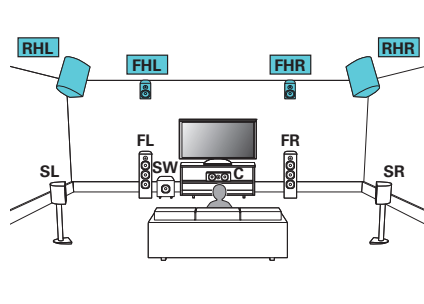


- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞ 218 ページ)

* フロントハイトスピーカーの代わりに、リアハイトスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続するハイトスピーカーを設定してください。(☞ 219 ページ)



■ ハイトスピーカーを2組使用するときの接続例



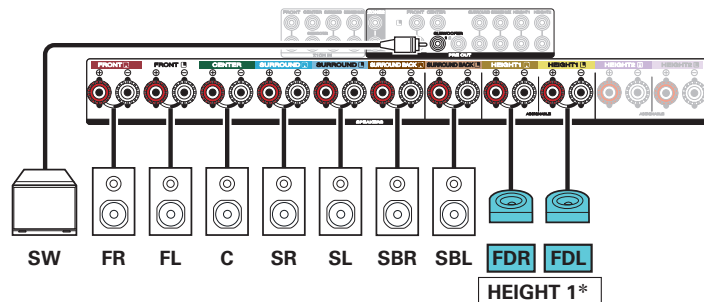
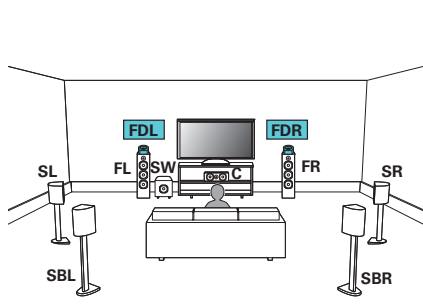
* HEIGHT 1 および HEIGHT 2 チャンネルの組み合わせは、設定で変更することができます。(P.55 ページ)



- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(P.217 ページ)



■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを 1 組使用するときの接続例

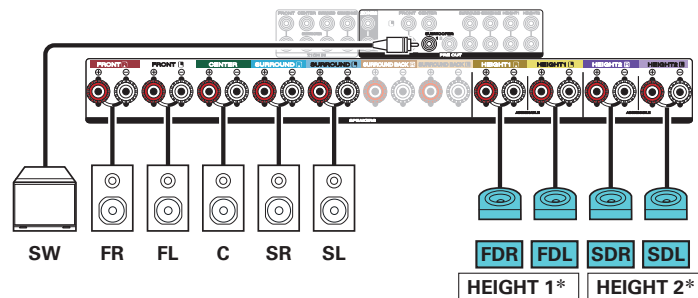
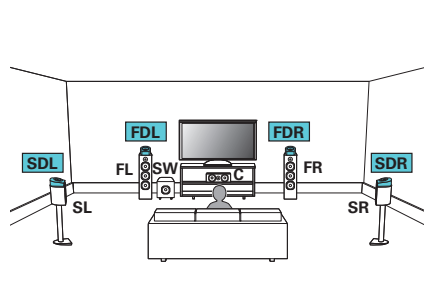


- メニューの“ハイト” - “Dolby スピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞218 ページ)

* フロント Dolby スピーカーの代わりに、サラウンド Dolby スピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する Dolby Atmos Enabled スピーカーを設定してください。(☞219 ページ)



■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを2組使用するときの接続例



* HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変更することができます。(p.55 ページ)



- メニューの“ハイト” - “Dolby スピーカー”を“4ch”に設定してください。(p.217 ページ)



HEIGHT1 および HEIGHT2 スピーカー端子から出力されるチャンネルは、ご使用のスピーカーシステムに合わせて次のパターンに変えることができます。

メニューの“アンプの割り当て”で設定してください。(P.215 ページ)

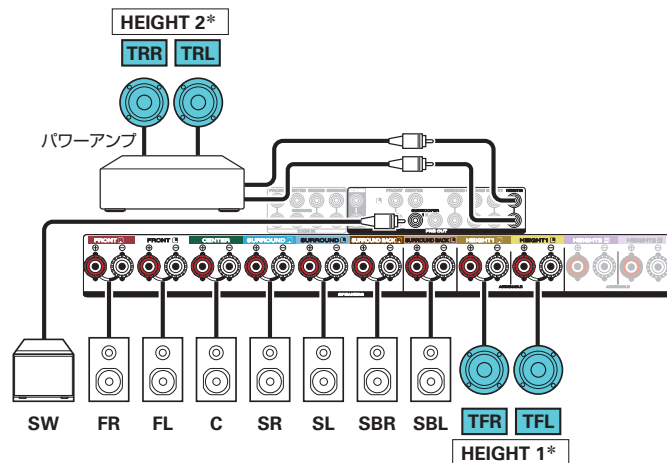
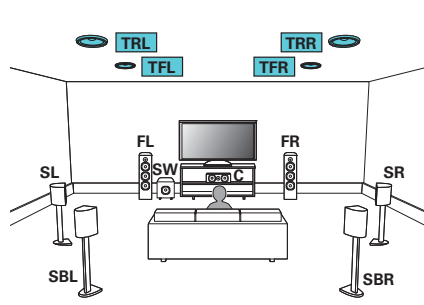
使用するハイトスピーカーの組み合わせ			接続する端子	
ハイト/天井スピーカーの台数	Dolby スピーカーの台数	組み合わせパターン	HEIGHT1 SPEAKER	HEIGHT2 SPEAKER
2 スピーカー	無し	フロントハイト	フロントハイト	-
		トップフロント	トップフロント	-
		トップミドル	トップミドル	-
		トッリア	トッリア	-
		リアハイト	リアハイト	-
無し	2 スピーカー	フロント Dolby	フロント Dolby	-
		サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	-
		バック Dolby	バック Dolby	-
4 スピーカー	無し	フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	トップミドル
		フロントハイト&トッリア	フロントハイト	トッリア
		フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	リアハイト
		トップフロント&トッリア	トップフロント	トッリア
		トップフロント&リアハイト	トップフロント	リアハイト
2 スピーカー	2 スピーカー	トップミドル&リアハイト	トップミドル	リアハイト
		フロント Dolby&トッリア	フロント Dolby	トッリア
		フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
		フロントハイト&サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
無し	4 スピーカー	トップフロント&サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
		フロント Dolby&サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby



11.1 チャンネルのスピーカーを接続する

5.1 チャンネルのシステムを基本とし、最大 11.1 チャンネルを同時に再生するシステムです。
外部のパワーアンプを使用することで、最大 11 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続できます。

■ 天井スピーカーを 2 組使用するときの接続例



- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞218 ページ)

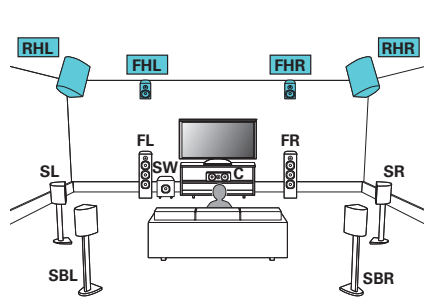
* HEAVEN 1 および HEAVEN 2 チャンネルの組み合わせは、設定で変更することができます。(☞59 ページ)



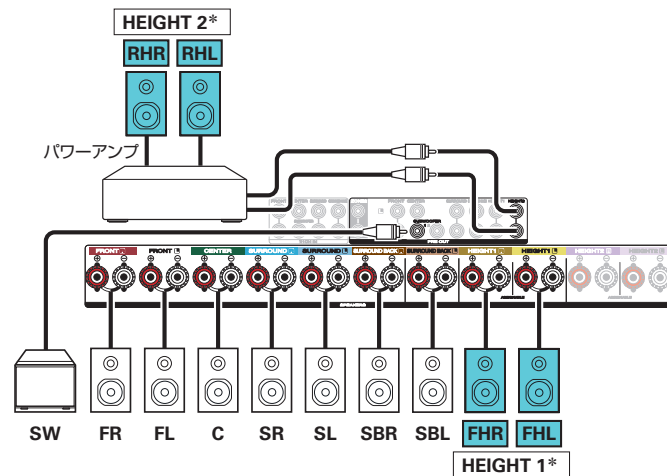
- 外部パワーアンプをハイト 2 チャンネルの代わりにフロントチャンネルに接続することもできます。メニューの“プリアウト”設定で外部パワーアンプを接続するチャンネルを設定してください。(☞221 ページ)



■ ハイトスピーカーを2組使用するときの接続例



- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞218 ページ)



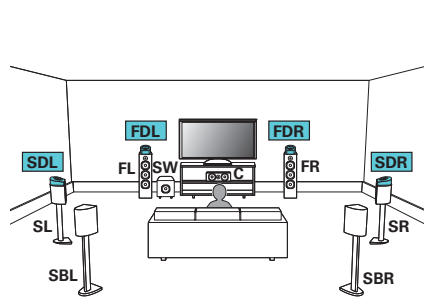
- * HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞59 ページ)



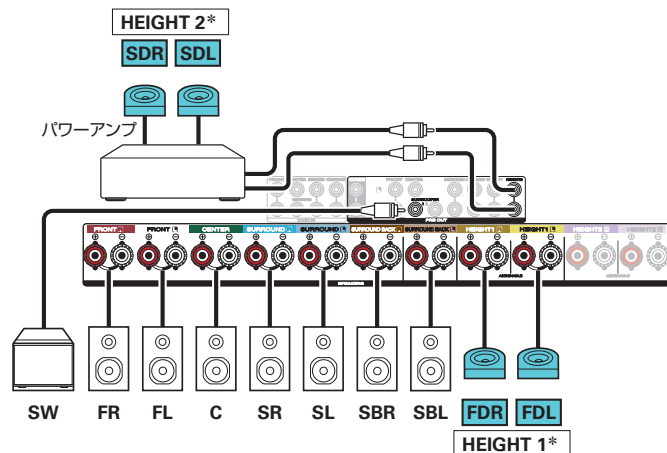
- 外部パワーアンプをハイト2チャンネルの代わりにフロントチャンネルに接続することもできます。メニューの“プリアウト”設定で外部パワーアンプを接続するチャンネルを設定してください。(☞221 ページ)



■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組使用するときの接続例



- メニューの“ハイト” - “Dolby スピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞218 ページ)



- * HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変更することができます。(☞59 ページ)



- 外部パワーアンプをハイト 2 チャンネルの代わりにフロントチャンネルに接続することもできます。メニューの“プリアウト”設定で外部パワーアンプを接続するチャンネルを設定してください。(☞221 ページ)



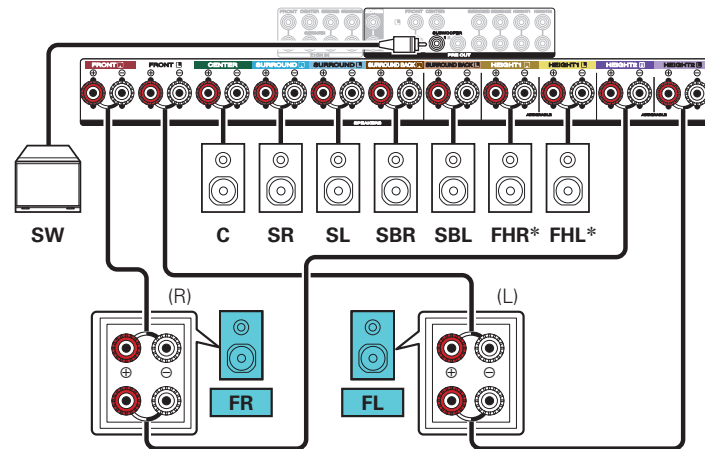
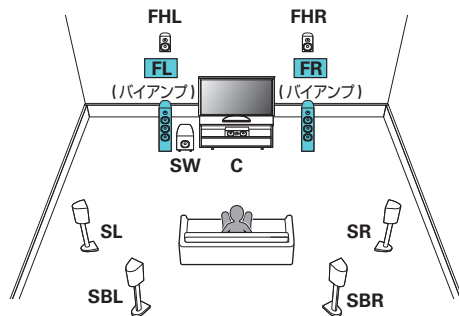
HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、ご使用のスピーカーシステムに合わせて次のパターンに変えることができます。メニューの“アンプの割り当て”で設定してください。(P.215 ページ)

使用するハイトスピーカーの組み合わせ			接続する端子	
ハイト/天井スピーカーの台数	Dolby スピーカーの台数	組み合わせパターン	HEIGHT1 SPEAKER	HEIGHT2 PRE OUT
2 スピーカー	無し	フロントハイト	フロントハイト	-
		トップフロント	トップフロント	-
		トップミドル	トップミドル	-
		トップリア	トップリア	-
		リアハイト	リアハイト	-
4 スピーカー	無し	フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	トップミドル
		フロントハイト&トップリア	フロントハイト	トップリア
		フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	リアハイト
		トップフロント&トップリア	トップフロント	トップリア
		トップフロント&リアハイト	トップフロント	リアハイト
無し	2 スピーカー	フロント Dolby	フロント Dolby	-
		サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	-
		バック Dolby	バック Dolby	-
2 スピーカー	2 スピーカー	フロント Dolby&トップリア	フロント Dolby	トップリア
		フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
		フロントハイト&サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
		フロントハイト&バック Dolby	フロントハイト	バック Dolby
		トップフロント&サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
		トップフロント&バック Dolby	トップフロント	バック Dolby
無し	4 スピーカー	フロント Dolby&サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
		フロント Dolby&バック Dolby	フロント Dolby	バック Dolby



7.1 チャンネルのスピーカーを接続する: フロントスピーカーのバイアンプ接続

7.1 チャンネル再生をおこなうシステムです。フロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツイーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツイーターに流れ込んでツイーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。メインゾーン用で最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



ご注意

- バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツイーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

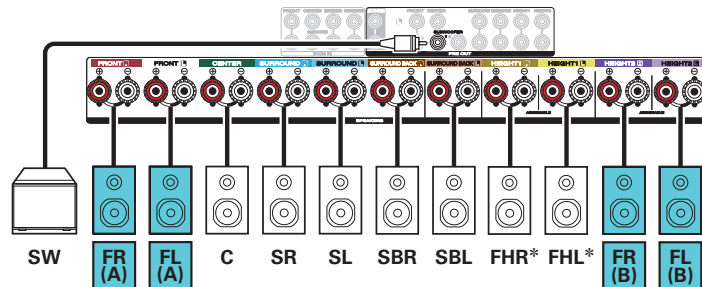
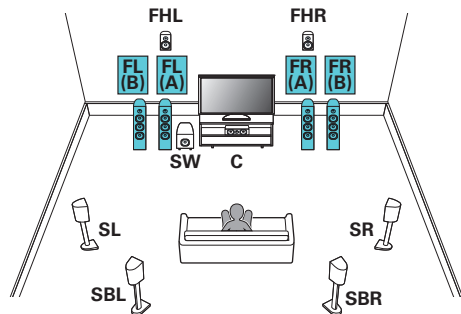
* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(p.219 ページ)



7.1 チャンネルのスピーカーを接続する:2台目のフロントスピーカーの接続

フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B をお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。

メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



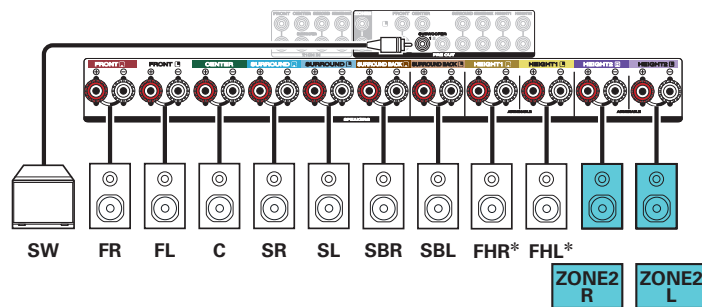
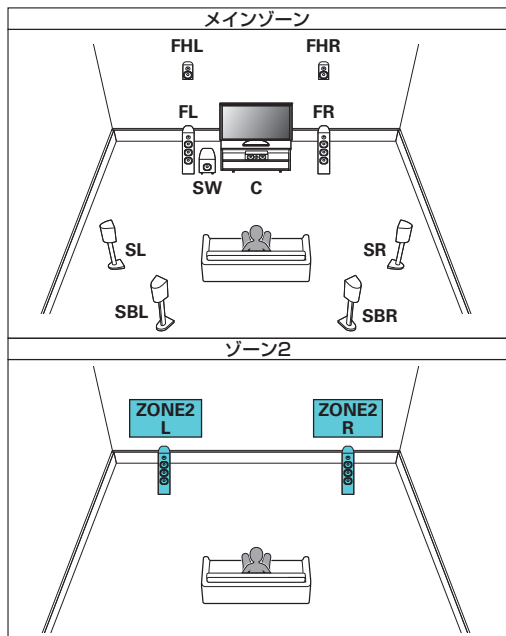
* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(p.219 ページ)

マルチゾーンのスピーカーを接続する

■ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン) + 2チャンネル再生(ゾーン2)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン2 では 2チャンネル再生をおこなうシステムです。

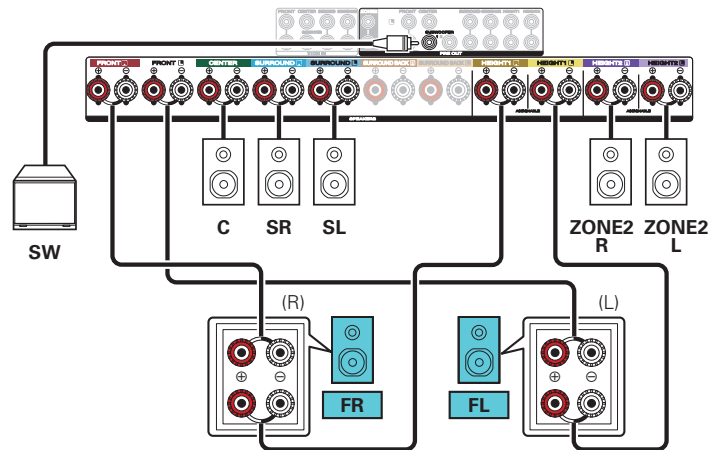
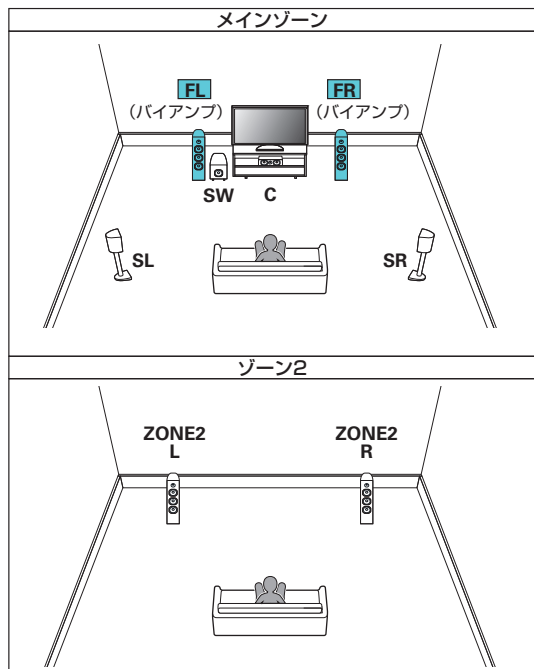
メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(P.219 ページ)

■ 5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続:メインゾーン)+ 2チャンネル再生(ゾーン2)

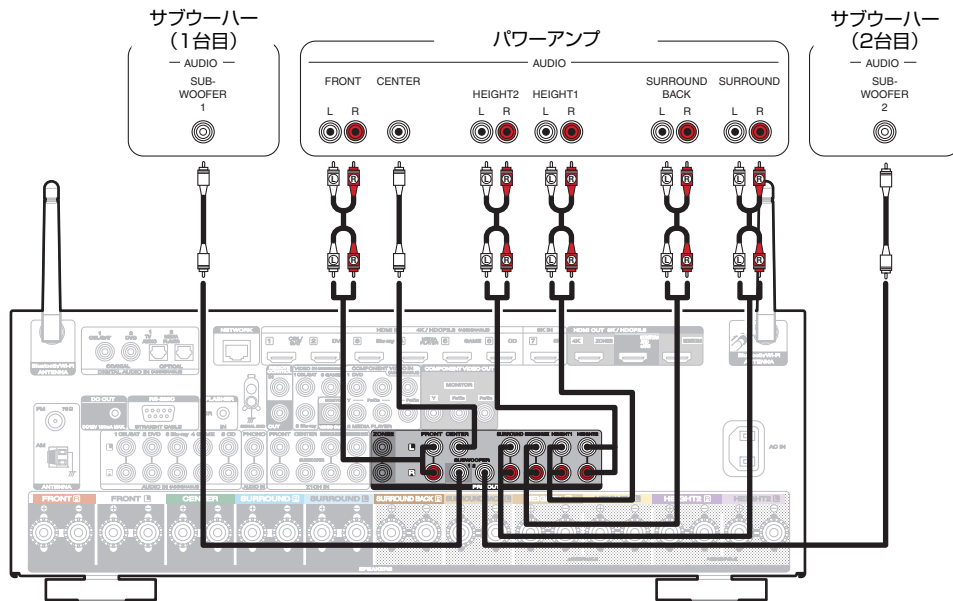
メインゾーンでは5.1チャンネル再生をおこない、ゾーン2では2チャンネル再生をおこなうシステムです。メインゾーンのフロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。



外部のパワーアンプを接続する

外部のパワーアンプを本機のプリアウト端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。

ご使用になる端子を選んで接続してください。



- すべてのチャンネルを外部アンプを使用してプリアウト端子に接続する場合は、“アサインモード”を“プリアンプ”に設定してください。(P.217 ページ)
本機の内部パワーアンプの動作を停止して、パワーアンプからプリアンプへの干渉を減らすことができます。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみご使用になる場合は、左チャンネル(L)に接続してください。

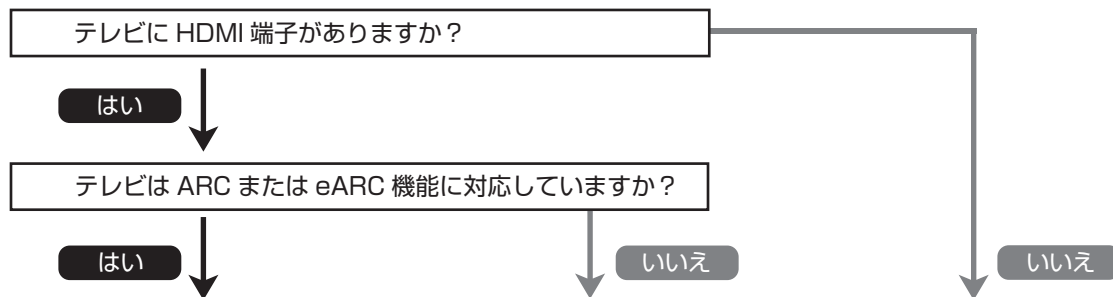


テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。

接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。

ARC (Audio Return Channel)および eARC (Enhanced Audio Return Channel)機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



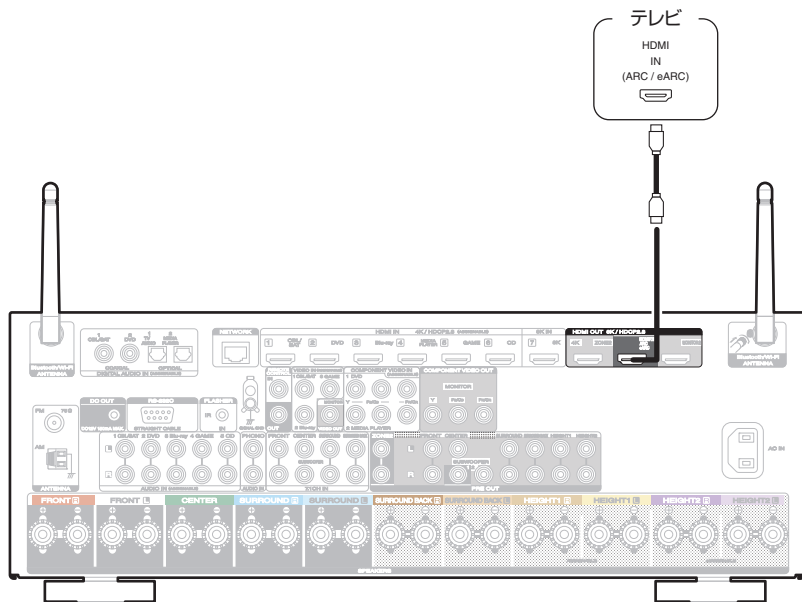
「接続 1: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応」のテレビ】(☞66 ページ) 「接続 2: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応」のテレビ】(☞67 ページ) 「接続 3: HDMI 端子がないテレビ」のテレビ】(☞68 ページ)

接続 1 : HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC または eARC 機能対応のテレビを接続します。

ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”を“オン”または“ARC”を“オン”に設定してください。(☞ 189 ページ)

eARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”の設定に関わらず、テレビからの音声を本機に接続されたスピーカーで聞くことができます。



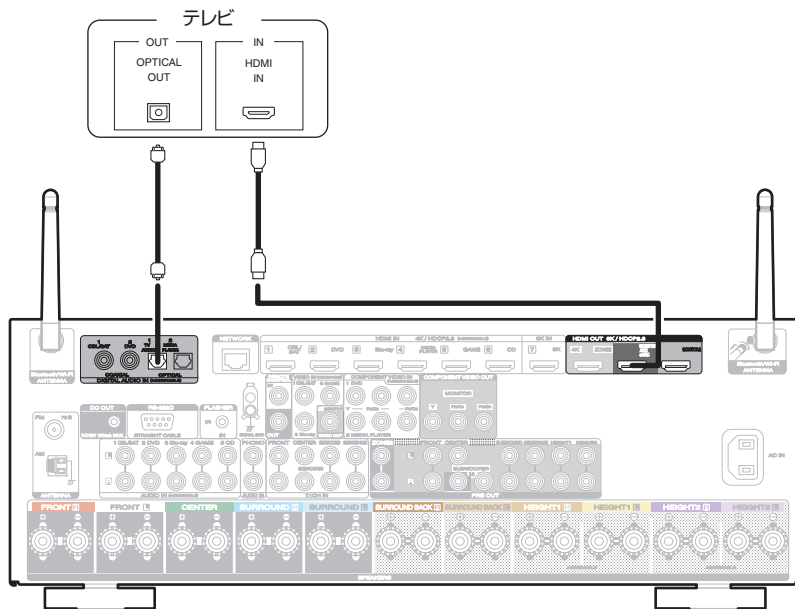
- ARC または eARC 機能を使用する場合は、HDMI MONITOR 1 端子に接続してください。
- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ARC および eARC 機能対応のテレビを接続した場合は、eARC 機能対応のテレビを優先します。
- ARC または eARC 機能対応のテレビを使用する場合は、“High Speed HDMI Cable with Ethernet”をご使用ください。
- 8K の映像をお楽しみいただく場合には、“Ultra High Speed 48 Gbps HDMI”ケーブルをご使用ください。
- 8K の映像をお楽しみいただく場合には、メニューの“4K/8K 信号フォーマット”を“8K 拡張”に設定してください。(☞ 197 ページ)



接続 2: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ

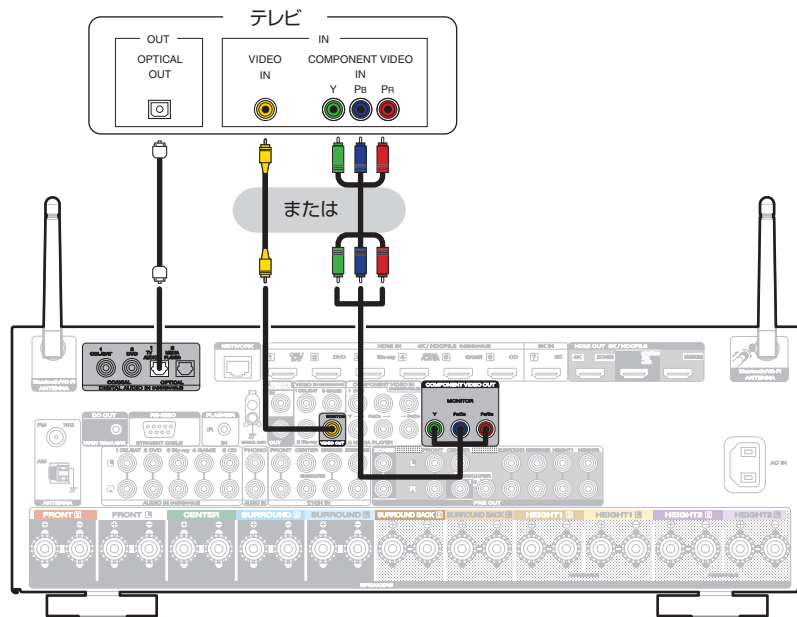
HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。

本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



接続 3: HDMI 端子がないテレビ

コンポーネントビデオケーブルまたはビデオケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

本機には 3 種類(HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ)の映像入力端子と 3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。

本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。

HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞70 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞71 ページ)
- 「8K 対応のプレーヤーを接続する」(☞72 ページ)
- 「ビデオカメラやゲーム機などを接続する」(☞73 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(☞74 ページ)
- 「マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する」(☞75 ページ)



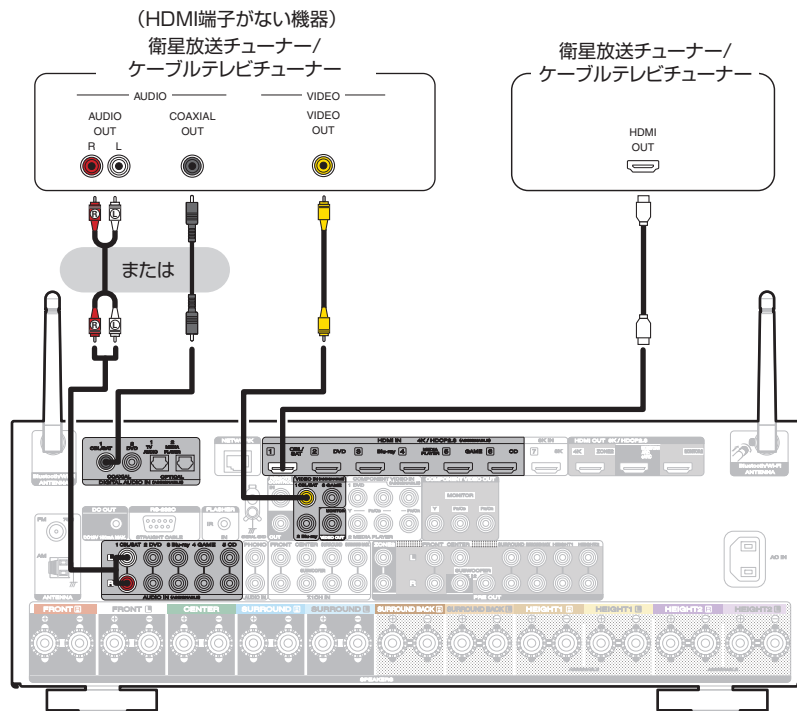
- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおり機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、COMPONENT VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、「入力端子の割り当て」をご覧ください。(☞200 ページ)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの「HDMI オーディオ出力」を「テレビ」に設定してください。(☞187 ページ)
- HDCP 2.2 または HDCP 2.3 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 または HDCP 2.3 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。



セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。

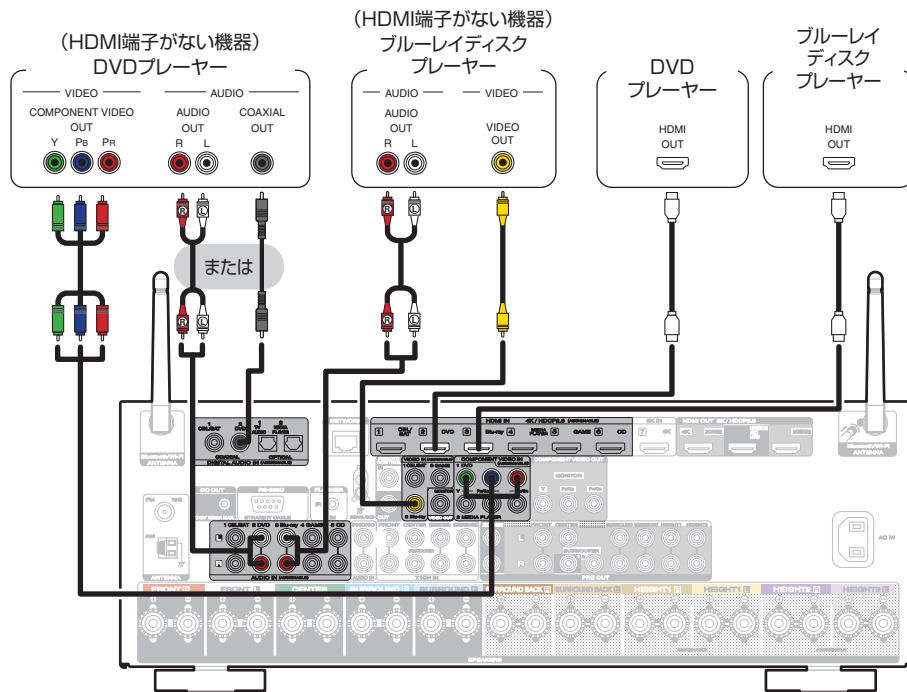
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。

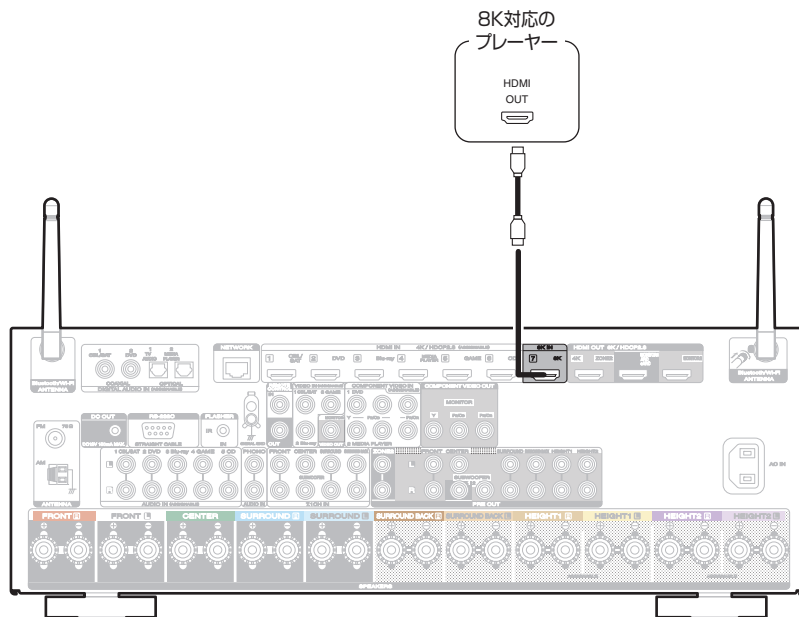
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



8K 対応のプレーヤーを接続する

本機は HDMI の 8K 信号に対応しています。

8K 対応のプレーヤーをご使用になる場合は、HDMI 7 (8K)端子に接続してください。



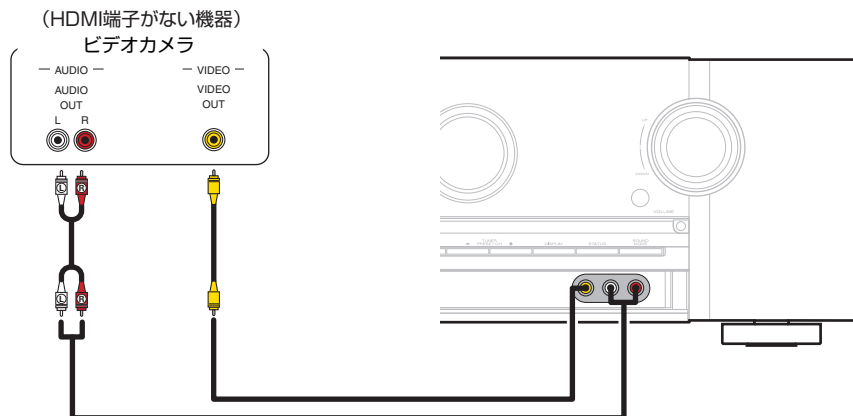
- 8K の映像をお楽しみいただく場合は、“Ultra High Speed 48 Gbps HDMI”ケーブルを使用して 8K 対応のテレビを接続してください。
- 8K の映像をお楽しみいただく場合には、メニューの“4K/8K 信号フォーマット”を“8K 拡張”に設定してください。(P.197 ページ)



ビデオカメラやゲーム機などを接続する

ビデオカメラの接続例です。

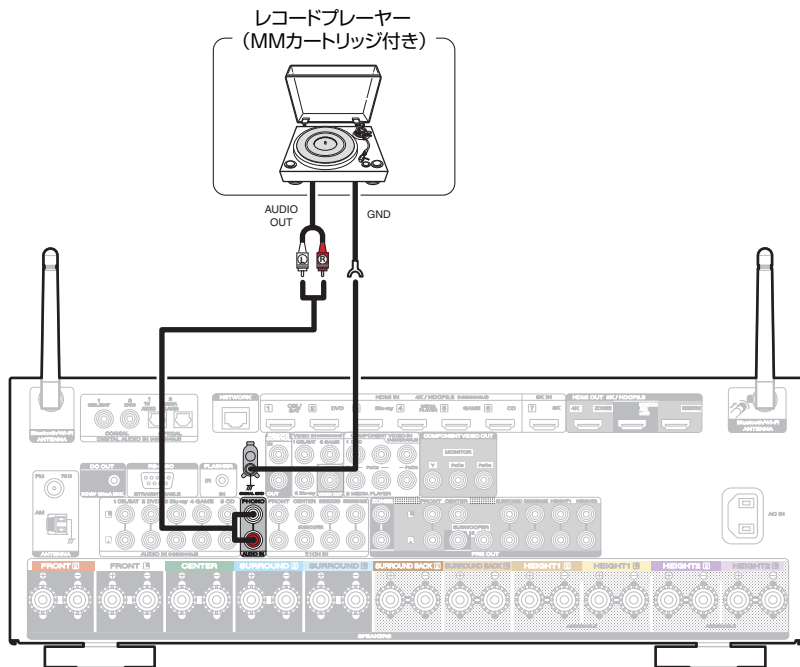
この端子には、ビデオカメラやゲーム機などの再生機器を接続します。



レコードプレーヤーを接続する

本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りの MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。

本機の入力ソースを“Phono”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



ご注意

- 本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。

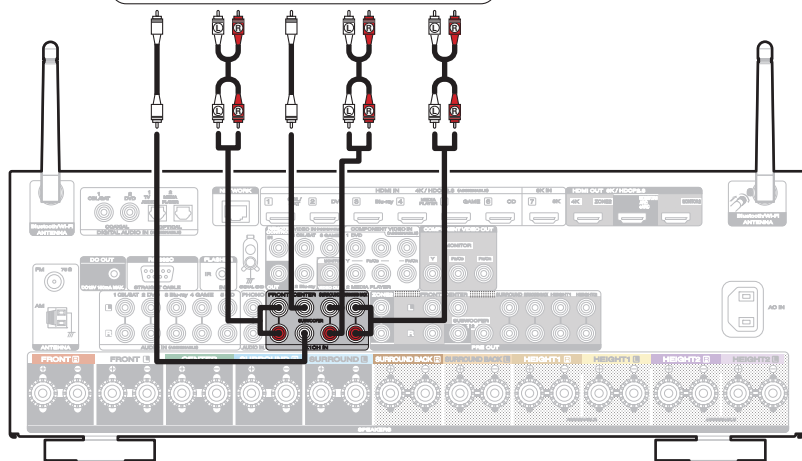
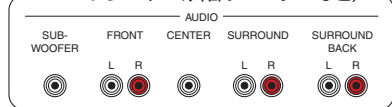


マルチチャンネル出力端子付きの機器を接続する

7.1CH IN 端子にマルチチャンネル出力端子付きの機器を接続すると、音楽や動画を楽しむことができます。

7.1CH IN 端子に入力したアナログ信号を再生する場合は、「INPUT MODE」を「7.1CH IN」に設定してください。(P.202 ページ)

マルチチャンネル出力端子付きの機器
(ブルーレイディスクプレーヤー、
DVDプレーヤー、外部デコーダーなど)

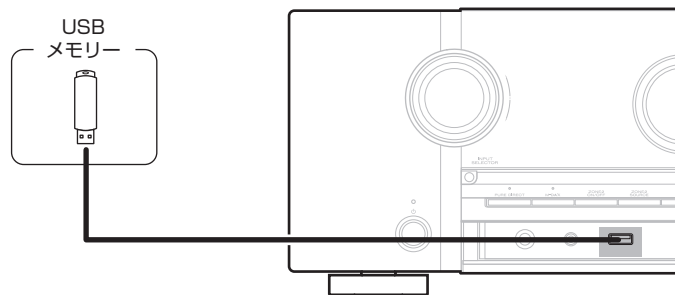


- 映像信号は、ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続できます。(「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(P.71 ページ))



USB 端子に USB メモリーを接続する

操作のしかたは、「USB メモリーを再生する」(P.87 ページ)をご覧ください。



- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。



FM アンテナや AM ループアンテナを接続する

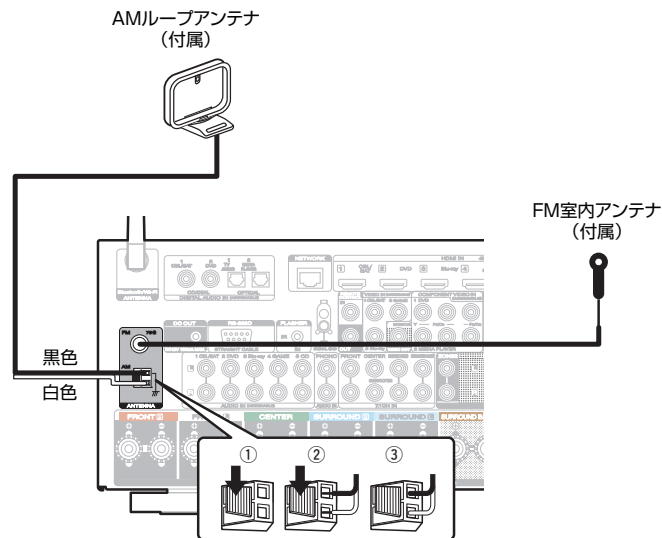
本機にアンテナを接続してから放送を受信して、ノイズが最も少なく受信できるアンテナの位置をさがします。アンテナをその場所に接着テープなどで固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.98 ページ))



- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

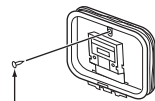
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

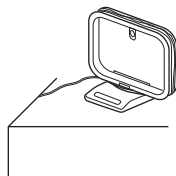


くぎや画びょうなど

置いて使う

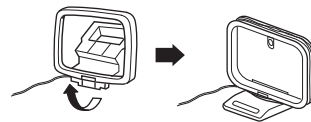
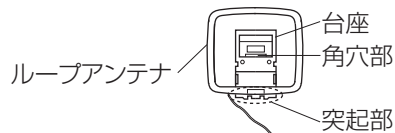
図のように組み立ててお使いください。

組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。



■ AM ループアンテナの組み立てかた

- 1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。
- 2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

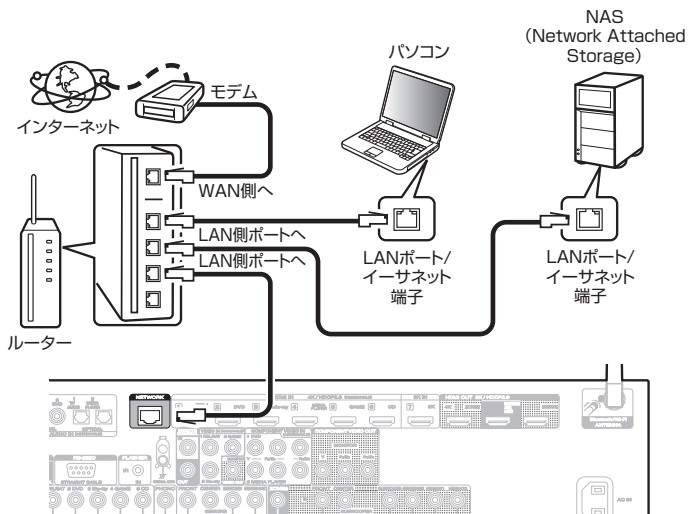
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- ストリーミング音楽サービスの再生
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- HEOS 無線マルチルームサウンドシステムでの動作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP (Internet Service Provider) またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

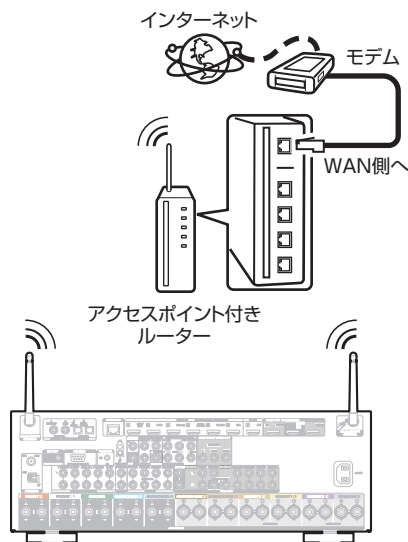
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルーターと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルに接続し、アンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルーターとの接続方法は、“Wi-Fi 設定”をご覧ください。
([P.232](#) ページ)



- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルーターをおすすめします。
 - DHCP サーバー内蔵
LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
 - 100BASE-TX スイッチ内蔵
複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”で IP アドレスなどの設定をおこなってください。([P.231](#) ページ)

ご注意

- ISP 業者によって使用できるルーターの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルーターが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルーターなどに LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。



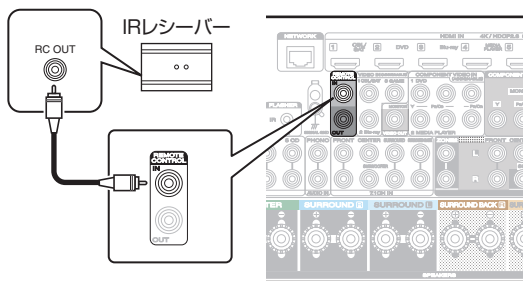
外部のコントロール機器を接続する

リモートコントロール端子

■ 本機や外部機器を操作する

赤外線受信機を本機に接続すると、付属のリモコンで本機や外部機器を操作できます。

この操作をおこなう場合は、「リモートロック機能」(P158 ページ)でリモコン信号の受信機能を無効に設定してください。

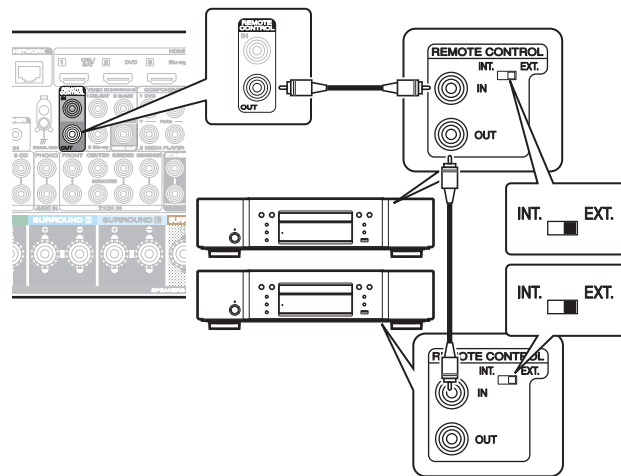


ご注意

- 赤外線送受信機を接続しない場合は、必ずリモコン信号の受信機能を有効に設定してください。無効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

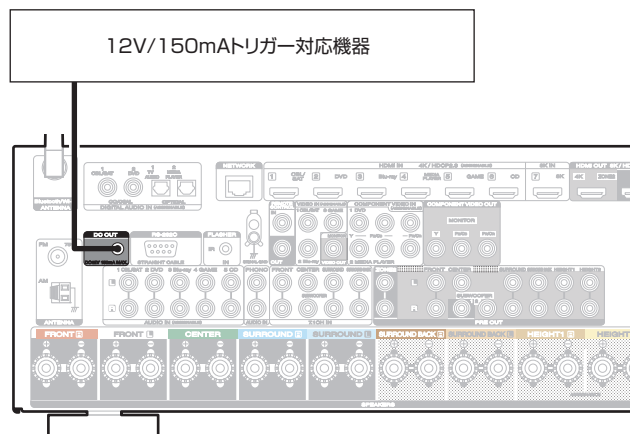
■ Marantz 製機器をリモート接続する

モノラルケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”に設定してください。



DC OUT 端子

DC IN 端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができます。本機の DC OUT 端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。

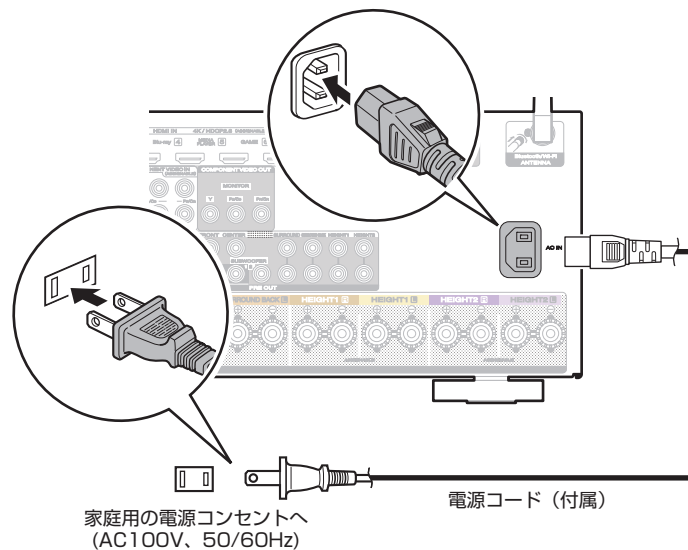


ご注意

- DC OUT 端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、DC OUT 端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってから DC OUT 端子の接続を外してください。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



■ 目次

基本操作

電源を入れる	85
入力ソースを選ぶ	85
音量を調節する	86
一時的に音を消す(ミュート)	86
サウンドモードを選ぶ	134

機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する	86
USB メモリーを再生する	87
Bluetooth 機器の音楽を聴く	91
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	95
FM 放送または AM 放送を聴く	98

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く	106
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	108
HEOS アプリをダウンロードする	112
AirPlay 機能	121
Spotify Connect 機能	124

便利な機能

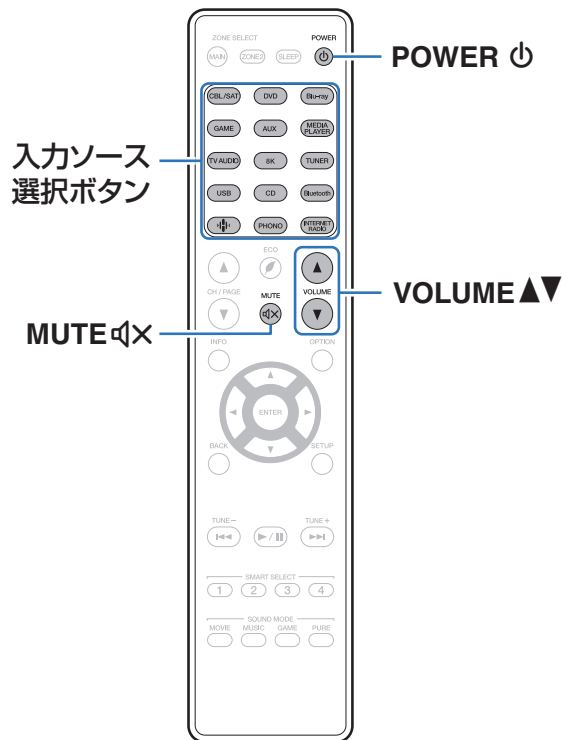
便利な機能	125
HDMI コントロール機能	148
スマートメニュー機能	149
スリープタイマー機能	151
スマートセレクト機能	153
フロントキーロック機能	156
リモートロック機能	158

その他の機能

ウェブコントロール機能	159
ゾーン 2(別の部屋)での再生	161



基本操作



電源を入れる

1 POWER ㊤ を押して、電源を入れる。



- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ㊤ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 再生する入力ソース選択ボタンを押す。
入力ソースをダイレクトに選択できます。



- 本体の INPUT SELECTOR を回しても、入力ソースを選択できます。



音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。








- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の VOLUME を回しても、音量を調節できません。

一時的に音を消す(ミュートイング)

1 MUTE を押す。

- ディスプレイに“MUTE”を表示します。
- テレビ画面に  を表示します。



- メニューの“ミュートインングレベル”で音量の減衰量を設定できます。
( 179 ページ)
- ミュートインングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。
- “スクリーンセーバー”の設定が“オン”のときに、テレビ画面に  アイコンが表示された状態で5分経過すると、 アイコンはテレビ画面上をランダムに移動します。( 197 ページ) (この機能は、ファームウェアのアップデートで対応する予定です。)

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を本機の入力に設定する。

2 POWER を押して、本機の電源を入れる。

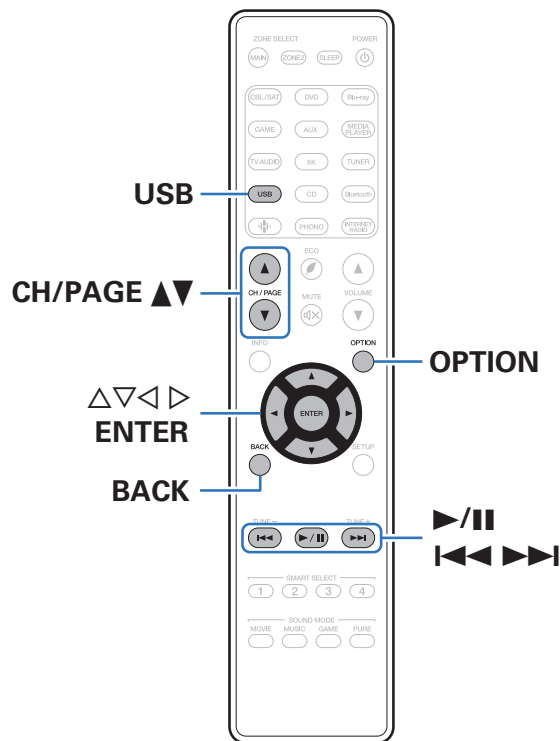
3 DVD または Blu-ray を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする (134 ページ)



USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生できます。
- 本機は、マストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、“FAT32” または “NTFS” フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「USB メモリーの再生について」(P.291 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- Apple Lossless
- DSD



USB メモリーに保存されているファイルを再生する

- 1 “FAT32” または “NTFS” でフォーマットされた USB メモリーを USB 端子に挿入する。
- 2 USB を押して、入力ソースを“USB”に切り替える。
- 3 本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

4 USB メモリー内の音楽データから、再生したい音楽を選ぶ。

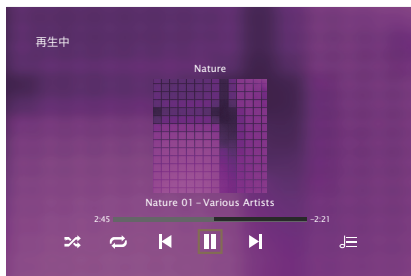


- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐに再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



- 5 Δ ∇ を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができません。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- 本機に USB メモリーを接続すると、本機は USB メモリーのすべてのファイルを読み込みます。USB メモリーにフォルダ数やファイル数が多い場合、読み込みに時間がかかることがあります。

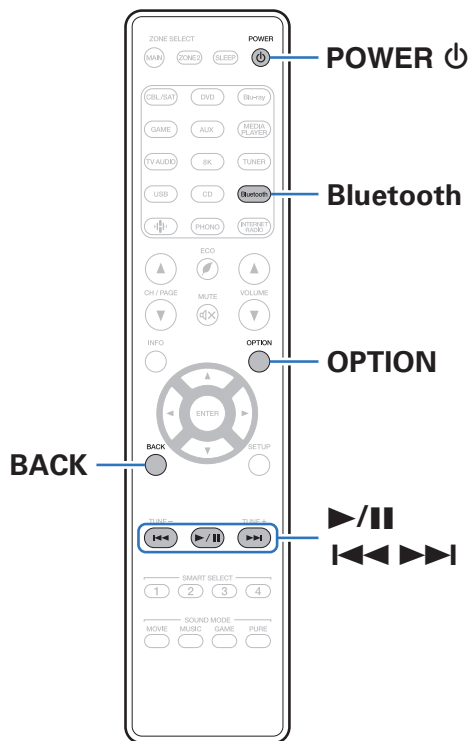


■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(P.128 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(P.129 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(P.130 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(P.132 ページ)



Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。約 30m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器の音楽を再生するには、Bluetooth 機器が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。



Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。
一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 再生の準備をする。

- ① 付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを、リアパネルの Bluetooth/Wi-Fi ANTENNA 端子に接続する。
( 24 ページ)
- ② POWER  を押して、本機の電源を入れる。

2 Bluetooth を押す。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。



3 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

4 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。
また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離(1m 程度)でおこなってください。

5 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降、リモコンの Bluetooth を押した場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。

操作ボタン	機能
	再生/一時停止
	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ



- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。



2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

- 1 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。
- 2 リモコンの Bluetooth を 3 秒以上押す。
本機はペアリングモードになります。
- 3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名前が表示されたら、本機を選ぶ。



- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth の再生画面が表示されているときに OPTION を押し、表示されたオプションメニューから“ペアリングモード”を選択しても、ペアリングモードに入ることができます。

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする」(93 ページ)
- 「入カソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(128 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(129 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(130 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(132 ページ)



Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。

再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

- 1 現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフにして接続を切断する。
- 2 接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。
- 3 お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。
- 4 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。



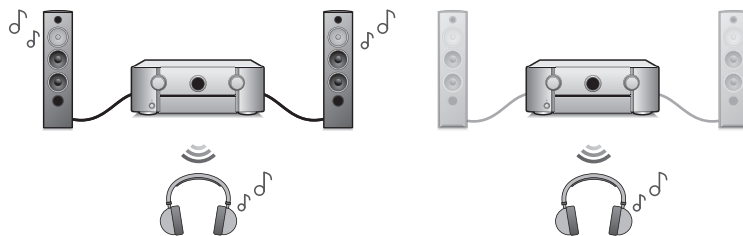
- 本機の電源がオンのときに Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に“Bluetooth”の再生画面に切り替わります。
- 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、自動的に本機の電源はオンになります。(P.236 ページ)



Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く

メインゾーンで再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴くことができます。

本機の Bluetooth 送信機能は、ご使用の環境に合わせてスピーカーと Bluetooth ヘッドホンの音声を同時に出力したり、Bluetooth ヘッドホンのみの音声を出力したりすることができます。



(出力モード: Bluetooth + スピーカー) (出力モード: Bluetoothのみ)

Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く

- 1 メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で、“送信”を“オン”に設定する。(P243 ページ)
- 2 “出力モード”を選び、音声の出力方法を設定する。

Bluetooth + スピーカー (お買い上げ時の設定):	音声は Bluetooth ヘッドホンとメインゾーンのスピーカーに出力されます。Bluetooth ヘッドホンを使用してもスピーカーから音声出力されますので、ご家族と一緒に映画などを楽しむことができます。
Bluetooth のみ:	音声は Bluetooth ヘッドホンのみに出力されます。夜間など一人で音楽や映画を視聴したいときにご使用ください。
- 3 本機に接続したい Bluetooth ヘッドホンペアリングモードにする。
- 4 “デバイスリスト”を選び、デバイスリストから接続したい Bluetooth ヘッドホンの機器名を選ぶ。
- 5 接続が完了したら、Bluetooth ヘッドホン側で音量を調節する。



- “出力モード”はオプションメニューの“Bluetooth 送信”からでも設定できます。
- Bluetooth ヘッドホンの接続と同じ操作で A2DP プロファイル対応の Bluetooth スピーカーも接続できます。

ご注意

- Bluetooth ヘッドホンの音量は、本機では調節できません。Bluetooth ヘッドホン側で音量を調節してください。
- Bluetooth ヘッドホンを使用する場合、サウンドモードはステレオモードで固定されます。本機のオーディオ設定やサウンドモードは、Bluetooth ヘッドホンの音声出力には反映されません。Bluetooth ヘッドホンを使用して“出力モード”を“Bluetooth のみ”に設定している場合は、オーディオ設定、サウンドモードおよびオールゾーンステレオモードは使用できません。
- Bluetooth ヘッドホンに送信する音声は遅延する場合があります。
- いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択している場合は、Bluetooth ヘッドホンを接続できません。また、いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択すると、本機と Bluetooth ヘッドホンの接続が切断されます。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、Bluetooth ヘッドホンは接続できません。

注意:

音量調整機能がない Bluetooth ヘッドホンを使用する場合

- 聴覚障害の原因となる場合がありますので、音量調整機能がない Bluetooth ヘッドホンを接続しないでください。
- 本機を音量調整機能がない Bluetooth ヘッドホンに接続すると、突然大きな音出力される場合があります。
- Bluetooth ヘッドホンの音量は、本機では調節できません。



Bluetooth ヘッドホンに再接続する

一度ペアリングが済んでいれば、次のいずれかの操作をすると、最後に使用した Bluetooth ヘッドホンに再接続することができます。

- Bluetooth ヘッドホンの再接続機能を使用して、本機に再接続する。
- オプションメニューの“Bluetooth 送信”の設定で“再接続”を選択して、Bluetooth ヘッドホンに再接続する。
- “出力モード”の設定が“Bluetooth + スピーカー”のときに本機の電源をオンにする。最後に使用した Bluetooth ヘッドホンに再接続します。
- メニューの“Bluetooth 送信” - “デバイスリスト”から接続したい機器名を選択する。

Bluetooth ヘッドホンを切断する

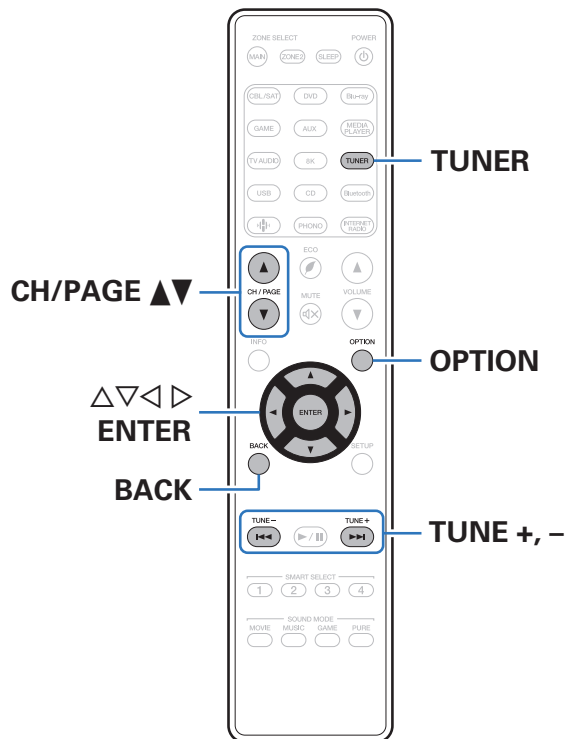
次のいずれかの操作をすると、Bluetooth ヘッドホンとの接続を切断することができます。

- Bluetooth ヘッドホンの電源をオフにする。
- オプションメニューの“Bluetooth 送信”の設定で“切断”を選択し、Bluetooth ヘッドホンを切断する。
- メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で“送信”をオフに設定する。(P.243 ページ)



FM放送またはAM放送を聴く

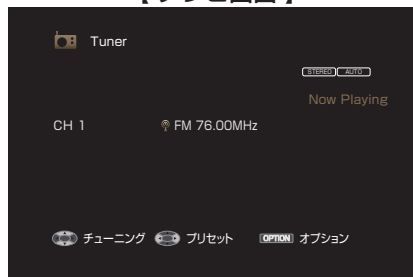
本機に内蔵のチューナーを使用して、FM放送およびAM放送を聴くことができます。
事前に必ずFMアンテナおよびAMループアンテナを本機に接続してください。



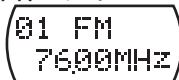
FM 放送または AM 放送を聴く

- 1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(P.77 ページ))
- 2 TUNER を押して、入力ソースを“Tuner”に切り替える。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 Δ▽ を押して“FM/AM”を選び、ENTER を押す。
受信バンド入力画面を表示します。

- 5 ◀▶ を押して“FM”または“AM”を選び、ENTER を押す。

FM: FM 放送を聴くときに選択します。

AM: AM 放送を聴くときに選択します。

- 6 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。
受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。



- FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”です。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”モードがあります。
“オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, -	放送局の選択(アップ/ダウン)
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
△▽	放送局の選択(アップ/ダウン)
◀▶	プリセット登録した放送局の選択



■ オプションメニューでできる操作

- 「周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)」(☞100 ページ)
- 「受信モードを変更する(チューニングモード)」(☞101 ページ)
- 「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)」(☞101 ページ)
- 「聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)」(☞102 ページ)
- 「プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)」(☞103 ページ)
- 「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」(☞104 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞128 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞129 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞130 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞132 ページ)

周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ / ∇ を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。
周波数入力画面を表示します。
- 3 Δ / ∇ を押して数字を選び、 \triangleright を押す。
 - \triangleleft を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。
- 4 手順3 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。
- 5 入力が完了したら、ENTER を押す。
放送局を受信します。



受信モードを変更する(チューニングモード)

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。
- 3 \triangleleft \triangleright を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で 1 ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)

自動で最大 56 局までプリセットできます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“オートプリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。
- 3 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。
 - プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。



- プリセットメモリーは上書きされます。



聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- 1 **プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.99 ページ))**
- 2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。
- 3 **△▽ を押して“プリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。**
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。
- 4 **△▽ を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。**
現在受信している放送局をプリセットします。
 - 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1～8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9～16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17～24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25～32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33～40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41～48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49～56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

- 1 **CH/PAGE ▲▼ を押して、プリセットした放送局を選ぶ。**



- 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押しても、プリセットした放送局を選択できます。



プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。

8文字まで入力できます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。
“プリセットネーム”画面を表示します。
- 3 \triangleleft \triangleright を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。
- 4 $\Delta\nabla$ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。

- 5 $\Delta\nabla$ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。
プリセットネームの編集画面を表示します。
 - “初期化”を選択すると、周波数表示に戻ります。
- 6 文字を入力して“OK”を押す。
- 7 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 Δ ∇ を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER を押す。
“プリセットスキップ”画面を表示します。
- 3 スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき
 - ① \triangleleft \triangleright を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
 - ② Δ を押して “No.*-* をスキップ設定にします” を選び、ENTER を押す。
選択したグループ“*-*”に含まれるすべての放送局をスキップします。
(* は選択しているグループ番号です。)

スキップしたい放送局ごとに設定するとき

- ① \triangleleft \triangleright を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ② Δ ∇ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。
- ③ \triangleleft \triangleright を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局をスキップします。

4 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットスキップを解除する

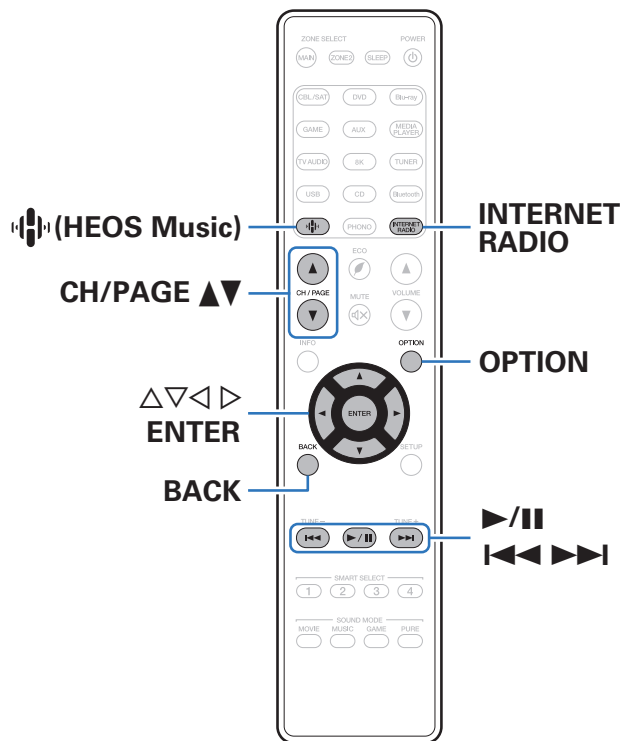
- 1 “プリセットスキップ”画面を表示中に<▶>を押して、スキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。
- 2 ▲▼を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。
- 3 <▶>を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

- “プリセットスキップ”の解除をグループごとにおこなうことはできません。



インターネットラジオを聴く




- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、TuneIn ラジオサービスのデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオの再生について」(P.294 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- MPEG-4 AAC





インターネットラジオを聴く

1 INTERNET RADIO を押す。

-  (HEOS Music) を押しても操作ができます。△▽ を押して “TuneIn インターネットラジオ” を選び、ENTER を押してください。

2 再生したい放送局を選ぶ。

操作ボタン	機能
 *	再生/一時停止
 *	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

* ポッドキャストを再生中に有効です。








- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

ご注意

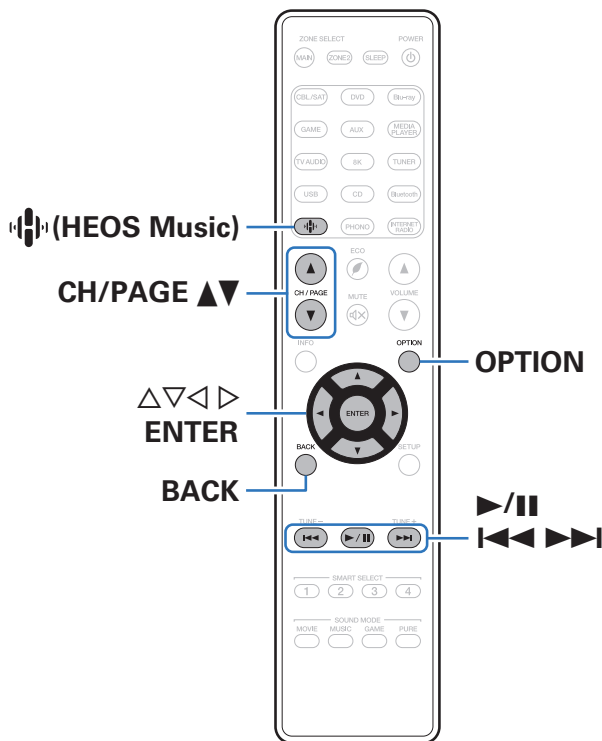
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「HEOS お気に入りに追加する」( 126 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( 128 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( 129 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」( 130 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」( 132 ページ)



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンや DLNA 対応の NAS (Network Attached Storage) に保存されている音楽ファイルやプレイリスト (m3u, wpl) を再生できます。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について」(P.293 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- Apple Lossless
- DSD



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

DLNA ファイルサーバーに保存されている音楽ファイルやプレイリストを再生する場合におこないます。

- 1 **🎵(HEOS Music)を押す。**
- 2 **△▽を押して“ミュージックサーバー”を選び、ENTERを押す。**



- 3 **ネットワーク上のパソコンまたはNAS(Network Attached Storage)名を選ぶ。**

4 パソコンまたはNAS内の音楽データから、再生する音楽を選ぶ。



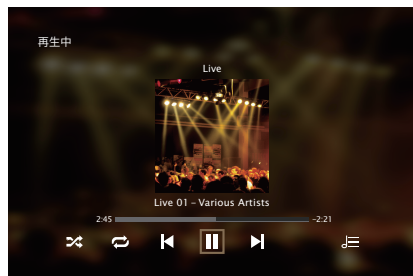
- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 ▲▼を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTERを押す。

再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player(バージョン 11 以上)を使用することで表示できます。

ご注意

- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声途切れることがあります。このような場合は、有線 LAN で接続してください。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、頭文字での検索が正しく動作せず、曲の表示順がアルファベット順にならない場合があります。



■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞128 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞129 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞130 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞132 ページ)
- 「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」(☞133 ページ)





HEOS アプリをダウンロードする

HEOS アプリから多くのオンライン音楽ストリーミングサービスを使用することができます。無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。

App ストア、Google Play ストアまたは Amazon アプリストアで“HEOS”を検索して、iOS 用または Android 用の HEOS アプリをダウンロードしてください。



HEOS アカウント

HEOS アカウントは、本機のメニューの“HEOS アカウント”
( 238 ページ)で登録するか、HEOS アプリの“ミュージック”
タブ - “設定”アイコン  をタップして登録してください。

■ HEOS アカウントとは

HEOS アカウントは、1 つのユーザー名とパスワードですべて
の HEOS 音楽サービスを管理するマスターアカウントです。


■ HEOS アカウントが必要な理由

HEOS アカウントでログインすれば、例えば友人宅の HEOS
システムで音楽を聴くときでも、アカウント登録しているスト
リーミング音楽サービスや再生履歴、カスタムプレイリストに
アクセスできます。

■ HEOS アカウントに登録する

HEOS アプリの“ミュージック”メニューからはじめて音楽サー
ビスにアクセスするときに、HEOS アカウントへの登録をおす
めするメッセージと登録画面を表示します。

■ HEOS アカウントを変更する

- 1 “ミュージック”タブをタップする。
- 2 画面左上の設定アイコン  をタップする。
- 3 “HEOS アカウント”をタップする。
- 4 位置情報の変更やパスワードの変更、アカウントの削
除、サインアウトをおこなう。



ストリーミング音楽サービスを再生する

無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。


ご注意

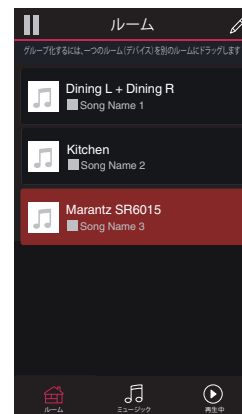
- HEOS アプリおよびブランドは、どちらのモバイルデバイスの製造元とも提携していません。音楽サービスの提供は地域によって異なり、製品購入時にすべてのサービスが利用できるわけではありません。音楽サービスプロバイダまたは第三者の決定に基づき、いくつかのサービスが追加または中止されることがあります。

■ 再生する部屋/HEOS 機器を選ぶ

- 1 “ルーム” タブをタップする。もし複数の HEOS 機能搭載機器がある場合は、“Marantz SR6015”を選ぶ。



- 右上のえんぴつアイコン  をタップすると編集モードになり、表示名を変更することができます。

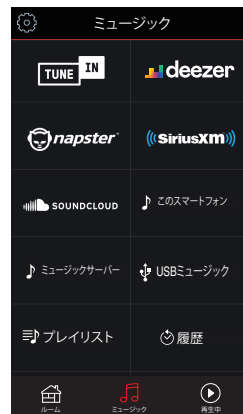


■ 音楽ソースから音楽や放送局を選ぶ

1 “ミュージック”タブをタップし、音楽ソースを選ぶ。



- 画面に表示されている音楽サービスは、お住まいの地域により利用できない場合があります。



2 再生したい音楽を選ぶ。

音楽または放送局を選ぶと、自動的に“再生中”画面に切り替わります。



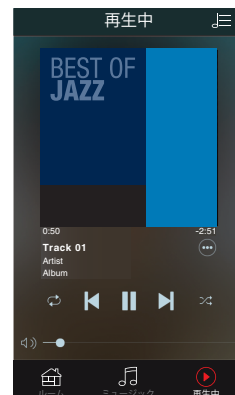
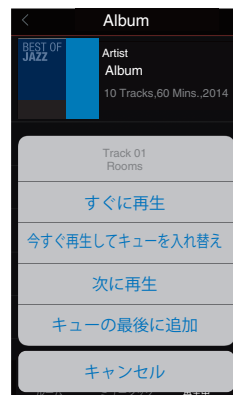
- 音楽を選択時、音楽をどのようにリストに追加するかを指定します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



- 放送局を選択時、放送局をどのようにリストに追加するかを指定します。

すぐに再生:	選択した放送局をすぐに再生します。
HEOS お気に入り追加:	HEOS お気に入りに追加します。

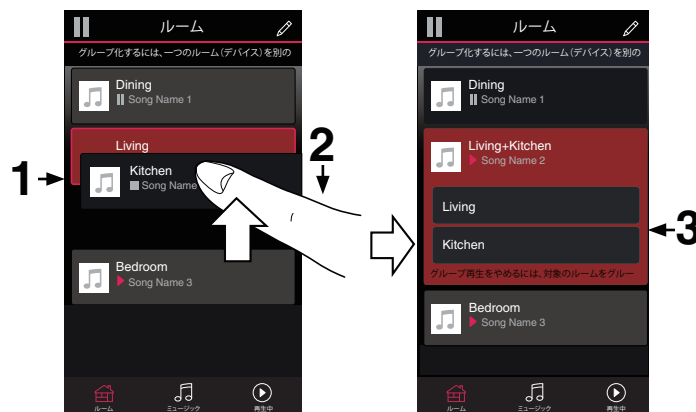


同じ音楽を複数の部屋で聴く

このシステムでは、複数の HEOS 機能搭載機器間で音楽再生を自動的に同期させることができます。これにより、さまざまな部屋で再生される音楽が完全に同期し、常に素晴らしいサウンドを得ることができます。このシステムでは最大 32 台の機器を簡単に追加できます。また最大 16 のグループ化が可能で、グループごとに完全に同期して楽曲を再生することができます。

■ 部屋をグループ化する

- 1 音楽を再生していない部屋をホールド(指で押さえたままに)する。
- 2 そのまま音楽を再生している部屋(赤枠で囲まれている部屋)までドラッグする。
- 3 2つの部屋が1つのグループにグループ化され、両方の部屋で同じ音楽を再生する。

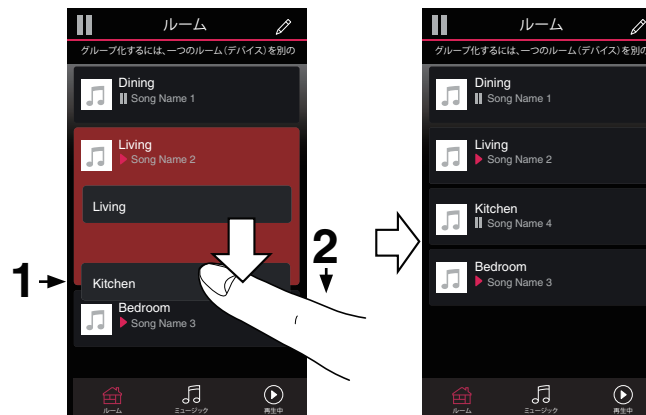


■ 部屋のグループ化を解除する

- 1 グループから外したい部屋をホールド(指で押さえたままに)する。
- 2 グループ(赤枠)の外にドラッグして、指を離す。

ご注意

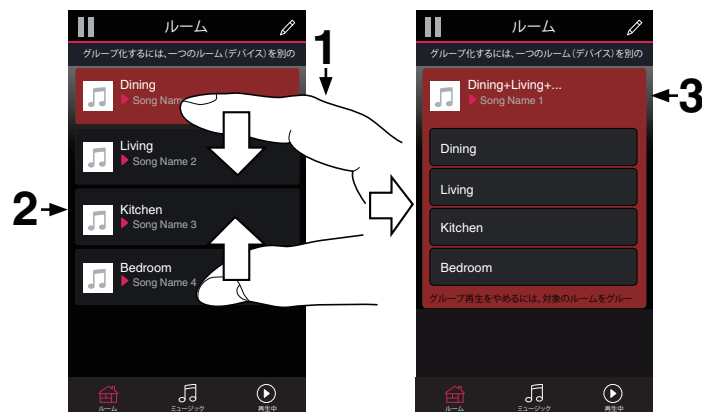
- グループ化は音楽を再生している部屋が基準となるため、その部屋をグループから解除することはできません。



■ すべての部屋をグループ化する(パーティーモード)

ピンチジェスチャーを使用して、最大 16 の部屋をグループ化できます。

- 1 部屋のリスト上の画面に2本の指を置く。
- 2 2本の指ですばやくつまむ動作をして、画面から離す。
- 3 すべての部屋をグループ化し、同じ音楽がすべての部屋で再生する。



■ すべての部屋のグループ化を解除する

スプレッドジェスチャーを使用して、すべての部屋のグループ化を解除できます。

- 1 部屋のリスト上の画面に2本の指を近づけて置く。
- 2 2本の指をすばやく互いに遠ざけ、画面から離す。
- 3 すべての部屋のグループ化を解除する。



AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



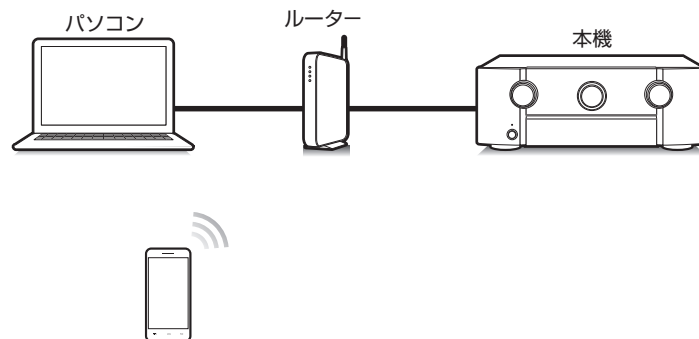
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“HEOS Music”に切り替わります。
- 他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認できます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。

本機は AirPlay 2 対応製品です。

複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。



- 本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。



iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

- 1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
 ・詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。
- 2 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。
 iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。
- 3 AirPlay アイコンをタップして、本機を選ぶ。

【例】iOS 12



【例】iOS 10

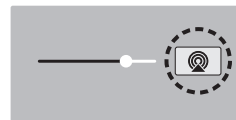


iTunes の曲を本機で再生する

- 1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes 10 以降をインストールする。
 - 2 本機の電源を入れる。
 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にしてください。(P.236 ページ)
- ご注意

 - “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- 3 iTunes を起動し、AirPlay アイコンをクリックして、本機を選ぶ。

【例】iTunes



- 4 iTunes で曲を選び、再生する。
 本機で再生をはじめます。

ご注意

- AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2)

iPhone、iPod touch、iPad が iOS 11.4 以上の場合、iPhone、iPod touch、iPad の曲を AirPlay 2 対応の複数の機器で同期して再生することができます。

1 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。

iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。



2 AirPlay アイコンをタップする。

同一ネットワーク上で再生可能な機器/スピーカーの一覧を表示します。

- AirPlay 2 対応の機器名には右側に丸い印が表示されません。



3 再生したい機器/スピーカーをタップする。

- AirPlay 2 対応機器は複数台選ぶことができます。
- 音量調整は機器毎の調整と、全体の音量調整がそれぞれできます。



Spotify Connect機能

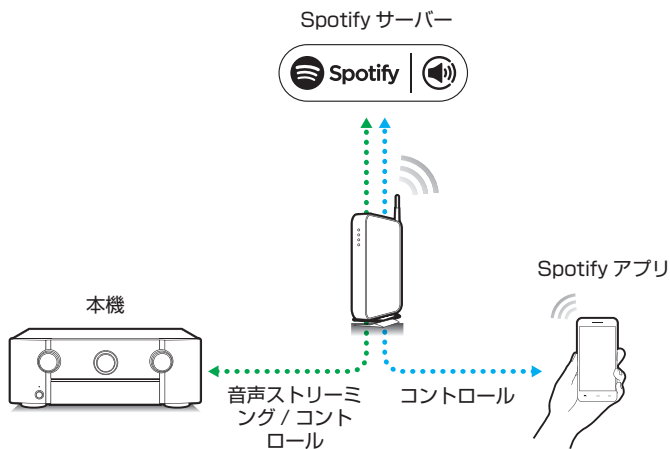
Spotify にはあなたが聴きたい音楽があります。何千万もの楽曲の中からあなたの好みに合ったお奨めの音楽をお楽しみいただけます。従来のプレミアムアカウント(有料)に加え、無料アカウントでも Spotify Connect をご利用になれます。

スマートフォン、タブレットまたはパソコンを操作して、Spotify の音楽を楽しめます。

詳しくは、www.spotify.com/jp/connect をご覧ください。


Spotify ソフトウェアには次のサードパーティのライセンスが適用されます。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses

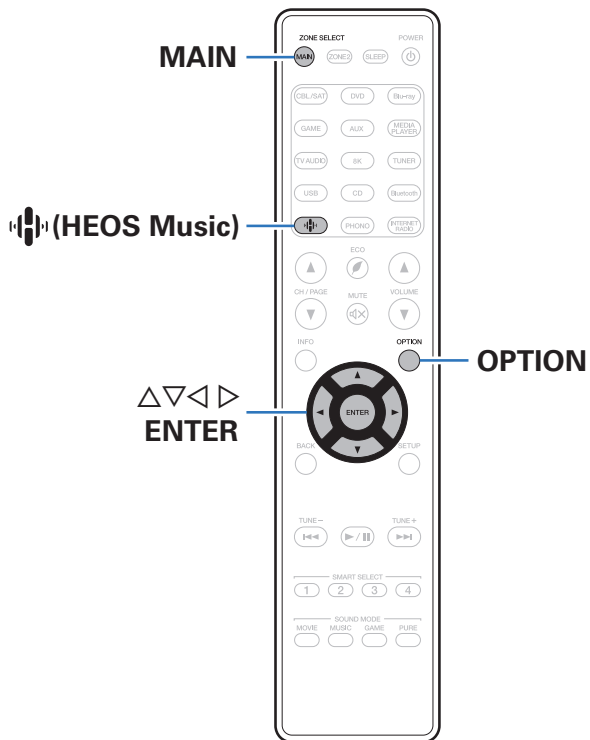


Spotify の曲を本機で再生する

あらかじめお手持ちの iOS または Android 機器に “Spotify アプリ” をダウンロードしてください。

- 1 iOS または Android 機器の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
- 2 Spotify アプリを起動する。
- 3 Spotify の曲を再生する。
- 4 Spotify アイコン  をタップして、本機を選ぶ。
本機で再生をはじめます。

便利な機能



ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。

これらの機能は、メインゾーンでのみ設定できます。



HEOS お気に入りに追加する

- 1 コンテンツの再生中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“HEOS お気に入りに追加”を選び、
ENTER を押す。

HEOS お気に入りを再生する

- 1 \heartsuit (HEOS Music) を押す。
- 2 $\Delta\nabla$ を押して“HEOS お気に入り”を選び、ENTER を
押す。



- 3 再生したい音楽を選ぶ。

HEOS お気に入りを取り除く

- 1 HEOS お気に入りリスト表示中に Δ を押して、HEOS お気に入りリストから取り除きたい項目を選び、OPTION を押す。
- 2 Δ を押して“HEOS お気に入りから取り除く”を選び、ENTER を押す。



入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更します。入力ソースごとに設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 $\Delta\nabla$ を押して“チャンネルレベル調節”を選び、ENTER を押す。

“チャンネルレベル調節”画面を表示します。

3 $\Delta\nabla$ を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。

4 \triangleleft を押して、音量を調節する。

-12.0 dB ~ +12.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0 dB)

5 $\Delta\nabla$ を押して“終了”を選び、ENTER を押す。



- 各チャンネルの調整値を“0.0dB” (お買い上げ時の設定)に戻したい場合は、“リセット”を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。
([P.187](#) ページ)



トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 Δ▽ を押して“トーンコントロール”を選び、ENTER を押す。

“トーンコントロール”画面を表示します。

3 ◀▶ を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。

オン:	低音や高音のトーンを調節できます。
オフ (お買い上げ時の設定):	トーンを調節せずに再生します。

4 手順3で“オン”を選び、▽を押して調節する音域を選ぶ。

低音: 低音を調節します。

高音: 高音を調節します。

5 ◀▶ を押してトーンを調節し、ENTER を押す。

-6 dB~+6 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- “トーンコントロール”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(P.181 ページ)
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。(P.187 ページ)
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。



音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)

音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映し出します。入力ソースごとに設定できます。

□ 対応する入力ソース:

CD* / Tuner / HEOS Music / Phono

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれも割り当てていない場合に設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押ししてください。

2 Δ▽ を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。

“ビデオセレクト”画面を表示します。

3 <▶> を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。

オフ
(お買い上げ時の設定): ビデオセレクトモードが無効です。

オン: ビデオセレクトモードが有効です。

4 手順3で“オン”を選び、▽を押して“ソース選択”を選ぶ。

5 <▶>を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTERを押す。



- “ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)

□ 対応する入力ソース:

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX /
Media Player / CD* / TV Audio*

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれかを割り当てていて、“i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(P193 ページ)

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 Δ▽ を押して“ピクチャーモード”を選び、ENTER を押す。

“ピクチャーモード”画面を表示します。

3 ◀▶ を押して、ピクチャーモードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	本機による画質調整をおこないません。
スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を鑑賞するのに適したモードです。
ビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動でおこないます。

4 ENTER を押す。



- “ピクチャーモード”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (All Zone Stereo)

メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 (別の部屋) でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体で BGM を流したい場合に便利です。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 Δ / ∇ を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

“All Zone Stereo”画面を表示します。

3 “スタート”を選び、ENTER を押す。

ゾーン 2 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、All Zone Stereo モードで再生をはじめます。

■ All Zone Stereo モードを解除する

1 All Zone Stereo モードで再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 Δ / ∇ を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

3 “ストップ”を選び、ENTER を押す。



- メインゾーンの電源をオフにしたときも All Zone Stereo モードを解除します。
- All Zone Stereo モード中は、サウンドモードの“Multi Ch Stereo”および“Stereo”のみ選択できます。
- メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は、All Zone Stereo モードを使用できません。(P.187 ページ)
- All Zone Stereo モードでの再生状態をスマートセレクト機能に記憶させると、いつでもワンタッチで All Zone Stereo モードでの再生ができます。
- “INPUT MODE”の設定が“7.1 CH IN”以外のときに、All Zone Stereo モードを使用できます。(P.202 ページ)



リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)

スピーカーを使用する環境に合わせて、2種類のスピーカー設定を保存することができます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 Δ▽ を押して“スピーカープリセット”を選び、ENTER を押す。

“スピーカープリセット”画面を表示します。

3 <▷ を押して、保存するプリセットを選ぶ。

プリセット 1
(お買い上げ時の設定): プリセット 1 を使用します。

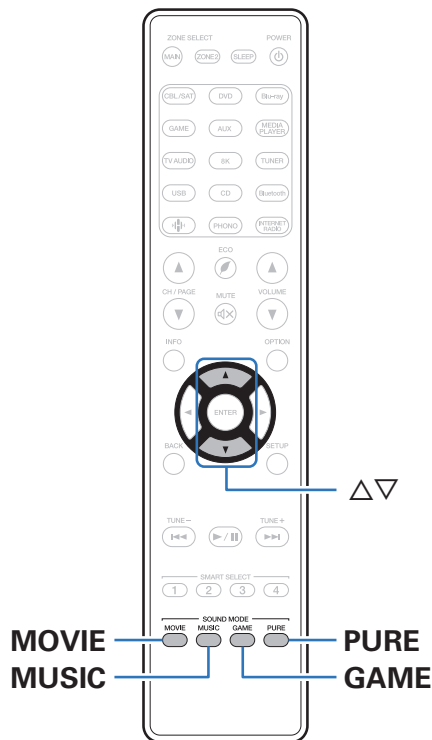
プリセット 2: プリセット 2 を使用します。



- 次の場合に本機能を使用できます。
 - “スピーカープリセット”を“プリセット 2”に設定し、手動でスピーカーの設定をおこなった後
 - 2 回目の Audyssey® セットアップをおこない、その結果を“プリセット 2”に保存した後



サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクやDVDはもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。



- ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。



サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

MOVIE:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
MUSIC:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。
GAME:	サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。



- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。
- 本体の SOUND MODE を押しても、サウンドモードを選択できます。

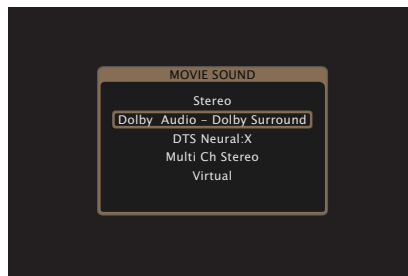
■ サウンドモードを切り替える

- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードで選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わりません。
- この一覧を表示中に Δ / ∇ を押しても、サウンドモードを選択できません。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最も好みのサウンドモードでお楽しみください。



- Dolby Atmos で収録されたコンテンツを再生するときは、サウンドモードを“Dolby Atmos/Surround”に切り替えてください。Dolby Atmos/Surround は、Dolby Atmos で収録されたディスクやストリーミングを最適化された臨場感あふれるサウンドで提供します。お買い上げ時は、“Dolby Atmos/Surround”に設定しています。

【例】MOVIE を押したとき



ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

- 1 PURE を押して、“Direct” を選ぶ。
ダイレクト再生をはじめます。



- DSD 信号を再生しているときは“DSD Direct”を表示します。
- 本体の PURE DIRECT を押しても、ダイレクト再生ができます。

ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。

本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

- 1 PURE を押して、“Pure Direct” を選ぶ。
ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。
PURE DIRECT 表示が点灯します。



- ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
 - トーンコントロール (129 ページ)
 - M-DAX (177 ページ)
 - MultEQ® XT32 (181 ページ)
 - Dynamic EQ (181 ページ)
 - Dynamic Volume (182 ページ)
 - グラフィック EQ (183 ページ)
- 本体の PURE DIRECT を押しても、ピュアダイレクト再生ができます。

ご注意

- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モードを選択すると、ディスプレイは約 5 秒後に消灯します。



オートサラウンド再生

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれの信号に対応した再生モードに切り替えます。

入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないます。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

1 PURE を押して、“Auto”を選ぶ。

オートサラウンド再生をはじめます。



- 本体の PURE DIRECT を押しても、オートサラウンド再生ができます。



サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Dolby Atmos	Dolby Atmos で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。Dolby Atmos コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。 スピーカーバーチャライザー機能を使用することで、オーバーヘッドスピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカーの設置環境においても、臨場感のある音場体験をお楽しみいただけます。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD(サンプリング周波数=192kHz/96kHz)で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Surround	Dolby Surround Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 トップミドルスピーカーなどの天井スピーカーを使用すると立体的な音場をお楽しみいただけます。



DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES Dscrt6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリット方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES Mtrx6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードによりサラウンド左/サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左/サラウンド右/サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS:X	DTS:X で収録されたディスクの再生に適したモードです。 DTS:X コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。ハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。



サウンドモードの種類	説明
IMAX DTS	DTS ビットストリームで収録された IMAX Enhanced コンテンツを再生時自動的に有効になります。(P.174 ページ) <ul style="list-style-type: none"> メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オン”で、サンプリング周波数が 48kHz の DTS 5.1 チャンネル信号が入力されているときに選択できます。 メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”の設定が“2 台”、なおかつ“スピーカー構成” - “センター”の設定が“大”または“小”のときにサウンドモードを“IMAX DTS”に設定すると、サラウンドの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。サラウンドスピーカーからは音声を出力しません。 “フロント”および“センター”の設定が“小”の場合は、スピーカーの低音情報はサブウーハーにリダイレクトされませんが、IMAX の特別なアルゴリズムによってフロントスピーカーとセンタースピーカーからの低音効果が向上します。
IMAX DTS:X	DTS:X ビットストリームで収録された IMAX Enhanced コンテンツを再生時自動的に有効になります。(P.174 ページ) <ul style="list-style-type: none"> “フロント”および“センター”の設定が“小”の場合は、スピーカーの低音情報はサブウーハーにリダイレクトされませんが、IMAX の特別なアルゴリズムによってフロントスピーカーとセンタースピーカーからの低音効果が向上します。
DTS Neural:X	DTS Neural:X Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 フロントハイトスピーカーなどのハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Virtual:X*2*3	ハイトチャンネルを使用していないときに、DTS Virtual:X 技術を使用して立体的な音場をお楽しみいただけます。

*1 メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”の設定が“無し”以外のときに選択できます。(P.223 ページ)

*2 入力信号が Dolby Digital, Dolby Digital Plus, Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

*3 ハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用していないときに選択できます。



PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch In	マルチチャンネルの PCM または DSD で収録されたディスクの再生に適したモードです。

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
MPEG-2/MPEG-4 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2/MPEG-4 AAC が配信されているときに選択できます。 高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。



オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Auto	Dolby Digital, Dolby TrueHD, Dolby Digital Plus, Dolby Digital EX, Dolby Atmos, DTS, DTS-HD, DTS:X, DTS-ES, PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないません。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないません。

ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 <ul style="list-style-type: none"> フロントスピーカー(左/右)とサブウーハーから音声を出力します。 マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
Pure Direct	“Direct”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 より音質を高めるために次の回路を停止します。 <ul style="list-style-type: none"> 本体のディスプレイ表示回路(ディスプレイが消灯します。) アナログビデオ入出力回路



入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”で音場効果を調節すると、より好みのサウンドでお楽しみいただけます。(P.172 ページ)

入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
2チャンネル *1	Stereo	○	○	○
	Dolby Surround *2	○	○	○
	DTS Neural:X *2	○	○	○
	DTS Virtual:X *3*4	○	○	○
	Multi Ch Stereo *5	○	○	○
	Virtual	○	○	○

- *1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 2チャンネルソースを5.1、7.1、9.1 または 11.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *3 ヘッドホン使用時やナイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
- *4 入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。
- *5 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *6	Stereo	○	○	○
Dolby Digital	Dolby Digital *5	○	○	○
	Dolby Digital + Dolby Surround *5	○	○	○
	Dolby Digital + Neural:X *5	○	○	○
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus *5	○	○	○
	Dolby Digital Plus + Dolby Surround *5*7	○	○	○
	Dolby Digital Plus + Neural:X *5	○	○	○
	Dolby Atmos *5*8	○	○	○
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD *5	○	○	○
	Dolby TrueHD + Dolby Surround *5*7	○	○	○
	Dolby TrueHD + Neural:X *5	○	○	○
	Dolby Atmos *5*8	○	○	○
Dolby Atmos	Dolby Atmos *5	○	○	○

*5 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

*6 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。

*7 入力信号に、Dolby Atmos が含まれていない場合に選択できます。

*8 入力信号に、Dolby Atmos が含まれている場合に選択できます。



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *6 DTS	DTS Surround *5	○	○	○
	DTS ES Dscrt 6.1 *5	○	○	○
	DTS ES Mtrx 6.1 *5	○	○	○
	DTS 96/24 *5	○	○	○
	DTS + Dolby Surround *5	○	○	○
	DTS + Neural:X *5	○	○	○
	DTS + Virtual:X *3	○	○	○
	IMAX DTS *9	○	○	○
	IMAX DTS + Neural:X *5*9	○	○	○
	IMAX DTS + Virtual:X *3*9	○	○	○
	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES *5	○	○
DTS-HD MSTR *5		○	○	○
DTS Express *5		○	○	○
DTS-HD + Dolby Surround *5		○	○	○
DTS-HD + Neural:X *5		○	○	○
DTS-HD + Virtual:X *3		○	○	○

- *3 ヘッドホン使用時やホワイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
- *5 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。
- *6 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。
- *9 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オン”で、サンプリング周波数が 48kHz の DTS 5.1 チャンネル信号が入力されているときに選択できます。(P.174 ページ)



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
DTS:X	DTS:X *5	○	○	○
	DTS:X MSTR *5	○	○	○
	DTS:X + Virtual:X *3	○	○	○
IMAX DTS	IMAX DTS *5*10	○	○	○
	IMAX DTS + Neural:X *5*10	○	○	○
	IMAX DTS + Virtual:X *3*10	○	○	○
IMAX DTS:X	IMAX DTS:X *5*10	○	○	○
	IMAX DTS:X + Virtual:X *3*10	○	○	○
PCMマルチチャンネル	Multi Ch In *5	○	○	○
	Multi Ch In 7.1 *5	○	○	○
	Multi In + Dolby Surround *5	○	○	○
	Multi Ch In + Neural:X *5	○	○	○
	Multi In + Virtual:X *3	○	○	○
AAC	MPEG-2 AAC *5*11	○	○	○
	MPEG-4 AAC *5*12	○	○	○
	AAC + Dolby Surround *5	○	○	○
	AAC + Neural:X *5	○	○	○
	AAC + Virtual:X *3	○	○	○
マルチチャンネル *6	Multi Ch Stereo *5	○	○	○
	Virtual	○	○	○

*3 ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

*5 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

*6 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。

*10 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オード”のときに選択できます。“IMAX”の設定が“オフ”の場合は通常の DTS または DTS:X 再生になります。(P.174 ページ)

*11 MPEG-2 信号が入力されたときに選択できます。

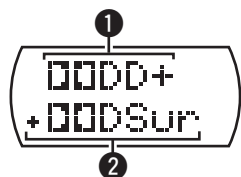
*12 MPEG-4 信号が入力されたときに選択できます。



• ヘッドホン使用時に選択できるサウンドモードは、“Stereo”および“Virtual”のみです。



■ ディスプレイの表示について



- ① 使用するデコーダーを表示します。
 - Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“0000+”と表示します。
- ② 音声を生成するデコーダーを表示します。
 - “000Sur”は、Dolby Surround デコーダーを使用していることをあらわします。



HDMIコントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

- 1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(P.189 ページ)
- 2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。
- 6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI ZONE2 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。
- メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに、HDMI ZONE2 機能を使用すると、HDMI ZONE2 機能が十分に機能しない場合があります。



スマートメニュー機能

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

- 1 本機とテレビのHDMIコントロール機能を有効にする。(P189 ページ)
- 2 本機の“スマートメニュー”設定を“オン”にしてください。(P191 ページ)
- 3 テレビの“入力”* または“HDMI 接続した機器の操作”* などのメニューに表示された“AV Receiver”を選ぶ。
本機のスマートメニューをテレビに表示します。
 - スマートメニュー表示中は、テレビのリモコンで本機の操作ができます。

* ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。



■ 現在の入力ソース

本機が現在選択している入力ソースのコンテンツを視聴します。

■ ソース選択

本機の入力を切り替えます。
“HEOS Music”や“Tuner”を選択した場合、引き続きテレビのリモコンで操作できます。

■ サウンドモード

本機のサウンドモードを変更します。
選択できるサウンドモードは、次の3つです。

サラウンド:	入力信号に応じたサラウンド再生をします。
ステレオ:	ステレオ再生をします。
マルチチャンネルステレオ:	マルチチャンネルステレオ再生をします。



■ セットアップメニュー

本機の設定をおこなうセットアップメニューを表示します。

■ Smart Select

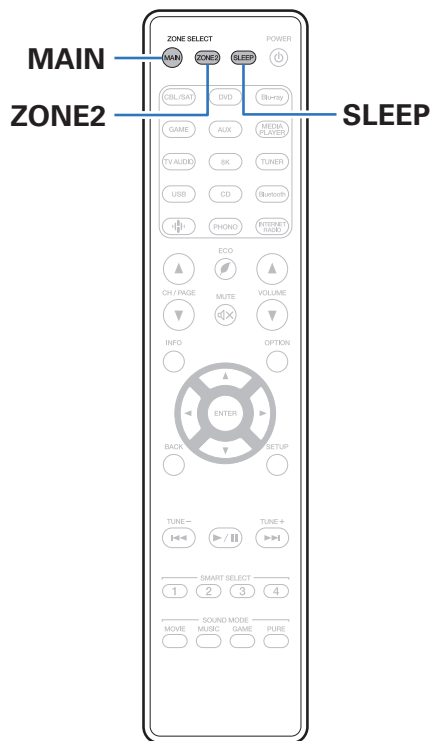
本機に登録されている“Smart Select”を呼び出します。

ご注意

- “HDMI コントロール”または“スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。(P.191 ページ)



スリープタイマー機能



設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。



スリープタイマーを設定する

1 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

- ディスプレイのスリープタイマー表示が点灯して、スリープタイマーが動作します。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。
ディスプレイのスリープタイマー表示が消灯します。



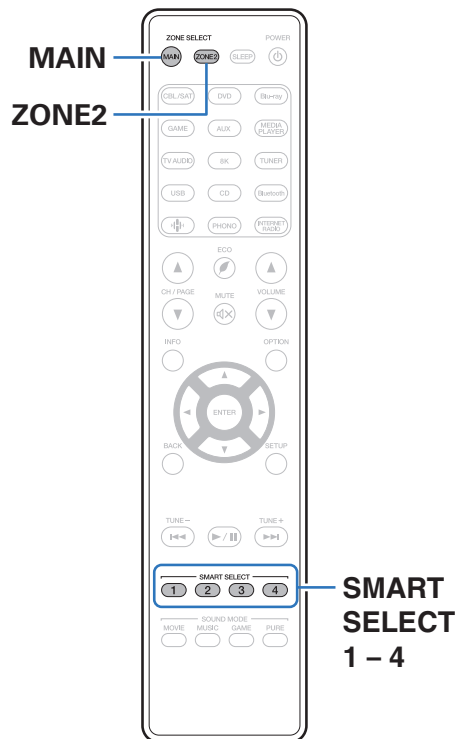
- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

- スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。



スマートセレクト機能



SMART SELECT 1~4 ボタンに入力ソース、音量レベル、サウンドモードの設定などを登録できます。

次に再生するときは、登録してある SMART SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を SMART SELECT 1~4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

スマートセレクト機能は、ゾーンごとに記憶できます。



設定を呼び出す

1 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 SMART SELECT を押す。

押したボタンに記憶している設定内容を読み出します。

- お買い上げ時の入力ソースの設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】 / 【ゾーン 2】

ボタン	入力ソース
SMART SELECT 1	CBL/SAT
SMART SELECT 2	Blu-ray
SMART SELECT 3	Media Player
SMART SELECT 4	HEOS Music



- お買い上げ時の音量は、スマートセレクト機能に記憶されていません。スマートセレクト機能に音量を記憶したい場合は、「設定を変更する」を参照しておこなってください。(P.155 ページ)



設定を変更する

1 次の内容を記憶させたい状態にする。

メインゾーンでは次の①～⑪の設定を記憶させ、ゾーン2では次の①、②の設定を記憶させることができます。

- ① 入力ソース(☞85 ページ)
- ② 音量(☞86 ページ)
- ③ サウンドモード(☞134 ページ)
- ④ Audyssey(Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®, Audyssey LFC™)(☞180 ページ)
- ⑤ 「M-DAX」(☞177 ページ)
- ⑥ 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞128 ページ)
- ⑦ 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞130 ページ)
- ⑧ 「視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)」(☞131 ページ)
- ⑨ “All Zone Stereo” (☞132 ページ)
- ⑩ “スピーカープリセット” (☞133 ページ)
- ⑪ 「HDMI ビデオ出力」(☞192 ページ)



- 次の入力ソースで、ラジオの受信中に SMART SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局を記憶します。
 - Tuner / インターネットラジオ局

2 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

3 ディスプレイに“Smart* Memory”または“Z2 Smart* Memory”が表示されるまで、変更したい SMART SELECT を長押しする。

現在の設定を記憶します。

* は押された SMART SELECT の数字を表示します。

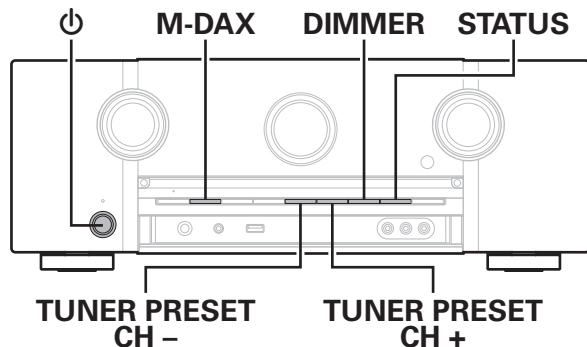
■ スマートセレクト名を変更する

本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示するメインゾーンのスマートセレクト名をお好みの名前に変更できます。変更のしかたは、メニューの“スマートセレクト名の変更”をご覧ください。(☞246 ページ)



フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にできます。




すべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DIMMER を押しながら、**電源** を押す。
- 2 TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、“P/V LOCK On” を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
電源以外のボタン操作が無効になります。

VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DIMMER を押しながら、**電源** を押す。
- 2 TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、“FP LOCK On” を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
電源および VOLUME 以外のボタン操作が無効になります。

フロントキーロック機能を解除する

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DIMMER を押しながら、 を押す。
- 2 TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、“FP LOCK *Off” を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
フロントキーロック機能を解除します。



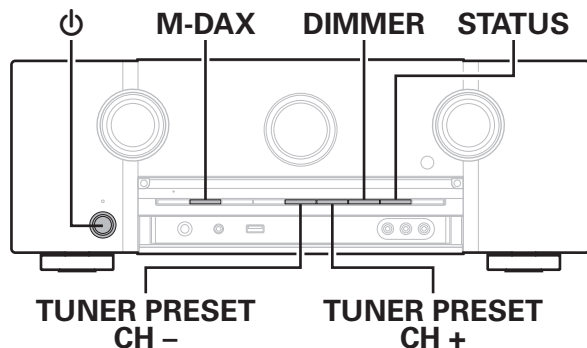
- フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。



リモートロック機能

本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

お買い上げ時は無効に設定されています。



リモコンの受信機能を無効にする

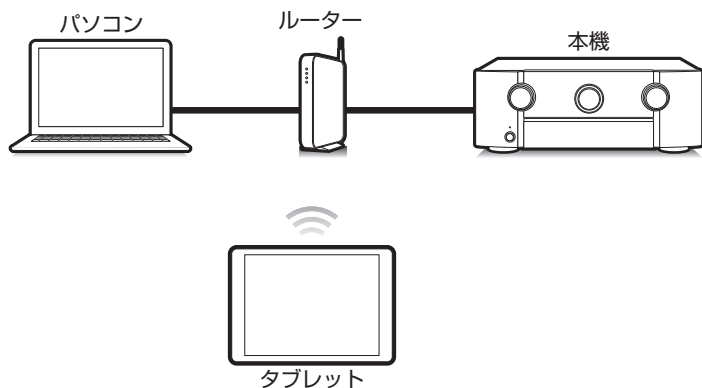
- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DIMMER を押しながら、**⏻** を押す。
- 2 TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、“RC LOCK On” を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が無効になります。

リモコンの受信機能を有効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、M-DAX と DIMMER を押しながら、**⏻** を押す。
- 2 TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、“RC LOCK *Off” を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が有効になります。

ウェブコントロール機能

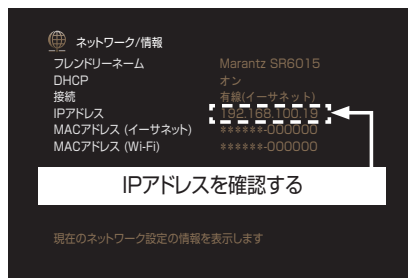
ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能をご使用になるには、本機とパソコンまたはタブレットが同じネットワークに正しく接続されている必要があります。(P.79 ページ)
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。このような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

ウェブコントロール機能で本機をコントロールする

- 1 メニューの“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にする。(P.236 ページ)
- 2 メニューの“情報”で、本機の IP アドレスを確認する。(P.231 ページ)

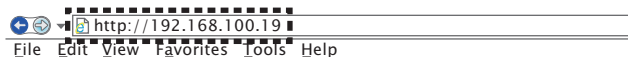


- 3 ブラウザを起動する。



4 ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。

例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。



5 ウェブブラウザにトップメニューが表示されたら、操作したいメニュー項目をクリックする。



ゾーン2(別の部屋)での再生

本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン2)で音声を楽しむことができます。メインゾーンおよびゾーン2で同時に同じソースを再生することができます。また、メインゾーンおよびゾーン2で別々のソースを再生することもできます。

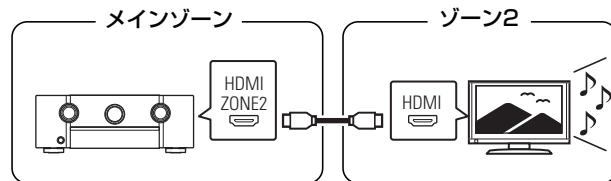
ゾーン2の接続

ゾーン2で映像や音声を再生するには、次の3とおりの方法があります。

- 「HDMI ZONE2 端子を使用した接続」(P.161 ページ)
- 「スピーカー出力端子を使用した接続」(P.162 ページ)
- 「外部アンプを使用した接続」(P.162 ページ)

■ 接続1:HDMI ZONE2 端子を使用した接続


HDMI ZONE2 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1~6 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン2で再生できます。(HDMI ZONE2 機能)

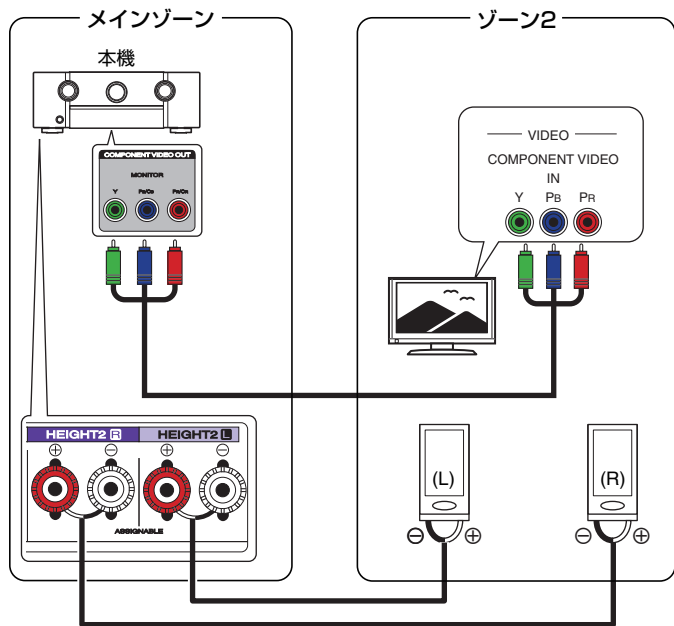


- HDMI ZONE2 OUT 端子にテレビを接続し、メインゾーンとゾーン2を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声が2チャンネルになる場合があります。



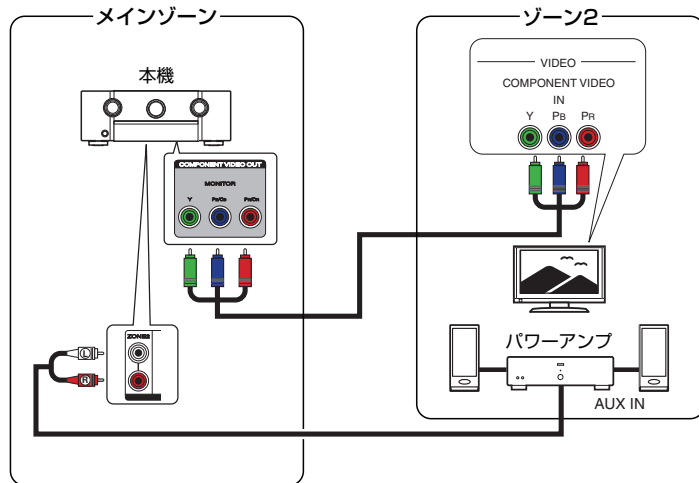
■ 接続 2: スピーカー出力端子を使用した接続

メニューの“アサインモード”を“ZONE2”に設定すると、HEIGHT2 スピーカー端子からゾーン 2 の音声を出力します。
( 215 ページ)



■ 接続 3: 外部アンプを使用した接続(ゾーン 2)

本機のゾーン 2 の音声を外部のアンプに出力して再生します。

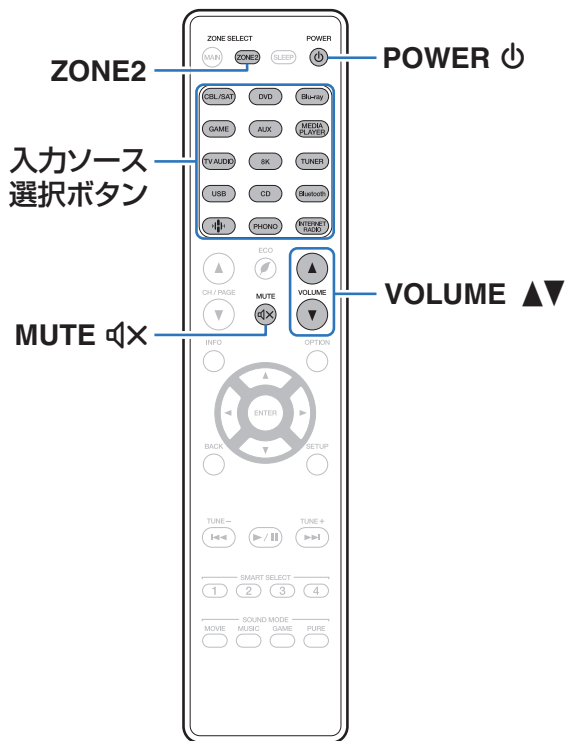




- ゾーン 2 の入力を“Source”に設定すると、すべてのタイプの入力信号をゾーン 2 から聞くことができます。(P.164 ページ)
- ゾーン 2 の入力を特定のソース(CBL/SAT など)に設定している場合は、アナログまたは PCM 2 チャンネル信号(HDMI 端子またはデジタルオーディオ端子(OPTICAL/COAXIAL))のみをゾーン 2 で再生することができます。PCM 2 チャンネル以外の HDMI 信号をゾーン 2 で再生したい場合は、“HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。(P.245 ページ)
ゾーン 2 で選択している入力ソースに接続された機器から PCM 2 チャンネル信号が出力され、ゾーン 2 で再生することができます。この場合、メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声も PCM 2 チャンネル信号になります。ただし、再生機器によっては、この設定をおこなっても PCM 信号に変換されない場合があります。
- メニュー画面は、ゾーン 2 には出力しません。



ゾーン2で再生する



- 1 ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンをゾーン2 に設定する。
ZONE2 ボタンが点灯します。
- 2 POWER ㊦ を押して、ゾーン2 の電源を入れる。
ディスプレイのゾーン2 電源表示が点灯します。
 - 本体の ZONE2 ON/OFF を押しても、ゾーン2 の電源をオン/オフできます。
- 3 入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。
選択した入力ソースの音声を、ゾーン2 のスピーカーに出力します。
 - 本体の ZONE2 SOURCE を押した後に、INPUT SELECTOR を回しても、ゾーン2 の入力ソースを選択できます。



- ゾーン2 の入力ソースを“Source”に設定すると、入力信号に関わらず、メインゾーンとゾーン2 で同じコンテンツを再生できます。
- 本体の ZONE2 SOURCE を押した後に INPUT SELECTOR を回して、ゾーン2 の入力ソースを“Source”に設定してください。
- ゾーン2 の入力ソースが“Source”のときにメインゾーンの入力ソースを変更すると、ゾーン2 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに変更されます。



■ 音量を調節する(ゾーン2)

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- お買い上げ時は、“音量の上限”を“70 (-10 dB)”に設定しています。(🔧 245 ページ)




- 本体の ZONE2 SOURCE を押したあとに VOLUME を回しても、ゾーン2の音量を調節できます。

■ 一時的に音を消す(ミュートイング)(ゾーン2)

MUTE  を押す。

メニューの“ミュートインングレベル”で設定したレベルまで音量が減衰します。(🔧 246 ページ)



- ミュートインングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。






メニュー一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。


本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 オーディオ	センターレベルの調節	すべての入力ソースに対して、センターチャンネルの音量を調節します。	171
	サブウーハーレベルの調節	すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。	171
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	172
	M-DAX	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	177
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出カタイミングを調節します。	178
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	179
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	180
	Audyssey	Audyssey MultEQ [®] XT32、Audyssey Dynamic EQ [®] 、Audyssey Dynamic Volume [®] および Audyssey LFC [™] の設定をします。	180
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	183
 ビデオ	画質調整	映像の画質を調節します。	185
	HDMI 設定	HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。	187
	ビデオ出力の設定	映像出力に関する設定をします。	192
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	196
	スクリーンセーバー	スクリーンセーバーを設定します。	197
	4K/8K 信号フォーマット	4K または 8K のテレビや再生機器に応じて、本機の HDMI 入出力の映像フォーマットを設定します。	197
	HDCP 設定	HDMI 入力端子が割り当てられている入力ソースごとに HDCP バージョンを設定します。	199
	TV フォーマット	ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	199





設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てや音声入力モードを変更します。	200
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	203
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	203
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	203
 スピーカー	Audyssey®セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的に起こします。	204
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	215
 ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	231
	接続	ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。	231
	詳細な設定	IP アドレスを手動で設定するときに設定します。	234
	ネットワークコントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	236
	フレンドリーネーム	“フレンドリーネーム”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。	236
	診断	ネットワークの接続を確認します。	237
	AirPlay	Apple AirPlay 機能を設定します。	237

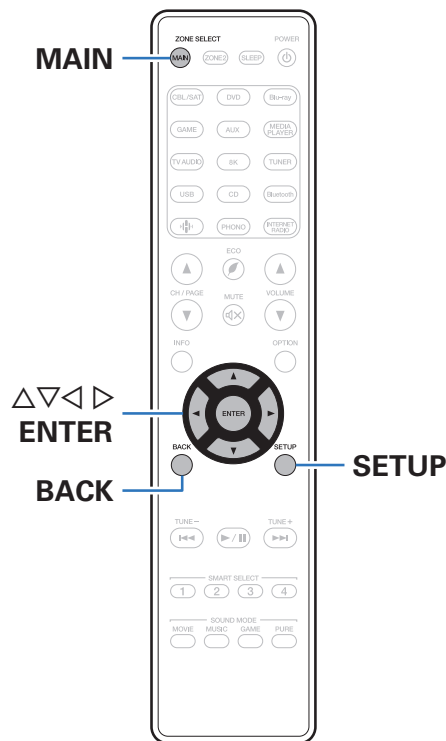


設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
 HEOS アカウント	【HEOS アカウントでサインインしていない場合】		
	既にアカウントをもっている	HEOS アカウントにサインインします。	238
	アカウントを作成する	新規に HEOS アカウントを作成します。	238
	パスワードを再設定する	パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。	238
	【HEOS アカウントでサインインしている場合】		
	サインイン中	サインインしているアカウントを表示します。	238
	地域を変更	お住まいの地域を選択します。	238
	パスワードを変更	HEOS アカウントのパスワードを変更します。	238
	アカウントを削除	HEOS アカウントを削除します。	238
	サインアウト	HEOS アカウントからサインアウトします。	238



設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	239
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	239
	Bluetooth 送信	Bluetooth 送信の設定をします。	243
	ゾーン 2 の設定	ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。	244
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	246
	スマートセレクト名の変更	スマートセレクト名をお好みの名前に変更します。	246
	トリガーアウト	トリガーアウト機能を動作させる条件を選択します。	247
	フロントディスプレイ	本機のディスプレイの明るさを調節します。	247
	ファームウェア	アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	248
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	251
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	253
	セーブ&ロード	USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。	253
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	254
	初期化	各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。	254
 セットアップアシスタント	初めから設定を行う	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の 9 ページ
	言語の設定	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	ネットワークの設定		
	テレビ音声の接続		
	入力の設定		
	モバイルアプリ		





メニュー操作のしかた

- 1 **MAIN** を押して、リモコンで操作するゾーンをメインゾーンに設定する。
MAIN ボタンが点灯します。
- 2 **SETUP** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 3 $\Delta \nabla \triangleright \triangleleft$ を押して設定または操作したいメニューを選び、**ENTER** を押す。
- 4 $\triangleleft \triangleright$ を押して、お好みの設定に変更する。
- 5 **ENTER** を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、**BACK** を押してください。
 - メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。メニュー表示が消灯します。



オーディオ

音声に関する設定をします。

センターレベルの調節

すべての入力ソースに対して、センターチャンネルの音量を調節します。

■ センター

センターチャンネルから出力される音量を調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- この設定は、メニューの“スピーカー” - “レベル”設定のセンターチャンネルレベルにも反映します。(P.227 ページ)

サブウーハーレベルの調節

すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。

■ サブウーハー 1 / サブウーハー 2

サブウーハー 1 およびサブウーハー 2 の音量を調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- この設定は、メニューの“スピーカー” - “レベル”設定のサブウーハーチャンネルレベルにも反映します。(P.227 ページ)



サラウンドパラメーター

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。



- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン: “シネマ EQ”を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “シネマ EQ”を使用しません。



- サウンドモードが“Direct”、“Pure Direct”、“Stereo”および“オリジナルサウンドモード”の場合は設定できません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): “ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションを有効にした内容で出力します。

オフ: “ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションが無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。



- “LOUDNESS MANAGEMENT”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。



■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。



- “ダイナミックレンジ圧縮”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos または DTS 信号を入力しているときに設定できます。
- お買い上げ時の設定は“オフ”です。入力信号が Dolby TrueHD および Dolby Atmos ソースの場合、お買い上げ時の設定は“オート”になります。
- DTS 信号を入力しているときは、“オート”に設定できません。

■ ダイアログコントロール

映画のせりふや音楽のボーカルの音量を調節し、聴きやすくします。

0~6(お買い上げ時の設定:0)



- ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに設定できます。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

□ “入力モード”の設定が“7.1CH IN”以外のとき

-10 dB~0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

□ “入力モード”の設定が“7.1CH IN”のとき

0dB / +5dB / +10dB / +15dB (お買い上げ時の設定:+10dB)



- 入力信号に LFE 信号が含まれている場合に設定できます。
- Dolby Digital、DTS または DVD オーディオ信号を再生しているときに設定できます。
- 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
 - Dolby Digital ソース:0 dB
 - DTS の映画ソース:0 dB
 - DTS の音楽ソース:-10 dB



■ スピーカーバーチャライザー

スピーカーバーチャライザー機能は、サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを使用していない場合でも、仮想的に臨場感のあるサラウンド効果を実現します。

オン (お買い上げ時の設定):	“スピーカーバーチャライザー”機能を有効にします。
オフ:	“スピーカーバーチャライザー”機能を無効にします。



- サウンドモードが“Dolby Atmos”、“Dolby Surround”またはサウンドモード名に“+Dolby Surround”が含まれているサウンドモードのときに設定できます。
- ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用していないとき、またはサラウンドスピーカーを使用していないときに使用できます。
- メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”を“1 台”に設定しているときに、“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定すると、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。

■ DTS Neural:X

DTS Neural:X は、DTS:X 信号に含まれるチャンネルベース信号を抽出し、ご使用のスピーカーの設置環境に合わせて最適なサラウンド効果を与えます。

オン (お買い上げ時の設定):	“DTS Neural:X”を使用します。
オフ:	“DTS Neural:X”を使用しません。



- サウンドモードが“DTS:X”または“DTS:X MSTR”のときに設定できます。

■ IMAX

IMAX 再生用のオーディオモードを設定します。

オート (お買い上げ時の設定):	IMAX コンテンツを検出したときに、IMAX モードを自動的に適用します。
オン:	IMAX コンテンツを自動検出できない信号(例えば、IMAX スตรีミングコンテンツ)を再生する場合に設定すると、IMAX モードを適用することができます。
オフ:	IMAX モードを適用しません。



- テレビアプリやプレーヤーアプリ(ブルーレイプレーヤーアプリなど)を使用してオンラインストリーミングサービスから IMAX コンテンツを再生する場合、本機が IMAX コンテンツとして信号を検出しないことがあります。この場合、IMAX モードを有効にするには、この設定を手動で“オン”にしてください。
- IMAX DTS として収録された DTS 5.1 チャンネルコンテンツが入力された場合のみ、“オン”に設定できます。
- ヘッドホンを使用しているときは設定できません。



■ IMAX オーディオ設定

IMAX シアターの環境を再現するために、IMAX 専用のオーディオ設定をおこないます。

オート
(お買い上げ時の設定): IMAX シアター環境を再現するのに最適なスピーカー設定を適用します。

マニュアル: “ハイパスフィルター”、“ローパスフィルター”および“サブウーハーモード”を手動で設定します。



- サウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときに設定できます。
- IMAX 再生中はメニューの“スピーカー” - “クロスオーバー周波数”、“低音” - “サブウーハーモード”および“LFE 用ローパスフィルター”の設定は適用しません。

■ ハイパスフィルター

IMAX 再生中のすべてのスピーカーのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できます。

■ ローパスフィルター

IMAX 再生中の LFE 信号のローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz /
180 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できません。

■ サブウーハーモード

IMAX 再生中にサブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

オン:

サブウーハー用の信号に、すべてのスピーカーの低音域信号を加えて出力します。LFE 信号および各スピーカーの低音成分を再生します。

オフ

(お買い上げ時の設定): LFE 信号のみ再生します。



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できます。



■ スピーカー選択

音声を出力するスピーカーを設定します。

フロア: ハイトスピーカーを使用せずに再生します。

フロア&ハイト
(お買い上げ時の設定): ハイトスピーカーを使用して再生します。



- サウンドモードがオリジナルサウンドモードのときは設定できません。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): サブウーハーを使用します。

オフ: サブウーハーを使用しません。



- サウンドモードが“Direct”または“Stereo”で、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。
(229 ページ)

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



M-DAX

MP3、WMA (Windows Media Audio) や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“M-DAX”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強:	高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。(64kbps 以下)
中:	圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。(96kbps 以下)
弱:	高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。(96kbps 以上)
オフ:	“M-DAX”を使用しません。



- M-DAX 表示が点灯します。
- アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されたときに設定できます。
- 入力ソースが、“HEOS Music”のときのお買い上げ時の設定は、“弱”です。それ以外の入力ソースのお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。
- “M-DAX”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 本体の M-DAX を押しても、M-DAX モードの設定ができません。



オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。



- メニューの“ビデオモード”が“オート”または“ゲーム”のときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。(p.193 ページ)
- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 入力モードが“7.1 CH IN”のときは設定できません。

■ オートリップシンク

オートリップシンク機能対応のテレビからの情報に基づいて、映像と音声のタイミングのずれを自動的に補正します。

オン
(お買い上げ時の設定): 自動的に補正します。

オフ: 自動的に補正しません。



- ご使用のテレビによっては、“オートリップシンク”を“オン”に設定しても、自動補正されない場合があります。

■ 調整

手動で映像と音声の出力タイミングのずれを補正します。

0 ms~500 ms(お買い上げ時の設定:0 ms)



- “オートリップシンク”で補正されたディレイ値を微調整することもできます。
- メニューの“ビデオモード”設定が“オート”または“ゲーム”のときに、ゲームモード用ディレイ値の調整ができます。(p.193 ページ)



音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 - 98
(お買い上げ時の設定): 0(最小)~98の範囲で表示します。

-79.5 dB - 18.0 dB: ---dB(最小)、-79.5dB~18.0dBの範囲で表示します。



- “表示方法”の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60~80(-20 dB~0 dB)

オフ (お買い上げ時の設定)



- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞179 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 設定した音量になります。



- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞179 ページ)

■ ミューティングレベル

ミュート時の音量の減衰量を設定します。

消音
(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 下げて再生します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 下げて再生します。



バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey®

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(p.295 ページ)をご覧ください。



- “MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“リファレンスオフセット”、“Dynamic Volume”、“Audyssey LFC™”および“抑制量”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”の場合、“MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”および“Audyssey LFC™”の設定はできません。
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”および“Audyssey LFC™”の設定はできません。
- 48kHz を超えるサンプリング周波数で DTS:X 信号が入力された場合は設定できません。
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。



■ MultEQ® XT32

MultEQ® XT32 は、Audyssey®セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3 種類の補正カーブから選択できます。

“Reference”に設定することをおすすめします。

Reference (お買い上げ時の設定):	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さめの部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT32” を使用しません。



- ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT32” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン
(お買い上げ時の設定): “Dynamic EQ” を使用します。

オフ: “Dynamic EQ” を使用しません。



- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。(P.129 ページ)
- “MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。



■ リファレンスオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ[®]は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dBから下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQは、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB:	クラシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB:	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB:	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。



- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。
(181 ページ)

■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

MultEQ[®] XT32 と連動して動作します。

Heavy:	音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Medium:	音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Light:	音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“Dynamic Volume”を使用しません。



- “Audyssey[®]セットアップ”で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。
(204 ページ)
- “MultEQ[®] XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。



■ Audyssey LFC™

低音周波数帯域を調節し、隣の部屋に低音や振動が漏れることを防ぎます。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン: “Audyssey LFC™” を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “Audyssey LFC™” を使用しません。



- “MultEQ® XT32” の設定が“オフ”のときは設定できません。

■ 抑制量

抑制する低域の量を調節します。隣の部屋に低音が漏れるのを防ぎたい場合は、より高い値を設定してください

1～7(お買い上げ時の設定:4)



- メニューの“Audyssey LFC™”の設定が“オン”のときに設定できます。

グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。



- 設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- “MultEQ® XT32” の設定が“オフ”のときに設定できます。(P.181 ページ)
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- ヘッドホンをご使用の場合は、ヘッドホン用のイコライザーを設定できます。(P.183 ページ)
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは設定できません。

■ グラフィックEQ / ヘッドホンEQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン: グラフィックイコライザーを使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): グラフィックイコライザーを使用しません。



- ヘッドホンを使用しているとき、メニュー項目は“ヘッドホンEQ”になります。



■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左/右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ EQ 調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz /
2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
-20.0 dB ~ +6.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0 dB)



- フロント Dolby、サラウンド Dolby およびバック Dolby スピーカーは、63 Hz/125 Hz/250 Hz/500 Hz/1 kHz のみ設定できます。

■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた Flat の補正カーブをコピーします。



- “カーブコピー”は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。
- ヘッドホンをご使用の場合は、“カーブコピー”はできません。

■ 初期化

“グラフィック EQ”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



ビデオ

映像に関する設定をします。

画質調整

映像の画質を調節します。



- メニューの“ビデオコンバージョン”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.193 ページ)
- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときに設定できます。(P.201 ページ)
- “コントラスト”、“ブライトネス”、“色の濃さ”、“ノイズ除去”および“エンハンサー”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。(P.185 ページ)
- “画質調整”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- “画質調整”は、4K または 8K 信号入力時は設定できません。
- “画質調整”はサウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときは設定できません。


■ ピクチャーモード

ビデオコンテンツや視聴環境に合わせて、お好みのピクチャーモードを選択します。

スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を鑑賞するのに適したモードです。
ビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動でおこないます。
オフ (お買い上げ時の設定):	本機による画質調整をおこないません。





- “ISF Day”および“ISF Night”の2つのモードは、ISF 認定を受けた映像技術者が専用の調整モードを用いることで、設置条件に合わせたカラーキャリブレーション調整をおこなうことができます。ISF 認定の技術者による設定と調整をおこなうことをおすすめします。
- オプションメニューの“ピクチャーモード”でも設定できます。
( 185 ページ)

■ コントラスト

映像の明暗の差を調節します。

-50~+50(お買い上げ時の設定:0)

■ ブライツネス

映像の明るさを調節します。

-50~+50(お買い上げ時の設定:0)

■ 色の濃さ

色の濃さを調節します。

-50~+50(お買い上げ時の設定:0)

■ ノイズ除去

映像全体のノイズを軽減します。

弱 / 中 / 強 / オフ(お買い上げ時の設定: オフ)

■ エンハンサー

映像の輪郭を強調します。

0~+12(お買い上げ時の設定:0)



HDMI 設定

HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。

ご注意

- “HDMI パススルー”および“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。(「HDMI パススルー」(P.187 ページ)、「HDMI コントロール」(P.189 ページ))
長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ
(お買い上げ時の設定): 本機に接続したスピーカーで再生します。

テレビ: 本機に接続したテレビで再生します。



- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(P.148 ページ)
- “HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”で本機の電源が入っている場合、HDMI 出力端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。

オフ: 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません。



■ パススルーソース

本機がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後のソース (お買い上げ時の設定): 前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Media Player / Game / AUX / 8K / TV Audio / CD*: 選択した入力ソースをパススルーします。

* “入力端子の割り当て”の設定で、CD に HDMI 端子が割り当てられているときのみ、“パススルーソース”を“CD”に設定できます。(☞200 ページ)



- “パススルーソース”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。(「HDMI パススルー」(☞187 ページ)、「HDMI コントロール」(☞189 ページ))

■ スタンバイ時のソース選択

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの入力ソース選択ボタンで本機の電源をオンにするかどうかを設定します。

電源オン+入力ソース選択 (お買い上げ時の設定): 本機の電源をオンして、入力ソースを切り替えます。

入力ソース選択のみ: 本機はスタンバイ状態のまま HDMI の入力ソースを切り替えます。リモコンの入力ソース選択ボタンを受け付けたときに、本機の電源表示が点滅します。



- “スタンバイ時のソース選択”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。(「HDMI パススルー」(☞187 ページ)、「HDMI コントロール」(☞189 ページ))



■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン: HDMI コントロール機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): HDMI コントロール機能を使用しません。



- HDMI コントロール機能を使用する場合は、HDMI MONITOR 1 端子と HDMI コントロール対応のテレビを接続してください。
- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(P.148 ページ)

ご注意

- “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ ARC

ARC 機能を使用し、HDMI MONITOR 1 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。

オン: ARC 機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): ARC 機能を使用しません。



- テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。
- この機能を使用する場合は、ARC (Audio Return Channel) に対応したテレビを使用し、テレビの HDMI コントロール機能を有効にしてください。
- “HDMI コントロール”の設定を“オン”にすると、“ARC”の設定は自動的に“オン”になります。(P.189 ページ)

ご注意

- “ARC”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- eARC 機能対応のテレビをご使用になる場合は、メニューの“ARC”の設定に関わらず、テレビからの音声を本機に接続されたスピーカーで聞くことができます。



■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定): テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。

オフ: テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。



- “TV Audio 切り替え”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.189 ページ)

■ パワーオフコントロール

テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。

すべて (お買い上げ時の設定): 本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。

ビデオ: “HDMI”、“COMP”または“VIDEO”のいずれかが割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。(P.201 ページ)

オフ: 本機はテレビの電源に連動しません。



- “パワーオフコントロール”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.189 ページ)



■ 省電力

テレビの音声出力先の設定を“テレビスピーカー”にした場合、自動的に本機をスタンバイモードにし、消費電力を抑えます。この機能は次のときに動作します。

- 本機の入力ソースが“TV Audio”のとき
- HDMI 接続されている機器のコンテンツを視聴しているとき

オン: 省電力機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 省電力機能を使用しません。



- “省電力”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.189 ページ)

■ スマートメニュー

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

オン: スマートメニュー機能を使用します。

オフ: スマートメニュー機能を使用しません。



- “スマートメニュー”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.189 ページ)

ご注意

- “スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。



ビデオ出力の設定

映像出力に関する設定をします。



- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときに設定できます。(P.201 ページ)
- “解像度”、“シャープネス”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”は、“i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(「解像度」(P.194 ページ)、「シャープネス」(P.194 ページ)、「プログレッシブモード」(P.195 ページ)、「アスペクト比」(P.195 ページ))
- “ビデオ出力の設定”は、4K または 8K 信号入力時は設定できません。
- “ビデオモード”、“i/p スケーラー”、“解像度”、“シャープネス”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”はサウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときは設定できません。(「ビデオモード」(P.193 ページ)、「i/p スケーラー」(P.193 ページ)、「解像度」(P.194 ページ)、「シャープネス」(P.194 ページ)、「プログレッシブモード」(P.195 ページ)、「アスペクト比」(P.195 ページ))
- “ビデオコンバージョン”、“ビデオモード”、“i/p スケーラー”、“解像度”、“シャープネス”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”の設定は、入力ソースごとに記憶します。(「ビデオコンバージョン」(P.193 ページ)、「ビデオモード」(P.193 ページ)、「i/p スケーラー」(P.193 ページ)、「解像度」(P.194 ページ)、「シャープネス」(P.194 ページ)、「プログレッシブモード」(P.195 ページ)、「アスペクト比」(P.195 ページ))

■ HDMI ビデオ出力

使用する HDMI モニター端子を選択します。

オート(デュアル) (お買い上げ時の設定):	HDMI MONITOR 1 または HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。
モニター 1:	HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。
モニター 2:	HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。



- HDMI MONITOR 1 および HDMI MONITOR 2 端子にテレビを接続した場合、“解像度”の設定が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。(P.194 ページ)
メニューの“解像度”の設定が“オート”以外のときは、“ビデオ” - “HDMI モニター 1”および“HDMI モニター 2”で、両方のテレビが対応している解像度に設定してください。(P.251 ページ)
- テレビが対応している解像度は、“HDMI モニター 1”および“HDMI モニター 2”で確認できます。(P.251 ページ)
- 2 台の Dolby Vision 対応テレビを接続する場合、映像信号は片方のテレビにのみ最適化されます。HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを優先します。



■ ビデオモード

映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。

オート (お買い上げ時の設定):	HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。
ゲーム:	ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。ゲーム機のコントローラーのボタン操作に対して映像が遅れている場合に、映像の遅れを最小にします。
ムービー:	ゲーム以外のコンテンツに適した映像処理をおこないます。



- “ビデオモード”の設定が“オート”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。

■ ビデオコンバージョン

入力された映像信号を接続されたテレビに合わせて自動的に変換します。(P.289 ページ)

オン (お買い上げ時の設定):	入力された映像信号を変換します。
オフ:	入力された映像信号を変換しません。

■ i/p スケーラー

i/p スケーラー処理をおこなう映像入力信号を設定します。i/p スケーラーは、入力された映像信号の解像度を“解像度”で設定した値に変換します。(P.194 ページ)

アナログ (お買い上げ時の設定):	アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。
アナログ&HDMI:	アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
HDMI:	HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
オフ:	i/p スケーラー機能を使用しません。



■ 解像度

出力する解像度を設定します。“解像度”は、アナログビデオ入力と HDMI 入力の HDMI 出力に対してそれぞれ設定できません。

オート
(お買い上げ時の設定): HDMI MONITOR OUT 端子に接続しているテレビが対応している解像度を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。

480p/576p / 1080i /
720p / 1080p /
4K / 8K: 出力したい解像度を選択します。



- “i/p スケーラー”の設定が“アナログ&HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できません。(☞193 ページ)
- アップスケーリングの詳細は、「ビデオコンバージョン機能」(☞290 ページ)をご覧ください。

■ シャープネス

ビデオ信号を 4K または 8K にアップスケーリングするときに、画像の輪郭を強調するシャープネス機能を使用するかどうかを設定します。

オン: シャープネス機能を使用します。低解像度のビデオ信号を 4K または 8K にアップスケーリングするときに、画像の輪郭をはっきりさせるのに適しています。

オフ
(お買い上げ時の設定): シャープネス機能を使用しません。



- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(☞193 ページ)
- テレビのシャープネス機能を 0 に設定している場合にのみ使用することをおすすめします。



■ プログレッシブモード

映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。

オート (お買い上げ時の設定):	映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。
ビデオ:	ビデオ素材の再生に適しています。
ビデオ&フィルム:	ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。



- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
(193 ページ)

■ アスペクト比

HDMI 端子へ出力する映像信号のアスペクト比(縦横比)を設定します。

16:9 (お買い上げ時の設定):	16:9 のアスペクト比で出力します。
4:3:	16:9 のテレビの画面左右に黒帯をつけて 4:3 のアスペクト比で出力します。(ただし、480p/576p 出力時は除きます。)



- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
(193 ページ)



オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下
(お買い上げ時の設定): 画面の下部に表示します。

上: 画面の上部に表示します。

オフ: 表示しません。



- 音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

■ 情報

入力ソースの切り替えなど情報表示の設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 情報を表示します。

オフ: 情報を表示しません。

■ 再生画面

入力ソースが“HEOS Music”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン
(お買い上げ時の設定): 常に表示します。

オートオフ: 操作したときに約 30 秒間表示します。



スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定します。

ビデオ信号が入力されていない場合や、セットアップメニュー画面のように同じ映像が続けて表示される場合に、5分以上操作が無いときにスクリーンセーバーが作動して、テレビの焼き付けを防止します。

また、スクリーンセーバーを解除する場合は、△▽◀▶ を押してください。

オン:	スクリーンセーバーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	スクリーンセーバーを使用しません。



- 次のときにスクリーンセーバーが作動します。
 - セットアップメニュー画面が表示されているとき
 - ビデオ信号が入力されていないとき
 - ネットワークや USB、Bluetooth、Tuner の再生画面が表示されているとき
- この機能は、ファームウェアのアップデートで対応する予定です。

4K/8K 信号フォーマット

本機に接続しているテレビや再生機器が HDMI 4K または 8K 信号に対応しているときに、本機で再生する 4K/8K 信号のフォーマットを設定します。

■ 4K/8K 信号フォーマット

本機で再生する 4K および 8K 信号のフォーマットを設定します。

標準:	ご使用のテレビと再生機器が標準的な 4K 60p 4:2:0 8bit の映像信号に対応しているときに選択します。
拡張 (お買い上げ時の設定):	ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 4K 60p 4:4:4 8bit、4:2:2 または 4:2:0 10bit の映像信号に対応しているときに選択します。
8K 拡張:	ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 8K 60p または 4K 120p の映像信号に対応しているときに選択します。



【4K/8K 信号フォーマットの設定と対応する解像度の関係】

対応解像度	カースペース	ビット数	4K/8K 信号フォーマット		
			標準	拡張	8K 拡張
4K 24p, 4K 30p, 4K 25p	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	✓	✓
		10, 12bit	-	✓	✓
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	✓	✓
4K 60p, 4K 50p	YCbCr 4:2:0	8bit	✓	✓	✓
		10, 12bit	-	✓	✓
	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	-	✓	✓
		10, 12bit	-	-	✓
	YCbCr 4:2:2	12bit	-	✓	✓
4K 120p, 4K 100p	YCbCr 4:2:0	8、10、 12bit	-	-	✓
	RGB / YCbCr 4:4:4	8、10bit	-	-	✓
	YCbCr 4:2:2	12bit	-	-	✓
8K 24p, 8K 30p, 8K 25p	YCbCr 4:2:0	8、10、 12bit	-	-	✓
	RGB / YCbCr 4:4:4	8、10bit	-	-	✓
	YCbCr 4:2:2	12bit	-	-	✓
8K 60p, 8K 50p	YCbCr 4:2:0	8、10 bit	-	-	✓



- この設定を“拡張”に設定した場合は、“HDMI Premium Certified Cable”ラベルが製品のパッケージに貼られている“Premium High Speed HDMI Cable”または“Premium High Speed HDMI Cable with Ethernet”のご使用をおすすめします。
- この設定を“8K 拡張”に設定したときは、“Ultra High Speed 48 Gbps HDMI cable”のご使用をおすすめします。
- この設定を“拡張”または“8K 拡張”に設定したときは、テレビや再生機器の設定も合わせて設定してください。
- この設定を“拡張”または“8K 拡張”に設定したとき、接続した再生機器や HDMI ケーブルによっては正しく映像が出力されない場合があります。このような場合は、“標準”に設定してください。
- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。
- “4K/8K 信号フォーマット”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
 - 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“Video Format < NTSC >”を表示します。
 - 本体の DIMMER を押す。
ディスプレイに“4K/8K Format < Enh >”を表示します。
 - 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、4K/8K 信号フォーマットを選ぶ。
 - 本体の STATUS を押して、設定を終了する。



HDCP 設定

HDMI 入力端子が割り当てられている入力ソースごとに HDCP バージョンを設定します。

ご使用のプレーヤーやテレビの組み合わせによっては、HDCP のバージョンの違いにより映像が出力されない場合があります。

このような場合は、本設定で HDCP のバージョンを制限することにより映像を出力することができます。

オート (お買い上げ時の設定):	接続しているテレビの HDCP バージョンに合わせて本機の対応 HDCP バージョンを自動的に適用します。
1.4:	本機の HDCP バージョンを 1.4 に固定します。
2.3:	本機の HDCP バージョンを 2.3 に固定します。



- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。

TV フォーマット

ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

■ フォーマット

NTSC (お買い上げ時の設定):	NTSC 方式で出力します。
PAL:	PAL 方式で出力します。



- “フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
 1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに “Video Format <NTSC>” を表示します。
 2. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、映像信号方式を選ぶ。
 3. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

ご注意

- 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。



入カソース

現在選択している入カソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入カソースのとおり接続をおこなうと、入カソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印字された入カソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子、コンポーネントビデオ入力端子およびビデオ入力端子の割り当てを変更してください。

“INPUT MODE”で各入カソースの音声入力モードを設定します。通常は、“AUTO”に設定することをおすすめします。HDMI > DIGITAL > ANALOG の優先順位で本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。



- 各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入カソース	入力端子				INPUT MODE
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	VIDEO	
CBL/SAT	1	COAX1	1	VIDEO1	AUTO
DVD	2	COAX2	2	COMP1	AUTO
Blu-ray	3	-	3	VIDEO2	AUTO
Media Player	4	OPT2	-	COMP2	AUTO
Game	5	-	4	VIDEO3	AUTO
AUX	-	-	FRONT	FRONT	ANALOG
8K	7(8K)	-	-	-	HDMI
TV Audio	-	OPT1	-	-	DIGITAL
CD	-	-	5	-	ANALOG



□ 衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合:

“入力端子の割り当て” - “DIGITAL”で割り当てた音声信号と、“HDMI”で割り当てた映像信号を組み合わせると再生する場合は、“INPUT MODE”を“DIGITAL”に設定してください。



- 同じ入力端子を複数の入力ソースに割り当てることができます。例えば、同じ HDMI 入力端子を複数の入力ソースに割り当てて、それぞれの入力ソースにお好みのアナログオーディオ端子やデジタルオーディオ端子を組み合わせることができます。この場合、あらかじめ再生したいオーディオ端子を“INPUT MODE”で設定してください。

■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 選択した入力ソースに、いずれかの HDMI (8K): 入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。



- 入力ソースの“8K”には“HDMI7”のみ割り当てることができます。
- メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることができません。(「HDMI コントロール」(P.189 ページ)、「ARC」(P.189 ページ))
- 入力ソースの“TV Audio”に“HDMI”を割り当てた場合、eARC 機能は動作しません。

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

COAX1 (Coaxial) / COAX2 / OPT1 (Optical) / OPT2: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / FRONT: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。

■ VIDEO

入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子およびビデオ入力端子を変更するときに設定します。

COMP1 (コンポーネントビデオ) / COMP2 / VIDEO1 / VIDEO2 / VIDEO3 / FRONT: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。

-: 選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。



■ INPUT MODE

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“AUTO”に設定することをおすすめします。

AUTO (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
DIGITAL:	デジタルオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
ANALOG:	アナログオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
7.1CH IN:	7.1CH IN 端子からの入力信号のみを再生します。



- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 1 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。
- HDMI MONITOR 1 端子に eARC 機能対応のテレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは eARC 固定になります。
- 入力モードが“7.1CH IN”のときは、サウンドモードを選択できません。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



入力ソース名の変更

- 入力ソースの表示名を変更します。
変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。
- 接続した HDMI 機器から機器名を取得できた場合は、自動的に表示名を変更します。
ご使用の機器名と本機の入力ソース名が異なっている場合には、お好みに合わせて変更してください。

CBL/SAT / DVD / Blu-ray /
Media Player / Game /
AUX / 8K / TV Audio /
CD / Phono:

選択した入力ソースの表示名を変更します。

初期化:

“入力ソース名の変更”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



- 16 文字まで入力できます。

使用ソースの選択

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

使用する (お買い上げ時の設定):	選択した入力ソースを使用します。
使用しない:	選択した入力ソースを使用しません。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey®セットアップ”と呼びます。

すでに“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。

手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(P.215 ページ)

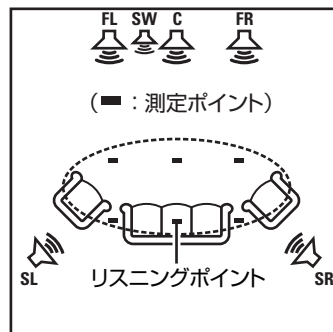
Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように6箇所以上(最大で8箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。

2箇所目以降の測定では、1箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から60cm以内にセットアップマイクを設置してください。



- Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey LFC™の機能が有効になります。(P.180 ページ)



- FL フロントスピーカー(左)
- FR フロントスピーカー(右)
- C センタースピーカー
- SW サブウーハー
- SL サラウンドスピーカー(左)
- SR サラウンドスピーカー(右)



■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときの座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT32 は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

■ Audyssey Sub EQ HT™について

Audyssey Sub EQ HT™は、2本のサブウーハーの音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

Audyssey Sub EQ HT™をおこなうためには、“チャンネルセレクト”の設定で“測定(2台)”を選択してください。(P.207ページ)

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間にも立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から50cm以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンのVOLUME ▲▼または本体のVOLUMEを操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンが接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



スピーカー設定の流れ(Audyssey® セットアップ)

準備



測定



解析&保存



解析結果の確認



終了

1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さをリスナーが座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

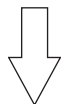
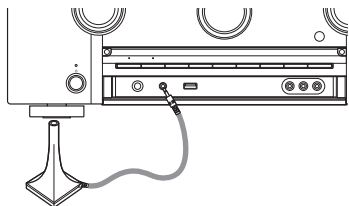
❑ ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合

次のように設定してください。

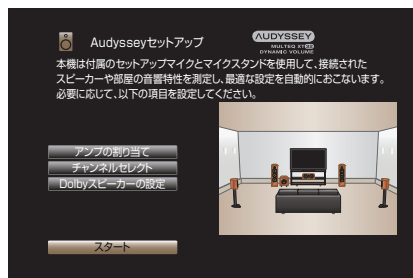
- 音量の設定: 12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定: 最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定: オフ
- スタンバイモードの設定: オフ



3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



4 “スタート”を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

- **アンプの割り当て**

本機の HEIGHT1 および HEIGHT2 スピーカー端子は、ご使用になるスピーカー環境に合わせて出力する信号を切り替えることができます。(「アンプの割り当て」(P.215 ページ))

- **チャンネルセレクト**

使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます。

- **Dolby スピーカーの設定**

Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。

これはフロント Dolby Atmos Enabled、サラウンド Dolby Atmos Enabled またはバック Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているときに設定できません。

5 画面の指示に従って、“次へ”を選んで進める。



6 次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTERを押す。

1 箇所目の測定をはじめます。



- 測定には数分間かかります。

ご注意

- テレビ画面に“注意！”が表示された場合：
 - 「エラーメッセージについて」(P.212 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
 - サブウーハーの音量が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。「サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた」(P.213 ページ)でサブウーハーの音量を調節してください。

7 検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTERを押す。



8 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTER を押す。

2箇所目の測定をはじめます。
最大8箇所まで測定できます。



□ Audyssey®セットアップを中止するとき

- ① BACK を押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② < を押して“有り”を選び、ENTER を押す。

9 手順8をくり返して3～8箇所を測定する。



- 4箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、< で“測定終了”を選択して ENTER を押し、手順 11 へ進んでください。

10 “次へ”を選び、ENTER を押す。



測定結果の解析および保存をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

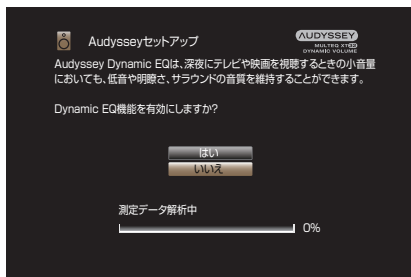
ご注意

- 測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。



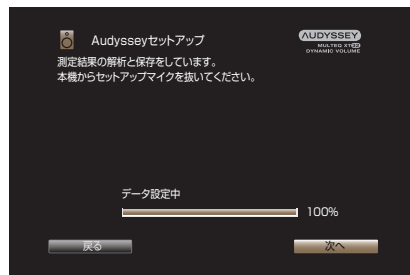
11 Audyssey Dynamic EQ[®]や Audyssey Dynamic Volume[®]の設定をする。

解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。



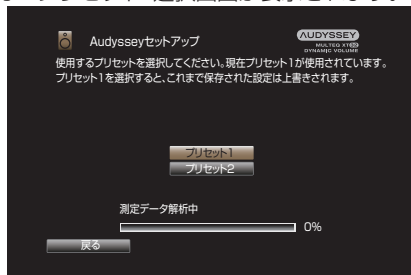
- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。
深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてくださいになる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。
テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的に起こします。

12 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、「次へ」を選ぶ。





- 初めて Audyssey®セットアップをおこなった場合、測定データは自動的に“スピーカープリセット”の“プリセット 1”に保存します。
- すでに Audyssey®セットアップをおこなっている場合は、次の“スピーカープリセット”選択画面が表示されます。



- スピーカープリセット機能についての詳細は、“スピーカープリセット”をご覧ください。(P.230 ページ)

13 測定結果を確認する場合は、“詳細”を選び ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

- Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカー構成メニューで新しいスピーカーを有効にしないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。



エラーメッセージについて

スピーカーの配置や測定環境などにより Audyssey®セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> • セットアップマイクが検出されない。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	<ul style="list-style-type: none"> • 部屋の騒音が大きいです。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの配置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの位相が逆です。 	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、▷ を押して“続行”を選び、ENTER を押してください。



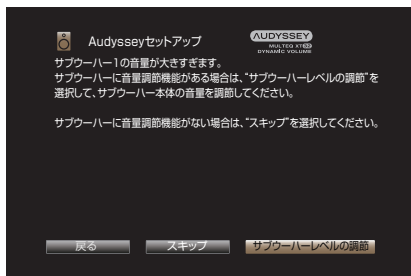
■ サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた

Audyssey®セットアップ測定での各サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。

サブウーハーレベルの測定で、サブウーハーレベルが 72～78dB 以外有的时候にエラーメッセージを表示します。

アンプ(アクティブ型)を内蔵したサブウーハーを使用する場合は、サブウーハーレベルが 72～78dB の範囲内になるように、サブウーハーの音量を調整してください。

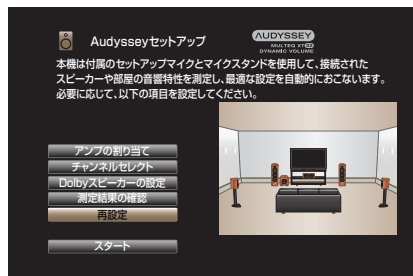
【エラーメッセージ】



- 1 “サブウーハーレベルの調節”を選び、ENTER を押す。
- 2 お手持ちのサブウーハーの音量を測定レベルが 72～78dB 以内になるように調節する。
- 3 測定レベルが 72～78dB 以内になったら、“次へ”を選び、ENTER を押す。
 - サブウーハーを 2 台で使用になる場合は、2 台目のサブウーハーの調整をはじめます。手順 2、3 をくり返してください。

Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XT32 が当初計算した値)に戻すことができます。



マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカー構成メニューで新しいスピーカーを有効にすると、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の選択ができません。(180 ページ)
- マニュアルセットアップでは、次の設定を変更できます。スピーカーサイズ(大または小)/距離/レベル/クロスオーバー周波数の設定を変更した後、Audyssey®を無効にしたり、Audyssey®セットアップを再度おこなう必要はありません。
- “マニュアルセットアップ”の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。

■ アサインモード

パワーアンプの使用方法を設定します。

設定したモードによっては、スピーカー構成の詳細設定が必要になります。アサインモードを選んだあと、対応する詳細設定をおこなってください。

11.1ch:

- 本機内部の9チャンネルのパワーアンプとプリアウト端子に接続した外部のパワーアンプを使用し、最大11.1チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大11.1チャンネルのスピーカーを接続することができます。



9.1ch

(お買い上げ時の設定):

- 本機内部のすべてのパワーアンプをメインゾーン用に割り当て、最大 9.1 チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 9.1 チャンネルで再生します。

7.1ch + ZONE2:

- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
- メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

7.1ch(Bi-Amp):

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2:

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。



7.1ch + Front B:

- 2 台目のフロントスピーカーの接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。

- フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B を切り替えて再生します。

フロントスピーカーの切り替えは、“フロントスピーカー”の設定でおこなってください。(P.230 ページ)

- メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

プリアンプ:

- すべてのスピーカーを外付けのパワーアンプを使用して接続し、本機をプリアンプとして使用します。



- メニューの“アサインモード”の設定が“7.1ch + ZONE2”、“7.1ch(Bi-Amp)”または“7.1ch + Front B”の場合、割り当てられたチャンネルは、HEIGHT2 スピーカー端子から出力されます。
- メニューのアサインモードの設定が“5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2”の場合、バイアンプ接続用フロントチャンネルは HEIGHT1 スピーカー端子から出力され、ゾーン 2 チャンネルは HEIGHT2 スピーカー端子から出力されます。

■ フロア

設置するフロアスピーカーを設定します。

5ch & SB
(お買い上げ時の設定):

基本の 5 チャンネルレイアウトに、サラウンドバックスピーカーを組み合わせたレイアウトです。

5ch:

フロント、センターおよびサラウンドスピーカーを使用した基本的な 5 チャンネルレイアウトです。



■ ハイト

□ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトおよび天井スピーカーの数を設定します。

無し:	ハイトおよび天井スピーカーを使用しません。
2ch:	ハイトまたは天井スピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4ch (お買い上げ時の設定):	ハイトまたは天井スピーカーを 2 組(4 台)使用します。

□ Dolby スピーカー

メインゾーンで使用する Dolby Atmos Enabled スピーカーの数を設定します。

無し (お買い上げ時の設定):	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しません。
2ch:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを 1 組(2 台)使用します。
4ch:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組(4 台)使用します。



□ レイアウト

設置するハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーの位置を設定します。

メニューの“アサインモード”と“フロア”の組み合わせによって、選択できるレイアウトが異なります。(「アサインモード」(P.215 ページ)、「フロア」(P.217 ページ))

設定			AUDIO OUT 端子		
ハイトスピーカー	Dolby スピーカー	ご注意	レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
無し	無し		-	-	-
2ch	無し		フロントハイト	フロントハイト	-
			トップフロント	トップフロント	-
			トップミドル	トップミドル	-
			トップリア	トップリア	-
			リアハイト	リアハイト	-
4ch	無し	*1	フロントハイト&トップミドル	フロントハイト	トップミドル
			フロントハイト&トップリア	フロントハイト	トップリア
			フロントハイト&リアハイト	フロントハイト	リアハイト
			トップフロント&トップリア (お買い上げ時の設定)	トップフロント	トップリア
			トップフロント&リアハイト	トップフロント	リアハイト
無し	2ch		トップミドル&リアハイト	トップミドル	リアハイト
			フロント Dolby	フロント Dolby	-
			サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	-
			バック Dolby*2	バック Dolby	-

*1 メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”または“9.1ch”のときに設定できます。

*2 メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”で、なおかつ“フロア”の設定が“5ch & SB”のときに設定できます。



設定			AUDIO OUT 端子		
ハイトスピーカー	Dolby スピーカー	ご注意	レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
2ch	2ch	*1	フロント Dolby&トッリア	フロント Dolby	トッリア
			フロント Dolby&リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
			フロントハイト&サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
			フロントハイト&バック Dolby*3	フロントハイト	バック Dolby
			トップフロント&サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
無し	4ch	*1	フロント Dolby&サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
			フロント Dolby&バック Dolby*3	フロント Dolby	バック Dolby

*1 メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”または“9.1ch”のときに設定できます。

*3 メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”で、なおかつ“フロア”の設定が“5ch & SB”のときに設定できます。



■ プリアウト

“アサインモード”の設定が“11.1ch”のとき、メインゾーンで使用する外付けのパワーアンプを接続するプリアウト端子を選択します。

メニューの“フロア”と“ハイト” - “レイアウト”の組み合わせによって、選択できるプリアウト端子が異なります。

メニューの“フロア”の設定が“5ch & SB”で、ハイトおよびDolby スピーカーを合計 4 台使用する場合に設定できます。

HEIGHT 2* ハイト 2 チャンネルのプリアウトを外部
(お買い上げ時の設定): のパワーアンプに接続します。

フロント: フロントチャンネルのプリアウトを外部
 のパワーアンプに接続します。

* メニューの“ハイト” - “レイアウト”の設定で、HEIGHT 2 スピーカー端子に設定されたスピーカー名が表示されます。

■ 端子の接続確認

“アンプの割り当て”で設定した内容に対して、スピーカー端子やプリアウト端子の接続方法をメニュー画面に表示します。



スピーカー構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさを設定します。



- “アンプの割り当て”で“HEIGHT1”に割り当てたスピーカーを“無し”に設定した場合、“HEIGHT2”は自動的に“無し”になります。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大 低音域を十分に再生できる大型スピーカー
(お買い上げ時の設定): を使用します。

小: 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。



- “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “フロント”の設定が“小”の場合、“フロント”以外を“大”に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大: 低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。

小 (お買い上げ時の設定): 低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

無し: センタースピーカーを使用しません。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

2台: サブウーハーを2台使用します。

1台
(お買い上げ時の設定): サブウーハーを1台使用します。

無し: サブウーハーを使用しません。



- “サブウーハー”の設定が“無し”のときに“フロント”を“小”に設定すると、“サブウーハー”の設定は自動的に“1台”になります。



■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドスピーカーを使用しません。



- “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“サラウンドバック”、“サラウンド Dolby”および“バック Dolby”の設定は自動的に“無し”になります。

■ サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドバックスピーカーを使用しません。

2台 (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを2台使用します。
--------------------	------------------------

1台:	サラウンドバックスピーカーを1台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACKのL端子に接続してください。
-----	--



- “サラウンドバック”の設定が“無し”または“1台”のとき、“バック Dolby”の設定は自動的に“無し”になります。



■ フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントハイトスピーカーを使用しません。

■ トップフロント

トップフロントスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップフロントスピーカーを使用しません。

■ トップミドル

トップミドルスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップミドルスピーカーを使用しません。

■ フロント Dolby

フロント Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロント Dolby スピーカーを使用しません。



■ サラウンド Dolby

サラウンド Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンド Dolby スピーカーを使用しません。

■ トップリア

トップリアスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップリアスピーカーを使用しません。

■ リアハイト

リアハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	リアハイトスピーカーを使用しません。

■ バック Dolby

バック Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	バック Dolby スピーカーを使用しません。



- “アンプの割り当て”で“HEIGHT1”に割り当てたスピーカーを“無し”に設定した場合、“HEIGHT2”は自動的に“無し”になります。



距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル (お買い上げ時の設定)

フィート

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m / 0.01 m (お買い上げ時の設定: 0.1 m)

1 ft / 0.1 ft

■ 距離を設定します

0.00 m ~ 18.00 m / 0.0 ft ~ 60.0 ft



- メニューの“アンプの割り当て”および“スピーカー構成”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。(「アンプの割り当て」(P.215 ページ)、「スピーカー構成」(P.222 ページ))
- お買い上げ時の設定:
フロント左 / フロント右 / フロントハイト左 / フロントハイト右 / センター / フロント Dolby 左 / フロント Dolby 右 / サブウーハー 1 / サブウーハー 2: 3.60 m (12.0 ft)
上記以外のスピーカー: 3.00 m (10.0 ft)
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 m (20.0 ft) 以下になるように設定してください。



■ Dolby スピーカーの設定

Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。

0.90 m~3.30 m / 3.0 ft~11.0 ft
(お買い上げ時の設定: 1.80 m / 6.0 ft)



- メニューの“フロント Dolby”、“サラウンド Dolby”または“バック Dolby”の設定が、“スピーカー構成”の“大”または“小”のときに設定できません。

■ 初期化

“距離”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定: 0.0 dB)



- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”で設定してください。(P.128 ページ)
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーの選択方法

クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。

すべて (お買い上げ時の設定):	すべてのスピーカーに対して同じクロスオーバー周波数を設定します。
スピーカー別:	スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- “クロスオーバー周波数”は、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。(P.229 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常“80 Hz”に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が 250Hz～20kHz の場合は、“250 Hz”に設定してください。
- “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- メニューの“サブウーハーモード”の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。(P.229 ページ)
 - “LFE”の場合は、“スピーカー構成”で“小”に設定しているスピーカーの設定ができます。“大”に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。(P.222 ページ)
 - “LFE+メイン”の場合は、“スピーカー構成”の設定に関係なく設定できます。(P.222 ページ)
- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(P.175 ページ)



低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE (お買い上げ時の設定):	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。



- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカー構成” - “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(P.222 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカー構成” - “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(P.222 ページ)
常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。
- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(P.175 ページ)

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz /
180 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(P.175 ページ)



フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A (お買い上げ時の設定):	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。



- メニューの“アサインモード”の設定が“7.1ch + Front B”のときに設定できます。(P.217 ページ)

スピーカープリセット

スピーカーを使用する環境に合わせて、2 種類のスピーカー設定を保存することができます。

例えば、スクリーンの使用・未使用などにより部屋の特性が変わる場合に、2 種類のプリセットを持つことで簡単に Audyssey®セットアップで測定したイコライザーやスピーカーの設定を切り替えることができます。

プリセットを使用する場合には、あらかじめ使用するプリセットを選択してから Audyssey®セットアップやスピーカーの設定をおこなうと、選択しているプリセットに設定が保存されます。

プリセット 1 (お買い上げ時の設定):	プリセット 1 に保存します。
--------------------------------	-----------------

プリセット 2:	プリセット 2 に保存します。
-----------------	-----------------



- プリセットには次の設定が記憶されます。
 - “アンプの割り当て”の設定
 - “スピーカー構成”の設定
 - “距離”の設定
 - “レベル”の設定
 - “クロスオーバー周波数”の設定
 - “低音”の設定
 - “フロントスピーカー”の設定
 - “MultEQ® XT32”データ
 - “グラフィック EQ”データ
- オプションメニューの“スピーカープリセット”でも設定できます。(P.133 ページ)



ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。DHCPでホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。各機器にIPアドレスを手動で割り当てている場合は、“IPアドレス”の設定で本機にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP / IP アドレス /
MAC アドレス (イーサネット) / MAC アドレス (Wi-Fi) /
Wi-Fi 電波強度

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから“有線(イーサネット)”を選択してください。無線 LAN でネットワークに接続する場合、“無線(Wi-Fi)”を選択し、“Wi-Fi 設定”を設定してください。(P.232 ページ)

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を設定します。

有線(イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線(Wi-Fi) (お買い上げ時の設定):	無線 LAN(Wi-Fi)機能を使用して、ネットワークに接続します。



Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルーターとの接続をおこないます。ルーターとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

1. 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選ぶ。
- 見つからない場合は、“再スキャン”を選択してください。
2. パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス(iPhone/iPod/iPad)を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

1. テレビ画面で“iOS を使用”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルーターに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある“新しい AIRPLAY スピーカーを設定...”から“Marantz SR6015”を選ぶ。
3. iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。



- iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 7 以降に対応している必要があります。



■ WPS ルーター

プッシュボタン方式の WPS に対応したルーターを使用してください。

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
 - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

■ マニュアル

接続したいネットワーク名 (SSID) やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名 (SSID) を入力します。
セキュリティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。

2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。



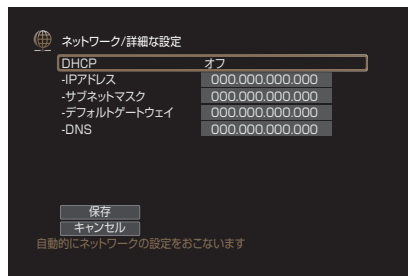


- 無線 LAN 対応のパソコンやタブレットから、本機の無線 LAN (Wi-Fi) の設定をおこなうこともできます。
 - 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と TUNER PRESET CH + を 3 秒以上長押しする。
 - ディスプレイに “Wi-Fi 機器の Wi-Fi ネットワーク一覧から、 “Marantz SR6015” を選んでください。” と表示されたら、ご使用のパソコンやタブレットの無線 LAN を “Marantz SR6015” に接続する。
 - ブラウザを起動し、URL に “192.168.1.16/settings/” を入力する。
 - ブラウザを使用して設定を入力し、“接続” を選び、設定を終了する。
- 本機の “デフォルトキー” は “1” に固定されています。ルーターの “デフォルトキー” の設定を “1” にしてご使用ください。

詳細な設定

IP アドレスを設定します。

- ブロードバンドルーター (DHCP 機能) をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が “オン” になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): ご使用のルーターから自動的にネットワークの設定をします。

オフ: 手でネットワークの設定をします。

■ IPアドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。

CLASS A: 10.0.0.1～10.255.255.254

CLASS B: 172.16.0.1～172.31.255.254

CLASS C: 192.168.0.1～192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は“255.255.255.0”を入力します。

■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ(ルーター)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスを入力してください。



- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。(P.79 ページ)
- インターネットの接続についてお分かりにならない場合は、ISP (Internet Service Provider) またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。



ネットワークコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ: スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。

常時オン
(お買い上げ時の設定): スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能や Marantz 2016 AVR Remote アプリ、HEOS アプリをご使用になる場合は、“ネットワークコントロール”の設定を“常時オン”にしてご使用ください。

ご注意

- “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

フレンドリーネーム

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。

■ フレンドリーネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。

“その他”を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room /
Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den /
Office / その他



- 30 文字まで入力できます。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、“Marantz SR6015”です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームがお買い上げ時の設定に戻ります。



診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK

エラー: LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。



- 無線 LAN で接続している場合は、“接続 無線(Wi-Fi)” を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルーターまでの通信の確認をします。

OK

エラー: ルーターとの通信に失敗しました。ルーターの設定を確認してください。

■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK

エラー:

インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続環境またはルーターの設定を確認してください。

AirPlay

Apple AirPlay 機能を設定します。

オン

(お買い上げ時の設定): Apple AirPlay 機能を有効にします。

オフ:

Apple AirPlay 機能を無効にします。



HEOS アカウント

HEOS アカウントに関する設定をします。

HEOS アカウントは、HEOS お気に入りを使用するために必要です。

表示されるメニューは、HEOS アカウントでサインインしているかどうかによって異なります。

サインインしていない場合

■ 既にアカウントをもっている

HEOS アカウントをすでに持っている場合は、既存のアカウントとパスワードを入力してサインインします。

■ アカウントを作成する

もし HEOS アカウントを持っていない場合は、新規に HEOS アカウントを作成します。

■ パスワードを再設定する

パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。

サインインしている場合

■ サインイン中

現在サインインしている HEOS アカウントを表示します。

■ 地域を変更

サインインしている HEOS アカウントの地域設定を変更します。

■ パスワードを変更

サインインしている HEOS アカウントのパスワードを変更します。

■ アカウントを削除

サインインしている HEOS アカウントを削除します。

■ サインアウト

HEOS アカウントからサインアウトします。



一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English (お買い上げ時の設定: 日本語)



• “言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“Video Format <NTSC>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 2 回押す。
ディスプレイに“GUI Language JAPANESE”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、言語を設定する。
4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイモードの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力や発熱を低減することができます。

これは、パワーアンプへ供給される電力を減少させることによって消費電力の低減をおこないます。



オン:

音量や入力信号に関わらず、常に消費電力を低減します。

音量の設定や入力信号の有無に合わせて、消費電力を自動的に最適化します。

音量を低く設定している場合は、パワーアンプへ供給している電力を下げ、消費電力を低減します。音量を上げると通常の供給電力に戻り、パワフルな再生をお楽しみいただけます。

オート


(お買い上げ時の設定):

また、音量を高く設定していても無信号の状態が2分以上続いた場合は、自動的に消費電力を低減します。このような場合は、再度再生を開始したり、入力ソースを切り替えたりすると、自動的にパワーアンプへの供給電力が通常の状態に戻ります。

オフ:

消費電力を低減しません。



- “エコモード”の設定が“オート”のときに、パワーアンプへの供給電力が切り替わると、本機内部からクリック音が聞こえることがありますが、これは正常な動作です。
- “エコモード”の設定が“オート”のとき、無信号の状態が2分以上続いたあとに再生が開始されると、音の始めがクリップすることがあります。
- リモコンの ECO  を押しても、“エコモード”を切り替えることができません。



■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

最後の設定 (お買い上げ時の設定):	前回電源をオフにする前の設定になります。
------------------------------	----------------------

オン:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。
------------	-------------------------------

オート:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。
-------------	--------------------------------

オフ:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。
------------	-------------------------------

■ オンスクリーン表示

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン:	テレビ画面に常にメーターを表示します。
--------------	---------------------

オート (お買い上げ時の設定):	モードや音量の変更時、テレビ画面にメーターを表示します。
----------------------------	------------------------------

オフ:	テレビ画面にメーターを表示しません。
------------	--------------------

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

□ MAIN ZONE

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60分:	約 60 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
30分:	約 30 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
15分:	約 15 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

□ ZONE2

音声や映像の入力があっても、何も操作がない状態が続いた場合、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8時間:	約 8 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
4時間:	約 4 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
2時間:	約 2 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的にゾーン 2 をスタンバイ状態にしません。



Bluetooth 送信

本機の Bluetooth 送信の設定をします。
メインゾーンで再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴く場合に設定してください。

■ 送信

Bluetooth 送信機能を設定します。

オフ (お買い上げ時の設定):	Bluetooth 送信機能を使用しません。
オン:	Bluetooth 送信機能を使用します。

■ 出力モード

音声の出力方法を選択します。

Bluetooth + スピーカー (お買い上げ時の設定):	音声は Bluetooth ヘッドホンとメインゾーンのスピーカーに出力されます。
Bluetooth のみ:	音声は Bluetooth ヘッドホンのみに出力されます。

■ 接続中の機器

本機に接続されている Bluetooth 機器を表示します。

■ デバイスリスト

本機に接続したい Bluetooth ヘッドホンがペアリングモードに入ると、使用可能な機器がデバイスリストに表示されます。リストから機器名を選択して本機とペアリングしてください。
本機に接続できる機器は 1 台です。最大 8 台まで Bluetooth 機器を登録することができます。メニューの“Bluetooth 送信” - デバイスリストから登録済みの機器を切り替えることができます。登録済みの機器をリストから削除したい場合は、△▽ ボタンを押して機器名を選択後、OPTION ボタンを押して“このデバイスの登録を解除”を選択してください。



- “出力モード”はオプションメニューの“Bluetooth 送信”からでも設定できます。
- Bluetooth ヘッドホンの接続と同じ操作で A2DP プロファイル対応の Bluetooth スピーカーも接続できます。

ご注意

- Bluetooth 送信機能と Bluetooth 受信機能を同時に使用することはできません。いずれかのゾーンで Bluetooth 機器の音楽を聴いている場合、このメニューは使用できません。
- “送信”を“オン”に設定していても、リモコンの Bluetooth ボタンを押して Bluetooth 入力ソースを選択すると、Bluetooth 受信機能が有効になりません。
スマートフォンなどの Bluetooth 機器に保存されている音楽を本機で再生したい場合は、リモコンの Bluetooth ボタンを押して入力ソースを“Bluetooth”に切り替えてから Bluetooth 機器と再接続してください。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、このメニューは使用できません。



ゾーン2の設定

ゾーン2で再生する音声の設定をします。



- “音量の上限”および“電源オン時の音量”の設定値は、音量の“表示方法”の設定に合わせて表示します。(p.179 ページ)

■ 低音

低音を調節します。

-10 dB~+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 高音

高音を調節します。

-10 dB~+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ ハイパスフィルター

低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力しません。

オン: 低域成分をカットして出力します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 低域成分をカットしません。

■ 左レベル

左チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 右レベル

右チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ チャンネル

ステレオで再生するかモノラルで再生するかを設定します。

ステレオ
(お買い上げ時の設定): ステレオで再生します。

モノラル: モノラルで再生します。



■ HDMI オーディオ

ゾーン2でHDMIソースを再生するための音声信号形式を設定します。

無変換 本機に入力したHDMI音声信号のまま、ゾーン2の機器に出力します。(お買い上げ時の設定)

PCM: 本機に入力したHDMI音声信号を、ZONE2プリアウト端子やスピーカー端子から出力できるようにPCM信号に変換して再生します。

■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変
(お買い上げ時の設定): 音量の調節ができます。

1 - 98 (-79 dB - 18 dB): 音量をお好みのレベルに固定します。リモコンで音量の調節はできません。



- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときにdB値を表示します。(p.179 ページ)

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60~80(-20 dB~0 dB)
(お買い上げ時の設定: 70(-10 dB))

オフ: 音量の上限を設定しません。



- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(p.245 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときにdB値を表示します。(p.179 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

前回の音量
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 常に消音状態になります。

1 - 98 (-79 dB - 18 dB): 設定した音量になります。



- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(p.245 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときにdB値を表示します。(p.179 ページ)



■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音

(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 下げて再生します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 下げて再生します。

ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2

初期化: 編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。



- 10 文字まで入力できます。

スマートセレクト名の変更

テレビ画面に表示するスマートセレクト名をお好みの名前に変更します。

スマートセレクト 1 / スマートセレクト 2 / スマートセレクト 3 / スマートセレクト 4

初期化: 編集したスマートセレクト名がお買い上げ時の設定に戻ります。



- 16 文字まで入力できます。



トリガーアウト

トリガーアウトを動作させる条件を選択します。
DC OUT 端子の接続方法については、「DC OUT 端子」(P.82 ページ)をご覧ください。

□ ゾーン(MAIN ZONE/ZONE2)に対して設定するとき

“オン”に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。

□ 入力ソースに対して設定するとき

“オン”に設定された入力ソースを選択したときにトリガーアウトが動作します。

□ HDMI モニターに対して設定するとき

“オン”に設定された HDMI モニターを選択したときに、トリガーアウトが動作します。

オン:	出力の条件にします。
---:	出力の条件にしません。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ ディスプレイの明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常 (お買い上げ時の設定):	通常の明るさです。
薄暗い:	薄暗くします。
暗い:	暗くします。
消灯:	ディスプレイを消灯します。



- 本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できません。



ファームウェア

アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新を実施します。また、アップグレードの通知メッセージ表示の設定をします。

■ アップデートの確認

ファームウェアのアップデートがあるか確認します。

アップデート可能なファームウェアがリリースされている場合は、アップデートを実行できます。

今すぐアップデートする: アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。

後でアップデートする: 後でアップデートを実行します。



- アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。アップデートできない場合には、ディスプレイに“Update Error”を表示します。アップデートエラーメッセージについては、「故障かな?と思ったら」-「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(P.279 ページ)
メッセージに従い環境の確認をおこなったうえで、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

□ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

オン: 自動でアップデートします。

オフ
(お買い上げ時の設定): 自動でアップデートしません。

□ タイムゾーン

タイムゾーンを変更します。

お住まいの地域にあったタイムゾーンを設定してください。



- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。



■ アップデートの許可

本機のアップデートおよびアップグレードを有効または無効に設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): アップデートおよびアップグレードを有効にします。

オフ: 本機のアップデートおよびアップグレードを無効にします。



- この設定をおこなうと、他の HEOS 機器や HEOS アプリとの互換性に問題が生じる場合があります。

■ アップグレードのお知らせ

最新のファームウェアのアップグレードが可能な場合は、電源をオンにしたときテレビ画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源をオンにしたときに約 40 秒間表示します。

オン
(お買い上げ時の設定): アップグレードの通知を表示します。

オフ: アップグレードの通知を表示しません。



- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。



■ 新機能の追加

本機にダウンロード可能な新機能が表示され、アップグレードがします。

アップグレードパッケージ: アップグレードする項目を表示します。

アップグレードステータス: アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。

アップグレード: アップグレードを実行します。アップグレードを開始すると、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。



- “アップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。
- お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-----”を表示します。お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。本体の STATUS と SOUND MODE を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。
- アップグレードに失敗した場合には、ディスプレイに“Upgrade Error”を表示します。アップグレードのエラーメッセージについては、「故障かな? と思ったら」-「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(P279 ページ)
この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

“アップデート”および“新機能の追加”をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(P79 ページ)
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまで、1 時間程度かかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータがリセットされる場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **⏻** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。約 1 分後、ディスプレイに“Please wait”を表示し、更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。



情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード:	設定しているサウンドモード
入力信号:	入力信号の種類
フォーマット:	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFEの有無)
サンプリング周波数:	入力信号のサンプリング周波数
オフセット:	ダイアログノーマライゼーションの補正値
フラグ:	サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

HDMI 信号情報

解像度 / HDR / カラースペース / ビット数 / ALLM / QMS / QFT

HDMI モニター 1 / HDMI モニター 2

インターフェース / HDR / 対応解像度 / 拡張機能



- 解像度の末尾に A または B が表示される場合があります。A は非圧縮映像を表し、B は圧縮映像を表します。

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

メインゾーン:	メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。
ゾーン 2:	ゾーン 2 の設定状態を表示します。



■ ファームウェア

バージョン:	現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。
DTS バージョン:	現在の DTS バージョンを表示します。

■ お知らせ

お知らせを表示します。
また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかどうかを設定します。

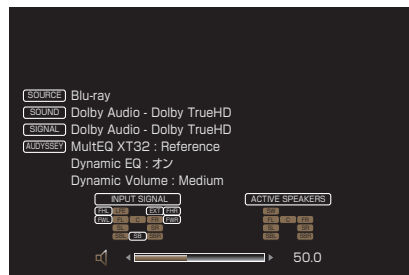
お知らせの表示

オン
(お買い上げ時の設定): 通知メッセージを表示します。

オフ: 通知メッセージを表示しません。



- INFO を押すと、現在のソース名、音量、サウンドモード名などを画面下側に表示します。



使用状況の送信設定

当社は今後の製品改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善目的のみに利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい: 本機の使用状況を情報提供します。

いいえ: 本機の使用状況を情報提供しません。

セーブ&ロード

USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。



- 空き容量が 128MB 以上で、FAT32 の形式でフォーマットされた USB メモリーが使用できます。また、USB メモリーによっては正しく保存または復元ができない場合があります。
- 保存または復元が完了するまで、10 分程度かかることがあります。完了するまで電源を切らないでください。

■ 設定を保存

USB メモリーに本機の現在の設定を保存します。

設定が正しく保存されると、ディスプレイに“Saved”を表示し、USB メモリーに“config.avr”というファイルを作成します。



- 作成されたファイルの名前を変更しないでください。変更すると、復元時に設定の保存ファイルとして認識されません。

■ 設定を復元

USB メモリーに保存した設定を本機に復元します。

保存された設定が本機に正しく復元されると、ディスプレイに“Loaded”を表示して自動的に再起動します。



セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン: 設定した内容をロックします。

オフ
(お買い上げ時の設定): 設定した内容をロックしません。



- 設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。

ご注意

- “セットアップロック”を“オン”に設定すると、“セットアップロック”以外の設定項目は表示しません。

初期化

本機の各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

すべての設定の初期化、またはネットワーク設定のみの初期化ができます。

■ すべての設定

すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

■ ネットワーク設定

ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻ります。



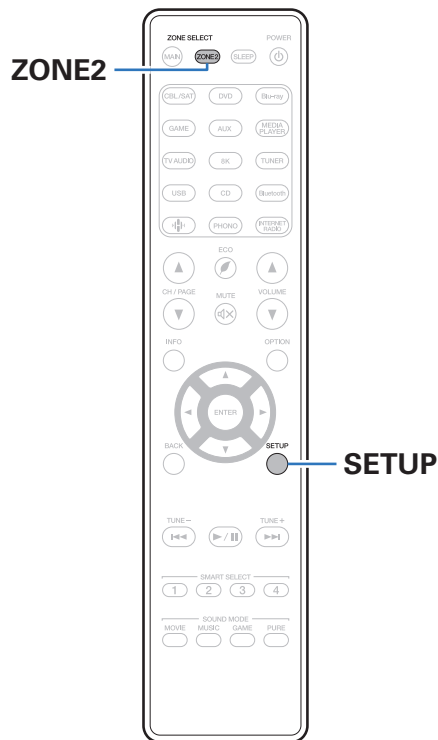
- お買い上げ時の設定に戻す前にメニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定を記憶させ、保存および復元することができます。(参照 253 ページ)
- “初期化”の操作は、本体のボタンを使用しておこなうこともできます。すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す方法については「お買い上げ時の設定に戻す」(参照 280 ページ)、ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻す方法については「ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す」(参照 281 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ネットワーク設定の初期化中は、電源コードを抜いたり、電源をオフにしたりしないでください。



リモコンで操作するゾーンを限定する



リモコンでゾーン2を操作できないように設定することができます。

- 1 ZONE2 と SETUP を長押しする。
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅します。

■ 設定を解除する

- 1 設定中に ZONE2 と SETUP を長押しする。
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅し、設定を解除します。



■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい	257
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい	257
常にサブウーハーから音を出したい	257
映画のせりふを聴きやすくしたい	257
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい	257
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい	257
スピーカーの構成や設定を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適リスニング環境に設定したい	258
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい	258
使っていない入力ソースを消したい	258
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい	258
ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい	258
テレビのリモコンで本機を操作したい	258

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	260
リモコンで操作ができない	261
本機のディスプレイが表示されない	261
音がまったく出ない	262
希望する音が出ない	263
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	266
テレビに映像が映らない	267
テレビにメニュー画面が表示されない	269
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる	269
AirPlay 再生ができない	270
USB メモリーが再生できない	271
Bluetooth が再生できない	272
インターネットラジオが再生できない	274
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	275
各種オンラインサービスが再生できない	276
HDMI コントロール機能が動作しない	276
無線 LAN ネットワークに接続できない	277
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	278
アップデート/アップグレードエラーメッセージ	279



こんなときの解決方法

誤って音量が大きくなりたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(P.179 ページ)、「音量の上限」(P.245 ページ))

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(P.179 ページ)、「電源オン時の音量」(P.245 ページ))

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(P.229 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- メニューの“センターレベルの調節”でレベルを調節してください。(P.171 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(P.181 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(P.182 ページ)



スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。(P.204 ページ)

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”で“オン”を選択してください。チューナーや CD、Phono、HEOS ミュージック、USB ミュージック、Bluetooth の音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどお好みの映像ソースを組み合わせることができます。(P.130 ページ)

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の INPUT SELECTOR つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。(P.203 ページ)

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“All Zone Stereo”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 でも同時に再生できます。(P.132 ページ)

ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい

- ゲーム機側のコントローラーのボタン操作に対し映像が遅れている場合は、メニューの“ビデオモード”を“ゲーム”に設定してください。(P.193 ページ)

テレビのリモコンで本機を操作したい

- テレビの“入力”* または“HDMI 接続した機器の操作”* などのメニューに表示された“AV Receiver”を選択します。本機のスマートメニューをテレビに表示します。このスマートメニューは、ご使用のテレビのリモコンで操作できます。
- * ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

11.1 チャンネルスピーカーシステムのフロントチャンネルに外部パワーアンプを使用したい

- メニューの“プリアウト”を“フロント”に設定して、外部パワーアンプをフロントチャンネルに接続してください。(P.221 ページ)




故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか



- 上記の手順 1～3 をおこなっても動作が改善しない場合、本機を再起動すると改善することがあります。
ディスプレイに“Restart”が表示されるまで、本体の  ボタンを押し続けるか、本機の電源コードを抜き差ししてください。

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。



電源が入らない / 電源が切れる

電源が入らない。

- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。(P.83 ページ)

電源が自動的に切れる。

- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。(P.151 ページ)
- “オートスタンバイ”が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。(P.242 ページ)


電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。

- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。(P.304 ページ)
- 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。

電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。

- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。(P.38 ページ)
- 音量を下げて、電源を入れ直してください。(P.85 ページ)
- 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならず、ディスプレイに“ZONE2 On”と表示される。

- ゾーン 2 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの ZONE2 ボタンを押したあとに、POWER  ボタンを押して、ゾーン 2 の電源をオフにしてください。



リモコンで操作ができない

リモコンで操作ができない。

- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。(P.9 ページ)
- リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。(P.9 ページ)
- 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。
- 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。(P.9 ページ)
- 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。
- 操作したいゾーンとリモコンのゾーンの設定が合っていません。MAIN または ZONE2 ボタンを押して、リモコンを操作するゾーンを選択してください。(P.170 ページ)
- 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機のディスプレイが表示されない

ディスプレイの表示が消える。

- メニューの“ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。(P.247 ページ)
- サウンドモードが“Pure Direct”になっていると、ディスプレイは消灯します。(P.136 ページ)



音がまったく出ない

スピーカーから音が出ない。

- すべての機器の接続を確認してください。(P.38 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。(P.38 ページ)
- スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけがゆるんでいないか確認してください。(P.38 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(P.85 ページ)
- 音量を適切な大きさに調節してください。(P.86 ページ)
- ミューティング(消音)モードを解除してください。(P.86 ページ)
- デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(P.200 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子およびリアアウト端子から音が出なくなります。
- Bluetooth ヘッドホンを使用して“出力モード”を“Bluetooth のみ”に設定している場合、スピーカー端子やリアアウト端子から音は出力されません。Bluetooth ヘッドホンを使用しているときにスピーカー端子やリアアウト端子から同時に音声を出力したい場合は、“出力モード”の設定を“Bluetooth + スピーカー”に変更してください。(P.243 ページ)

DVI-D 接続時に、音声がでない。

- 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。

HDMI 接続したテレビから音が出ない。

- 本機の 7.1 CH IN 端子から入力された音声信号は、テレビに出力できません。



希望する音が出ない

音量が上がらない。

- 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。(P.179 ページ)
- 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。

Bluetooth ヘッドホンの音量が下がらない。

- Bluetooth ヘッドホンの音量は、本機では調節できません。音量調整機能付きの Bluetooth ヘッドホンを使用してください。

HDMI で接続したときに、音が出ない。

- HDMI 端子の接続を確認してください。(P.66 ページ)
- HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“テレビ”に設定してください。(P.187 ページ)
- HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。(P.148 ページ)

eARC 機能対応のテレビと接続しているときに、テレビの音声の本機に接続されたスピーカーから出力されない。

- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の入カソースが“TV Audio”になっているか確認してください。
- 入カソースの“TV Audio”に HDMI 入力端子を割り当てた場合、eARC 機能が動作しません。eARC 機能を動作させるためには、HDMI 入力端子の割り当てを解除し、テレビと本機の電源を入れ直してください。(P.201 ページ)

特定のスピーカーから音が出ない。

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- メニューの“スピーカー構成”で“無し”以外になっているか確認してください。(P.222 ページ)
- メニューの“アサインモード”の設定を確認してください。(P.215 ページ)
- サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出します。
- メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”を“1 台”に設定しているときに、“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定すると、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。(P.174 ページ)
- メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”の設定が“2 台”、なおかつ“スピーカー構成” - “センター”の設定が“大”または“小”のときにサウンドモードを“IMAX DTS”に設定すると、サラウンドの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。サラウンドスピーカーからは音声を出しません。(P.223 ページ)



サブウーハーから音が出ない。

- サブウーハーの接続を確認してください。
- サブウーハーの電源を入れてください。
- メニューの“スピーカー構成”-“サブウーハー”を“1 台”または“2 台”に設定してください。(P.222 ページ)
- メニューの“スピーカー構成” - “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(P.222 ページ)
- 入力信号にサブウーハー音声信号 (LFE) が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。(P.229 ページ)
- メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(P.229 ページ)

DTS 音声が出力されない。

- 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。

Dolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。

- HDMI で接続してください。(P.70 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。

DTS Neural:X モードが選択できない。

- DTS Neural:X は、ヘッドホン使用時は選択できません。

Dolby Surround モードが選択できない。

- ヘッドホン使用時は、Dolby Surround を選択できません。

IMAX DTS:X が選択できない。

- ヘッドホン使用時は IMAX DTS:X および IMAX DTS を選択できません。ヘッドホン使用時には DTS:X および DTS を選択できます。

AAC 放送の音が途切れる。

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。



AAC として再生しない。

- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっている場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

“Stereo”と“Direct”モード以外のサウンドモードが選択できない。

- Headphone:X 信号が入力されている場合、サウンドモードは“Stereo”と“Direct”のみ選択できます。(P.251 ページ)

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™が選択できない。

- Audyssey®セットアップを実施していない場合は、選択できません。(P.204 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(P.136 ページ)
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモードで“+ Virtual:X”の場合、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®、Audyssey LFC™は選択できません。
- ヘッドホン使用時は選択できません。

“M-DAX”が選択できない。

- アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には“M-DAX”を使用することができません。(P.177 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(P.136 ページ)

ゾーン 2 用リアアウト端子やスピーカーから音が出ない。

- ゾーン 2 では、デジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに、音声の再生ができます。
- ゾーン 2 では、HDMI 端子から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに音声の再生ができます。入力信号によらずゾーン 2 で音声を再生するには、メニューの“HDMI オーディオ”の設定を“PCM”にしてください。再生機器によっては、この設定をおこなっても再生できない場合があります。この場合は、再生機器側の音声フォーマットを“PCM(2ch)”に設定してください。(P.245 ページ)
- ゾーン 2 で Bluetooth の音声を聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 30m の範囲内で使用してください。

Bluetooth ヘッドホンを使用中にサウンドモードやオーディオメニューの設定を変更できない。

- 本機は Bluetooth ヘッドホンの音声出力に対して、サウンドモードやオーディオメニューの設定を変更することはできません。



音が途切れたり、ノイズが入ったりする

インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。

- USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。
- ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。

iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。

- iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。

FM 放送または AM 放送の雑音が多い。

- アンテナの向きや位置を変えてください。(P.77 ページ)
- 本機から AM ループアンテナを外してください。
- 屋外アンテナを使用してください。(P.77 ページ)
- アンテナと他の接続ケーブルを離してください。(P.77 ページ)

音が歪んで聞こえる。

- 音量を下げてください。(P.86 ページ)
- メニューの“エコモード”を“オフ”に設定してください。“エコモード”が“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声が歪むことがあります。(P.239 ページ)

Wi-Fi 接続時に音切れがする。

- 無線 LAN で使用する周波数帯域は、電子レンジ・コードレスフォン・ゲーム機のワイヤレスコントローラー・その他の無線 LAN 機器で使います。そのため、これらの機器と本機を同時に使用すると、電波干渉により音途切れが発生する場合があります。次の方法をおこなうと、音途切れが改善される場合があります。(P.79 ページ)
 - 干渉している機器を本機から離して設置する。
 - 干渉している機器の電源を切る。
 - 本機に接続しているルーターのチャンネル設定を変更する。(チャンネルの変更のしかたは、無線ルーターの取扱説明書をご覧ください。)
 - 有線 LAN 接続に切り替える。
- 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。(P.232 ページ)



テレビに映像が映らない

映像が映らない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞66 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。(☞200 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞85 ページ)
- ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞200 ページ)
- プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。(☞251 ページ)
- テレビが著作権保護 (HDCP) に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。(☞288 ページ)
- HDCP 2.2 または HDCP 2.3 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 または HDCP 2.3 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。
- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。アナログ接続をしてください。(☞289 ページ)
- 4K の映像を再生したい場合は、“High Speed HDMI Cable” または “High Speed HDMI Cable with Ethernet” をご使用ください。より高品位に 4K の映像を楽しむために、HDMI Premium Certified Cable のラベルが製品のパッケージに貼られている “Premium High Speed HDMI Cables” または “Premium High Speed HDMI Cables with Ethernet” のご使用をおすすめします。
- “Ultra High Speed 48 Gbps HDMI cable” を使用して、8K または 4K 120Hz の映像をお楽しみください。

DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。

- DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護 (HDCP) によって正しく動作しない場合があります。(☞288 ページ)



ゲーム機などの映像がテレビに映らない。

- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。入力した端子と同じ種類のモニター出力端子に接続してください。

メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。

- 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。
 - ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像
 - ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像
 - ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
 - ・4K または 8K の映像
 - ・HDR 信号の種類による
 - ・ゲームコンテンツの種類による
 - ・圧縮映像

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。



テレビにメニュー画面が表示されない

テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。

- ・メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。
- ・次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。
 - ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像
 - ・コンピューター解像度 (例: VGA) の映像
 - ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
 - ・HDR 信号の種類による
 - ・ゲームコンテンツの種類による
 - ・圧縮映像
- ・テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。(P.252 ページ)
- ・ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面や操作内容を表示しません。ピュアダイレクト以外のサウンドモードに切り替えてください。(P.135 ページ)
- ・メニューの“TV フォーマット”をご使用のテレビに合わせて設定してください。(P.199 ページ)

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が違う。

- ・Dolby Vision 信号を再生中に本機を操作すると、表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる場合があります。これは Dolby Vision 信号の特性により起こるもので、故障ではありません。



AirPlay 再生ができない

iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコンが表示されない。

- 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク (LAN) に接続されていません。本機と同一の LAN に接続してください。(P.79 ページ)
- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。

音が出ない。

- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。
- AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコンをクリックして、本機を選択してください。(P.122 ページ)

iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。

- iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。
- 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。

リモコンで iTunes の再生操作ができない。

- iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。



USB メモリーが再生できない

USB メモリーが認識できない。

- USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。(P.76 ページ)
- マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。
- 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。
- USB メモリーのフォーマットを“FAT32”または“NTFS”に設定してください。
- すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。

USB メモリー内のファイルを表示しない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(P.87 ページ)
- 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。
- USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。

iOS および Android 機器が認識できない。

- 本機の USB 端子は、iOS および Android 機器の再生には対応していません。

USB メモリーのファイルを再生できない。

- 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。(P.291 ページ)
- 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしています。本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。



Bluetoothが再生できない

本機に Bluetooth 機器が接続できない。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください、Bluetooth 機能を有効にしてください。
- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。
- ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。

スマートフォンなどの Bluetooth 機器と接続できない。

- “送信”を“オン”に設定している場合は、スマートフォンなどの Bluetooth 機器を接続できません。リモコンの Bluetooth ボタンを押して入力ソースを“Bluetooth”に切り替えてから Bluetooth 機器を接続してください。(P.243 ページ)

Bluetooth ヘッドホンを接続できない。

- Bluetooth ヘッドホンを本機に近づけてください。
- Bluetooth ヘッドホンの電源を入れ直してからお試しください。
- メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で、“送信”を“オン”に設定してください。(P.243 ページ)
- 本機が別の Bluetooth ヘッドホンに接続されていないことを確認してください。リモコンの INFO ボタンまたは本体の STATUS ボタンを押すと、Bluetooth ヘッドホンの接続状態を確認することができます。本機が別の Bluetooth ヘッドホンに接続されている場合は、現在接続されている Bluetooth ヘッドホンを切断してから、使用したい Bluetooth ヘッドホンを接続してください。
- いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択している場合は、Bluetooth ヘッドホンを接続できません。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、Bluetooth ヘッドホンは接続できません。Bluetooth ヘッドホンを使用する場合は、本機をグループから外してください。
- Bluetooth ヘッドホンが A2DP プロファイルに対応していない場合は、本機に接続することはできません。
- 著作権保護技術(SCMS-T)に対応した Bluetooth ヘッドホンのご使用をおすすめします。すべての Bluetooth 機器に対して接続や動作を保証するものではありません。
- 本機に接続できる機器は 1 台です。最大 8 台まで Bluetooth 機器を登録することができます。メニューの“Bluetooth 送信” - “デバイスリスト”から登録済みの機器を切り替えることができます。(P.243 ページ)



音が途切れる。

- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。
- 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。
- Bluetooth の再接続操作をおこなってください。

Bluetooth ヘッドホンを使用すると音が途切れる、またはノイズが発生する。

- Bluetooth ヘッドホンの本機に近づけてください。
- 本機と Bluetooth ヘッドホンの間にある障害物を取り除いてください。
- Bluetooth ヘッドホンを再接続してください。
- 電波干渉がおきないように、本機を電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から離してください。
- 本機および他の機器のルーターへの接続は、有線 LAN 接続をおすすめします。
- Bluetooth は 2.4GHz 帯域を使用しており、Wi-Fi の 2.4GHz 帯域の電波と干渉する可能性があります。使用しているルーターの Wi-Fi が 5GHz 周波数帯域に対応している場合、本機および他の機器の Wi-Fi 接続を 5GHz 周波数帯域に変更してください。

Bluetooth ヘッドホンの音声が遅延する。

- 本機は Bluetooth ヘッドホンの音声遅延を調節することはできません。



インターネットラジオが再生できない

ラジオ局のリストが表示されない。

- LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。(☞ 79 ページ)
- ネットワークの診断モードをおこなってください。

インターネットラジオが再生できない。

- 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。(☞ 294 ページ)
- ルーターのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。
- IP アドレスが正しく設定されていません。(☞ 234 ページ)
- ルーターの電源が入っているか確認してください。
- IP アドレスを自動で取得する場合は、ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。(☞ 234 ページ)
- IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレスを設定してください。(☞ 234 ページ)
- 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。(☞ 107 ページ)
- ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。

お気に入りに登録したラジオ局に接続できない。

- ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。



パソコン内やNAS内の音楽ファイルが再生できない

パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。

- ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。(P.293 ページ)
- 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。
- メディアの共有設定が正しくありません。本機がアクセスできるように設定を変更してください。詳しくはメディアの取扱説明書をご覧ください。

サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。

- パソコンまたはルーターのファイアウォールがはたらいしています。接続しているパソコンまたはルーターのファイアウォールの設定を確認してください。
- パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。
- サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。
- 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。(P.231 ページ)

パソコン内の音楽ファイルが再生できない。

- 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。(P.79 ページ)

パソコン内やNAS内のファイルが表示されない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(P.293 ページ)

NAS に保存した曲が再生できない。

- DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。
- DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこなない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。
- 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。



各種オンラインサービスが再生できない

各種オンラインサービスが再生できない。

- サービスが終了している可能性があります。

HDMI コントロール機能が動作しない

HDMI コントロール機能が動作しない。

- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。(🔍189 ページ)
- HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。(🔍148 ページ)
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。(🔍148 ページ)
- HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。(🔍148 ページ)
- HDMI MONITOR 2 端子は、HDMI コントロール機能に対応していません。HDMI MONITOR 1 端子を使用してテレビと接続してください。(🔍66 ページ)



無線 LAN ネットワークに接続できない

ネットワークに接続できない。

- ネットワーク名 (SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と、本機の設定内容を合わせてください。(P.233 ページ)
- 無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しをよくしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。
- アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。
- 本機は WEP (TSN) との互換性はありません。

WPS ルーターに接続ができない。

- ルーターの WPS モードが動作しているか確認してください。
- ルーターの WPS ボタンを押してから、2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンを押してください。
- WPS2.0 規格に対応したルーター/設定が必要です。暗号化タイプを“無し”、“WPA-PSK (AES)”または WPA2-PSK (AES) に設定してください。(P.233 ページ)
- ルーターの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。

iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。

- iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。
- また、無線接続で設定する場合は、iOS 7 以降に対応している必要があります。



HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。

HDMI ZONE2 機能を使用中、映像や音声がゾーン 2 のテレビから出力されない。

- ゾーン 2 の電源がオンになっているか確認してください。(P.164 ページ)
- ゾーン 2 の入力ソースを確認してください。(P.164 ページ)
- フロントパネルの AUX-HDMI 端子およびリアパネルの HDMI 7 端子は、HDMI ZONE2 機能に対応していません。
- ゾーン 2 では入力信号が HDMI 信号のときのみ再生できます。
- テレビが HDMI ZONE2 から出力した音声フォーマットに対応していない場合は、テレビから音声を出力しません。再生機器の音声フォーマットを“PCM”に設定してください。または、メニューの“ゾーン 2 の設定” - “HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。(P.245 ページ)
- テレビが入力された映像の解像度に対応していない場合は映像を出力しません。再生機器の出力解像度をテレビが対応している解像度に合わせて設定してください。

HDMI ZONE2 機能を使用中に、メインゾーンの音声が PCM で再生される。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、ゾーン 2 のテレビの仕様に合わせて入力ソースの音声フォーマットを制限することがあります。



アップデート/アップグレードエラーメッセージ

アップデート/アップグレードが中断または失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示	説明
Connection failed. Please check your network, then try again.	ネットワークの回線が不安定です。 サーバーとの接続に失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Update failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Upgrade failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Please check your network, unplug and reconnect the power cord, and try again.	アップデートに失敗しました。 本体の ⏻ ボタンを 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。 アップデート後は自動的に再起動します。
Please contact customer service in your area.	機器が故障している可能性があります。 お客様相談センターにお問い合わせください。

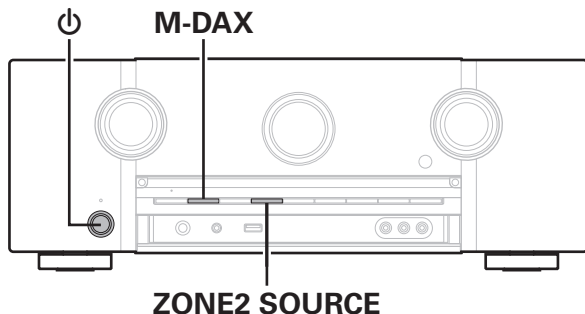


お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などに本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(P.259 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



- 1 電源ボタンを押して、電源を切る。
- 2 M-DAX と ZONE2 SOURCE を同時に押しながら、電源ボタンを押す。
- 3 ディスプレイに“Initialized”が表示されたら、2つのボタンから指を離す。



- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(P.253 ページ)
- メニューの“初期化” - “すべての設定”ですべての設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(P.254 ページ)



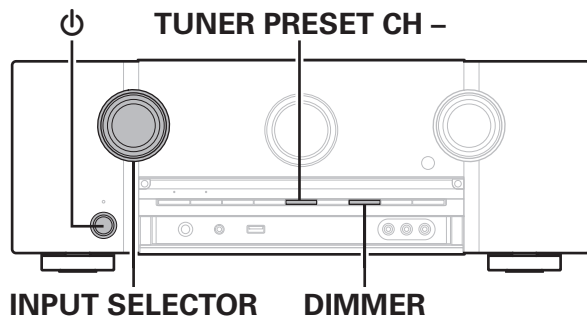
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す

ネットワークコンテンツの再生やネットワーク接続ができない場合に、本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(P.259 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

ネットワーク設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。

ただし、メニューの“アンプの割り当て”、“スピーカー構成”および“ビデオ”の設定などは、リセットされません。



- 1 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる。
- 2 INPUT SELECTOR を回して、“HEOS Music”を選ぶ。
- 3 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と TUNER PRESET CH - を同時に 3 秒以上長押しする。
- 4 ディスプレイに“Network Reset...”が表示されたら、2つのボタンから指を離す。
- 5 リセットが完了すると、ディスプレイに“Completed”を表示する。



- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(P.253 ページ)
- メニューの“初期化” - “ネットワーク設定”でネットワーク設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(P.254 ページ)

ご注意

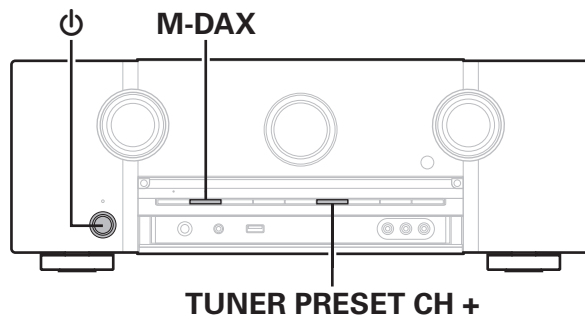
- リセットが完了するまで、電源を切らないでください。



お買い上げ時のファームウェアに復元する

本機やネットワーク機能が正しく動作しない場合に、お買い上げ時のファームウェアに復元すると改善できる場合があります。「お買い上げ時の設定に戻す」や「ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す」を試しても動作しない場合にこの操作をおこなってください。(P.280、281 ページ)

ファームウェアを復元すると各種設定内容がお買い上げ時の設定に戻ります。再度設定およびファームウェアのアップデートをおこなってください。



1 M-DAX と TUNER PRESET CH + を同時に押しながら、電源を押す。

2 ディスプレイに“Restore FW...”が表示されたら、ボタンから指を離す。

ファームウェアの復元が完了するとディスプレイに“Complete”が約 5 秒間表示され、本機を自動的に再起動します。



- この操作はネットワークへの再接続、ファームウェアの復元およびアップデートを伴うため時間がかかります。
- この操作をおこなっても改善できない場合は、お客様相談センターにお問い合わせください。

ご注意

- ファームウェアの復元が完了するまで、電源を切らないでください。



保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。



■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるためのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。



HDMI について

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。

HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD、DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。

また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8bit(256 階調)ずつで表現するところを、10bit(1024 階調)、12bit(4096 階調)、16bit(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。

HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

- **x.v.Color**

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

“x.v.Color” はソニーの登録商標です。

- **3D**

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

- **4K / 8K**

本機は、HDMI 規格の 4K(3840×2160 ピクセル)および 8K(7680×4320 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

- **Content Type**

この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

- **Adobe RGB color、Adobe YCC601 color**

Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

- **sYCC601 color**

“x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

- **ALLM (Auto Low Latency Mode)**

本機は ALLM 機能に対応したテレビとゲーム機を組み合わせで使用する場合、再生するコンテンツによって自動的に低遅延モードに切り替わります。



• オートリップシンク

映像と音声のずれを自動的に補正します。
オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。

• HDMI パススルー

本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。

• HDMI コントロール

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

• 電源オフ連動

テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。

• 音声出力先の切り替え

テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることができます。

• 音量調節

テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。

• 入力ソースの切り替え

テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。

プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

• ARC (Audio Return Channel)

HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。

これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。

• eARC (Enhanced Audio Return Channel)

eARC 機能は、従来の ARC 機能から拡張された機能であり、HDMI コントロール制御を介さず eARC 機能専用制御のもと、本機でテレビの音声を再生する機能です。さらに、eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応していなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。



- **VRR(Variable Refresh Rate):**

VRR は、映像の遅れや乱れ、チラツキを減らしたり取り除くことでよりなめらかなゲームプレイを実現します。

- **QMS(Quick Media Switching):**

QMS は、映画やビデオに対して表示が切り替わる時に黒画になることなくスムーズに画面を切り替えられます。

- **QFT(Quick Frame Transport):**

QFT は、遅延時間を軽減することでよりスムーズなゲームやリアルタイムの仮想現実などを実現します。

■ 対応する音声フォーマット

2チャンネルリニア PCM	2チャンネル、32kHz~192kHz、16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1チャンネル、32kHz~192kHz、16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby Atmos / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS:X / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC / MPEG-4 AAC
DSD	2チャンネル~5.1チャンネル、2.8MHz

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 8K 60/50/30/25/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 120/100/60/50/30/25/24Hz



著作権保護システムについて

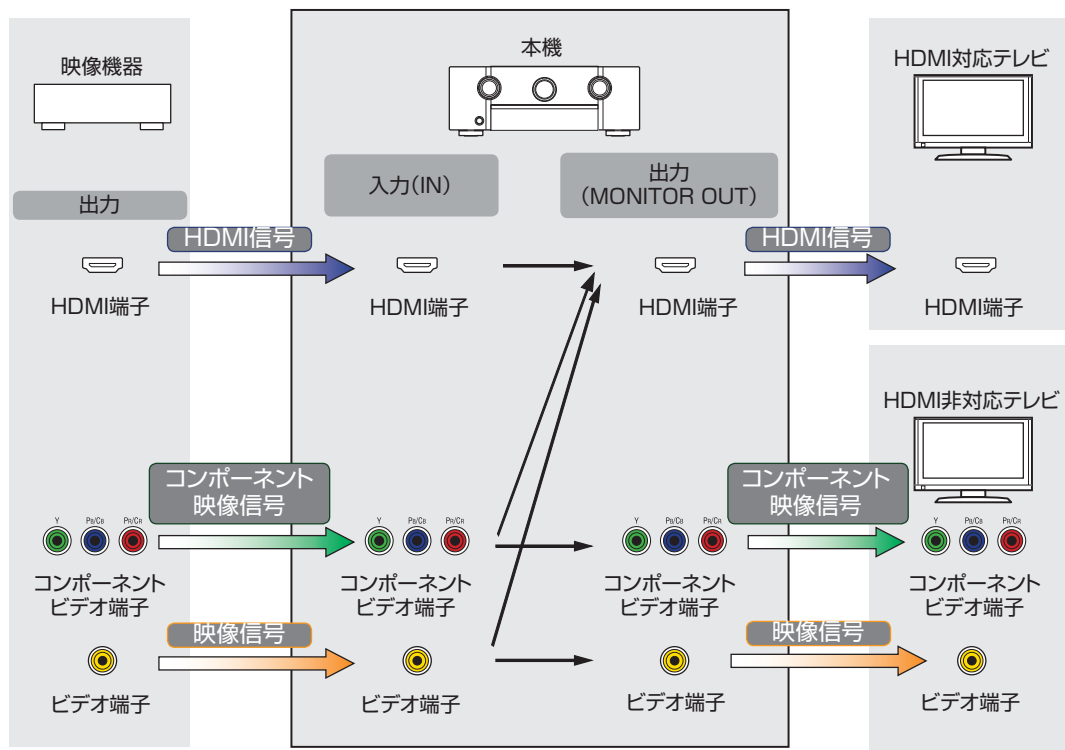
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



ビデオコンバージョン機能

本機は、入力された映像信号を、図のように自動的に変換してテレビに出力します。



- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- コンポーネントビデオ信号を使用すると、480i および 576i 信号のみが HDMI 信号に変換されます。



本機では、入力された映像信号を、メニューの“解像度”で設定した解像度に変換してテレビに出力できます。(P.194 ページ)

入力信号		出力信号	HDMI									
			480i/576i	480p/576p	720p	1080i	1080p 30/25/24Hz	1080p 60/50Hz	4K 30/25/24Hz	4K 60/50Hz	4K 120/100Hz	8K 30/25/24Hz
HDMI	480i/576i	✓	✓	✓	✓		✓		✓			✓
	480p/576p		✓	✓	✓		✓		✓			✓
	720p			✓	✓		✓		✓			✓
	1080i			✓	✓		✓		✓			✓
	1080p 30/25/24Hz					✓		✓			✓	
	1080p 60/50Hz						✓		✓			✓
	4K 30/25/24Hz							✓			✓	
	4K 60/50Hz								✓			✓
	4K 120/100Hz									✓*		
	8K 30/25/24Hz										✓*	
8K 60/50Hz											✓*	
コンポーネント ビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓		✓		✓			✓
	480p/576p											
	720p											
	1080i											
	1080p											
ビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓		✓		✓			✓

* HDMI 7 端子のみ対応しています。



USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~320kbps	.aac/.m4a
FLAC	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.flac
Apple Lossless*2	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	—	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC) デコーダは Apache License Version 2.0 (<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>) に基づいて配布されています。



■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目	メディア	USB メモリー
フォルダの階層数 *1		8 階層
フォルダ数		500
ファイル数 *2		5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く



パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、ネットワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC/Apple Lossless/DSD)または 349×349 (MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~320kbps	.aac/.m4a
FLAC	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.flac
Apple Lossless*2	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	—	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリップングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>)に基づいて配布されています。



インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32~320kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	48~320kbps	.aac/ .m4a

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT32、Dynamic EQ、Dynamic Volume、M-DAX やオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



- “サウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶しません。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。



用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ®は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Audyssey Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ® XT32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey LFC™(Low Frequency Containment)

Audyssey LFC™は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

Audyssey MultEQ® XT32

Audyssey MultEQ® XT32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。

Audyssey MultEQ® XT32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。



■ Dolby

Dolby Atmos

映画館で最初に導入された Dolby Atmos は、ホームシアターに新しい革命的なサウンド体験をもたらします。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、三次元空間を独立した動きのあるサウンド(またはオブジェクト)を、よりクリアで、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、リスナーの上方に音場を導入したことで、自然でリアルなサウンド体験を実現し、リスナーをストーリーに引き込みます。

Dolby Atmos Stream

Dolby Atmos のコンテンツは、ブルーレイディスクやストリーミングメディアから、Dolby Digital Plus または Dolby TrueHD 方式で提供されます。Dolby Atmos 信号には、音の位置が記録されているメタデータが含まれています。これにより、あらゆるスピーカー構成のホームシアター環境でも最適な音像再生になるように調節されます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル (FL、FR、C) とサラウンド 2 チャンネル (SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスク対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Surround

Dolby サラウンドは 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツをあなたのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生する次世代のサラウンドテクノロジーです。Dolby サラウンドは Dolby Atmos を再生できるシステムだけではなく、従来のスピーカーレイアウトにも互換性があります。



Dolby Speaker Technology(Dolby Atmos Enabled スピーカー)

Dolby Atmos Enabled スピーカーは、天井にスピーカーを設置する代わりに、天井に向け音を出し再生音を反射させ、頭上からの音を実現させることができる技術を搭載したスピーカーです。このスピーカーはスピーカードライバーが上向きに取り付けられている独特な構造と特別な信号処理機能を持っています。従来のスピーカーと一体になっているものや従来のスピーカーの上に乗せて使用するものがあります。従来のスピーカーシステムと同様のスピーカー設置環境のまま Dolby Atmos と Dolby サラウンドの再生環境を提供します。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

スピーカーバーチャライザー

Dolby Atmos のハイトバーチャライザーは人間の音声認識メカニズムを利用してオーバーヘッドスピーカーを設置しないスピーカー配置でも立体的な音声を作り出すドルビーのデジタル信号処理ソリューションです。

この信号処理はオーディオ信号に含まれるオーバーヘッド成分が一般的なスピーカーにミックスされる前にハイトキューフィルタを適用します。

これらのフィルターは、オーバーヘッドの音声に対して私たちの耳によって与えられる自然なスペクトルをシミュレートしています。

ステレオや 3.1 チャンネルのスピーカー構成においては、Dolby Atmos のハイトバーチャライザーとサラウンドバーチャライザーを組み合わせ、360 度の音声を包み込む空間を作り出します。

■ DTS

ダイアログコントロール

ダイアログコントロールは、映画のせりふや音楽のボーカルの音声を収録しているオブジェクトの音量のみを好きな音量に調節する技術です。ダイアログコントロール対応の DTS:X 信号が入力されたときに設定できます。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリットサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。



DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声に対応しています。余裕のあるデータビットレートによって高音質化を図っています。また、この信号フォーマットには従来の 5.1 チャンネル DTS デジタルサラウンドのデータも含んでいるため、従来製品とも互換性があります。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との互換性を有しています。

DTS:X

DTS:X はリスニングポイントを包み込むようにスピーカーを設置することで、立体的な音場空間を再現します。また、オブジェクトとして記録された音像がスピーカー間をスムーズに移動することで、自然でリアルなサウンド体験を実現します。

DTS Neural:X

DTS Neural:X は 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツを、お使いのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生します。DTS:X のコンテンツだけではなく、従来のコンテンツでも、立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

DTS Virtual:X

DTS Virtual:X は、部屋のサイズ、レイアウトまたはスピーカー構成に関係なく、多次元サウンドをお楽しみいただけます。

IMAX®

IMAX®はプレミアムな大型スクリーンでの映像体験と、豊かで深みのある音響体験が組み合わされた先進的な映像プロジェクション技術であり、世界中で称賛されています。



■ 音声

Apple Lossless Audio Codec

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60～70%に圧縮されたデータを完全に元どおりのデータに再現します。

FLAC(Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。



AAC

MPEG-2/MPEG-4 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG (Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。

地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

MPEG(Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

WMA(Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいくほど原音に近い音を再現できます。



スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ 映像

ISF

ISF (Imaging Science Foundation) は、設置条件に合わせたキャリブレーション調整が可能な映像技術者の認定をおこなっている団体です。また、機器の映像性能を最適化するための品質基準の制定もおこなっています。

プログレッシブ(順次走査)

映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。



■ ネットワーク

AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一の WEP キー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一の WEP キーを設定する必要があります。

Wi-Fi®

無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来の SSID(ネットワーク名)や WEP キー(ネットワークキー)に加えて、ユーザー認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。

WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA-PSK/WPA2-PSK(Pre-shared Key)

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

ネットワーク名(SSID: Service Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID(ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっていきます。簡易ネットワークを構成する場合に適しています。



■ その他

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

ペアリング

ペアリング(登録)とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。

はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。



登録商標について



Apple, AirPlay, iPad, iPad Air, iPad Pro and iPhone are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.

Use of the Works with Apple badge means that an accessory has been designed to work specifically with the technology identified in the badge and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

AUDYSSEY
MULTEQ XT32
DYNAMIC VOLUME

AUDYSSEY
LFC

本機は、Audyssey Laboratories™からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey LFC™は、Audyssey Laboratories の登録商標です。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby, Dolby Atmos, Dolby Audio, Dolby Surround, Dolby Vision およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。





DTS の特許については、<http://patents.dts.com> をご覧ください。
DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせ、DTS、DTS:X ロゴ、Virtual:X および DTS Virtual:X ロゴは、米国および/またはその他の国における商標または DTS, Inc. の登録商標です。© DTS, Inc. 著作権所有。



HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

HDR10+™ logo は、HDR10+ Technologies, LLC. の商標です。



本機は IMAX Corporation 社からのライセンス契約に基づき製造されています。IMAX®は、米国およびその他の国における IMAX Corporation の登録商標です。著作権所有。DTS の特許については、<http://patents.dts.com> をご覧ください。DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせは、米国および/またはその他の国における商標または DTS, Inc. の登録商標です。著作権所有。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。
無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。



主な仕様

■ オーディオ部

・ パワーアンプ部

定格出力:

フロント:

110W + 110W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08%)

150W + 150W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

センター:

110W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08%)

150W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

サラウンド:

110W + 110W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08%)

150W + 150W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

サラウンドバック/ハイト 1/ハイト 2:

110W + 110W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08%)

150W + 150W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

実用最大出力:

190W + 190W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 2チャンネル駆動 JEITA)

220W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 1チャンネル駆動 JEITA)

出力端子:

4~16Ω

• アナログ部

入力感度:	200 mV
周波数特性:	10Hz~100kHz:+1,-3dB(Direct モード時)
S/N 比:	100dB(IHF-A, Direct モード時)
ひずみ率:	0.005%(20Hz~20kHz)(Direct モード時)
定格出力:	1.2V

• デジタル部

D/A 出力:	定格出力 — 2V(0dB 再生時) 全高調波ひずみ率 — 0.008%(1kHz, 0dB) S/N 比 — 102dB ダイナミックレンジ — 100dB
デジタル入力:	フォーマット — デジタルオーディオインターフェース

• フォノ・イコライザー部

入力感度:	2.5 mV
RIAA 偏差:	±1dB(20Hz~20kHz)
S/N 比:	74dB(IHF-A)
ひずみ率:	0.03%(1kHz, 3V 出力時)



■ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル/インピーダンス: 1Vp-p、75Ω
 周波数特性: 5Hz~10MHz:0、-3dB

• コンポーネントビデオ端子

入出力レベル/インピーダンス: Y信号:1Vp-p/75Ω
 P_B/C_B信号:0.7Vp-p/75Ω
 P_R/C_R信号:0.7Vp-p/75Ω
 周波数特性: 5Hz~60MHz:0、-3dB

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0MHz~95.0MHz	522kHz~1629kHz
実用感度:	1.2μV(12.8dBf)	18μV
50dB感度:	モノ:2.8μV(20.2dBf)	
S/N比:	モノ:70dB(IHF-A, Directモード時) ステレオ:67dB(IHF-A, Directモード時)	
ひずみ率:	モノ:0.7%(1kHz, 100%変調時) ステレオ:1.0%(1kHz, 90%変調時)	



■ 無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 (Wi-Fi®準拠)*1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK (AES) WPA/WPA2-PSK (TKIP)
使用周波数帯域:	2.4GHz, 5GHz

*1 Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。

■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 4.2
送信出力	Bluetooth Specification Power Class 1
最大通信範囲:	見通し距離 約 30m *2
使用周波数帯域:	2.4GHz
変調方式:	FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum)
対応プロファイル:	受信機能 A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) 1.2 AVRCP (Audio Video Remote Control Profile) 1.5 送信機能 A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) 1.2
対応コーデック:	SBC
伝送範囲 (A2DP):	20Hz~20,000Hz

*2 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。



■ 総合

動作温度:	5° C~35° C
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	680W
スタンバイ時の消費電力:	0.2W *
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W

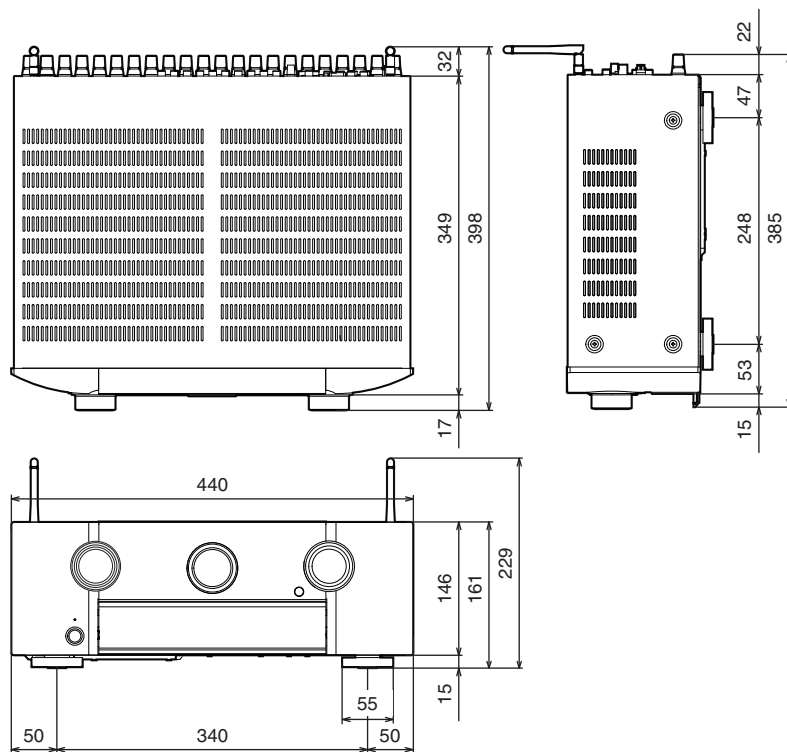
* メニューの“ネットワークコントロール”設定が“スタンバイ時オフ”で、なおかつ“HDMI パススルー”設定が“オフ”のとき

JEITA: (社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。



■ 寸法(単位:mm)



■ 質量: 12.8kg

使用上のご注意

■ 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

■ お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

■ 結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ~ 2 時間放置してから使用してください。



索引

英数字

11.1 チャンネル	56
3D	285
4K/8K	285
5.1 チャンネル	35, 44
7.1 チャンネル	35, 45
9.1 チャンネル	49

A

AirPlay	121
All Zone Stereo	132
Audyssey Dynamic EQ®	295
Audyssey Dynamic Volume®	295
Audyssey LFC™	295
Audyssey MultEQ® XT32	295
Audyssey Sub EQ HT™	205
Audyssey®セットアップ	204
Audyssey の設定	180, 206

B

Bluetooth 機器	92
--------------	----

D

Dolby Atmos	296
DTS サウンドモード	139, 298
DVD プレーヤー	71, 86

F

FM/AM アンテナ	77, 99
------------	--------

H

HDCP	288
HDMI コントロール	148, 189
HEOS アカウント	113, 238
HEOS お気に入り	126

M

M-DAX	177
-------	-----

N

NAS	108
-----	-----

P

PCM マルチチャンネルサウンドモード	141
---------------------	-----

S

Spotify	124
---------	-----

U

USB メモリー	76, 87
----------	--------

W

Wi-Fi の設定	232
-----------	-----

い

一般の設定	169, 239
インターネットラジオ	106

う

ウェブコントロール	159
-----------	-----



え

衛星放送チューナー	70
映像の設定	166, 185
エコモード	239

お

オーディオの設定	166, 171
オートサウンドモード	137
オートスタンバイ	242
お買い上げ時の設定に戻す	280
オリジナルサウンドモード	141
音声フォーマット 287, 291, 293, 294	
音量	86, 128

か

外部コントロール機器	81
------------------	----

け

ケーブルテレビ	70
ゲーム機	73

こ

故障かな?と思ったら	259
こんなときの解決方法	257

さ

サウンドモード	135
---------------	-----

す

ステレオサウンドモード	142
スピーカーを接続する	38
スピーカーの設定	167, 204
スリープタイマー	151

せ

セットアップアシスタント	169
セットトップボックス	70

そ

ゾーン2	62, 161
------------	---------

た

ダイレクトサウンドモード	142
--------------------	-----

て

ディスプレイ	21
テレビ	66, 67, 68

と

トーンコントロール	129
ドルビーサウンドモード	138, 296

に

入力ソース	85
入力端子の割り当て	200
入力の設定	167, 200

ね

ネットワークの設定	231
-----------------	-----



は

バイアンプ	60
パソコン	108

ひ

ピクチャーモード	131
ビデオカメラ	73
ビデオコンバージョン	193, 289
ビデオセレクト	130
ピュアダイレクト	136

ふ

ファームウェアのアップデート	248
ブルーレイディスクプレーヤー ..	71, 86
フロントパネル	17

へ

ペアリング	92, 93
-------------	--------

ほ

保護回路について	304
----------------	-----

み

ミュートイング	86
---------------	----

む

無線 LAN の接続	80, 232
------------------	---------

め

メニュー 一覧	166
---------------	-----

ゆ

有線 LAN	79, 231
--------------	---------

り

リアパネル	23
リスニングポイント	204
リモコン	27



当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 0570 (666) 112 または
050 (3388) 6801

FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 10:00～18:00
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)
- お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。
<https://marantz-jp.custhelp.com/app/answers/list>
- メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<https://marantz-jp.custhelp.com/app/ask>

* 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 811

■ 受付時間 9:30～12:00、13:00～17:30
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)

■ 上記番号がご利用いただけない場合  0466 (86) 9520

■ 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
<https://www.marantz.jp/ja-jp/support/serviceinformation>

■ 代表修理窓口

首都圏サービスセンター

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 2010-16

FAX : 0466 (86) 9522

* ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。お持ち込みいただいても受け取ることができませんのでご了承ください。

marantz

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

3520 10740 00AMA

©2020 Sound United. All Rights Reserved.